

成田市健康増進計画

【2017年4月～2027年3月】

中間評価報告書

令和5年3月
成田市

目次

第1章 成田市健康増進計画とは

1. 計画の位置付け	1
2. 計画の期間	1
3. 基本理念	1
4. 体系図	2

第2章 中間評価の概要

1. 中間評価の目的	3
2. 評価方法	3
3. 目標値の達成状況	4

第3章 分野別の取り組みと評価結果

【基本目標1】 健康寿命の延伸に取り組みます	6
基本施策1. 生活習慣病の発症予防と重症化予防対策の推進	6
基本施策2. 栄養と食生活の充実	16
基本施策3. 適度な身体活動・運動の継続	26
基本施策4. 休養とこころの健康づくり	36
基本施策5. 禁煙・受動喫煙防止対策・適正飲酒への取り組み	45
基本施策6. 歯と口腔の健康づくり	53
【基本目標2】 ライフステージに合わせた健康づくりを行います	60
基本施策1. 安心して子どもを産み育てられる支援体制の充実（妊娠出産期・乳幼児期）	60
基本施策2. 次世代に向けた保健対策の充実（青少年期）.....	67
基本施策3. 生活習慣病の発症予防と重症化予防対策の推進（壮年期） （基本目標1-基本施策1 再掲）	
基本施策4. 介護・認知症予防対策（高年期）.....	68
【基本目標3】 地域の支えあいによる健康づくりを推進します.....	69
基本施策1. 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり	69
基本施策2. 継続的な健康づくりに取り組むための地域づくり	73
【基本目標4】 健康を支える環境を整えます	76
基本施策1. 地域医療の推進	76
基本施策2. 健康づくりに関する社会資源の整備	81

第1章 成田市健康増進計画とは

1. 計画の位置付け

- (1) 本計画は、健康増進法第8条第2項に基づく健康増進計画であり、市民の健康増進の総合的な推進を図るための方向性や目標を定めるものです。
- (2) 本計画は、国の「健康日本21（第二次）」「健やか親子21（第2次）」の地方計画として、市民の健康づくりを、市民や関係機関・団体、事業者等と行政が一体となって推進するための行動計画です。
- (3) 本計画は、県の「健康ちば21（第2次）」を踏まえ、「成田市総合計画」との整合性を図るとともに、市の各種計画と相互に連携しながら推進するものです。

2. 計画の期間

本計画の期間は、平成29年度から令和8年度までの10年間です。令和4年度に中間評価を行い、その後の市民の健康づくりに関する施策に反映させます。

	平成25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
国 健康日本21 （第二次）	→													
千葉県 健康ちば21 （第2次）	→													
国 健やか親子21 （第2次）			→											
成田市 健康増進計画				→										

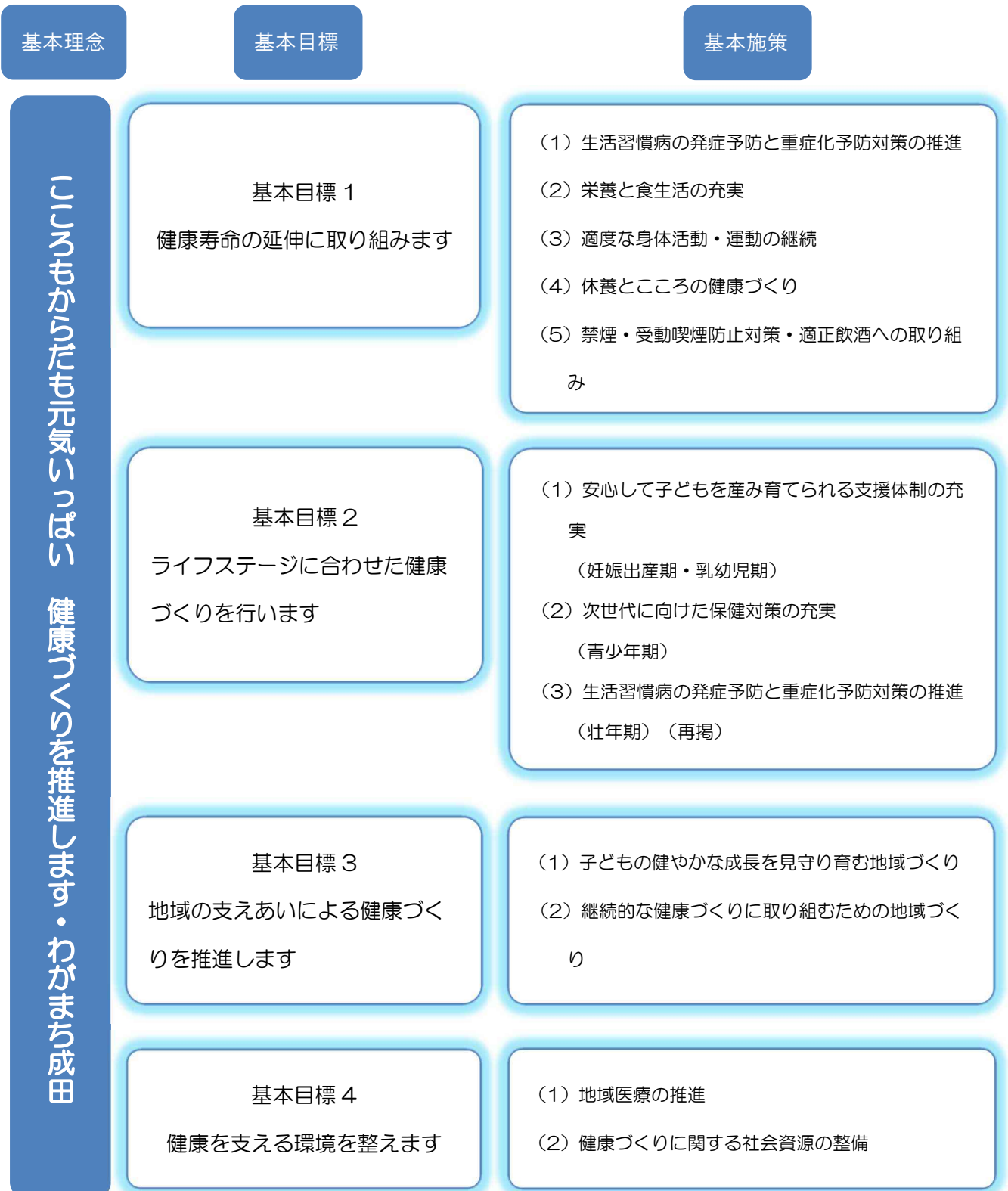
3. 基本理念

こころもからだも元気いっぱい
健康づくりを推進します
わがまち成田

市民一人ひとりが、心身ともに健康で生きがいのある生活を送るためには、個人や家庭における主体的な健康づくりと併せ、自主グループや自治会、行政等による健康を支援する環境づくりが必要です。

本計画は、病気や障がいの有無に関わらず、子どもから高齢者まで、すべての市民が健康やかに明るくいきいきと生活することができるよう「こころもからだも元気いっぱい 健康づくりを推進します・わがまち成田」を基本理念とします。

4. 体系図



第2章 中間評価の概要

1 中間評価の目的

本計画は、平成29年度から令和8年度までの10年間を計画期間としています。中間年を目途に指標項目の達成状況や取り組みを振り返ることで、本計画の達成状況や課題を把握し、基本目標の実現に向けた今後の施策や事業の方向性を定めます。

2 評価方法

本計画に掲げた目標の達成状況を評価するとともに今後の健康づくり施策の検討の基礎資料とするため、市民の健康づくりに関する意識などを把握することを目的として健康意識調査を実施しました。

(1) 指標の判定区分

各指標に関して、平成28年度策定時と健康意識調査等で得られた直近の状況と比較するとともに、目標の達成状況について評価を行いました。

【評価区分】

評価	基準	改善率
◎	目標達成	
○	目標値には至らなかったが、数値が改善	+5%以上
△	数値の変化なし	±5%未満
×	数値が悪化	-5%以上

また、目標値が「増加」「減少」など数値のない場合の評価は、以下の基準としました。

評価	基準	改善率
◎	目標達成	+10%以上
○	目標値には至らなかったが、数値が改善	+3%以上+10%未満
△	数値の変化なし	±3%未満
×	数値が悪化	-3%以上

改善率は、以下の方法で算出しています。

$$\text{改善率} = \frac{\text{(中間値数値 - 平成28年度策定時数値)}}{\text{平成28年度策定時数値}}$$

$$\left[\begin{array}{l} \text{減少を目指す目標値の場合は} \\ \text{改善率} = \frac{\text{(平成28年度策定時数値 - 中間値数値)}}{\text{平成28年度策定時数値}} \text{とする。} \end{array} \right]$$

(2) 健康意識調査の概要

	市民意識調査	保護者調査
調査地域	市内全域	市内全域
調査対象	市内に居住する満20歳以上の男女	10か月赤ちゃん相談、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査を受ける子どもの保護者
抽出数	2,000人	約400人
調査方法	郵送配布・郵送回収	郵送配布 相談・健康診査時の受け取りによる 直接回収
調査期間	令和4年7月～8月	令和4年7月～9月
有効回収数	707人	210人
有効回収率	35.4%	52.5%

3 目標値の達成状況

基本目標ごとに定めた14の基本施策別に設定した78指標のうち、目標値を達成した指標は22指標、改善がみられた指標は19指標となり、全体の半数以上で改善がみられました。

一方、数値に変化がなかった指標は13指標で全体の約17%、数値が悪化した指標は24指標で全体の約30%でした。

また、中間値がなく、現時点で評価できない指標が1項目あります。

市民や関係団体等と共に、目標の達成に向けて5年間取り組んだ結果、策定時より改善がみられた分野が半数以上ありましたが、「生活習慣病の発症予防と重症化予防対策」「継続的な健康づくりに取り組むための地域づくり」における数値が低い傾向があり、これらは後半の取り組みによって改善していく必要があります。

基本目標・基本施策		◎	○	△	×
基本目標1 健康寿命の延伸に取り組みます	基本施策1 生活習慣病の発症予防と重症化予防対策			1	4
	基本施策2 栄養と食生活の充実	1	2	1	4
	基本施策3 適度な身体活動・運動の継続	1	1		1

基本目標・基本施策		◎	○	△	×
基本目標1 健康寿命の延伸に取り組みます	基本施策4 休養とこころの健康づくり	1	1	2	1
	基本施策5 禁煙・受動喫煙防止対策・適正飲酒への取り組み	2	2		2
	基本施策6 歯と口腔の健康づくり	6	3	1	1
	小 計	11	9	5	13
基本目標2 ライフステージに合わせた健康づくりを行います	基本施策1 安心して子どもを産み育てられる支援対策の充実	1		4	4
	基本施策2 次世代に向けた保健対策の充実	5	2	1	3
	基本施策3 生活習慣病の発症予防と重症化予防対(再掲)	-	-	-	-
	基本施策4 介護・認知症予防対策		2		
	小 計	6	4	5	7
基本目標3 地域の支えあいによる健康づくりを推進します	基本施策1 子どもの健やかな成長を見守る地域づくり	2	2	1	1
	基本施策2 継続的な健康づくりに取り組むための地域づくり				3
	小 計	2	2	1	4
基本目標4 健康を支える環境を整えます	基本施策1 地域医療対策	3	3		
	基本施策2 健康づくりに関する社会資源の整備(一部再掲)		1	2	
	小 計	3	4	2	0

第3章 分野別の取り組みと評価結果

【基本目標1】 健康寿命の延伸に取り組みます

(基本施策1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防対策

市が実施しているがん検診を受ける人の割合は、胃がん検診、肺がん検診はほぼ横這い、大腸がん検診、子宮頸がん検診はやや減少、乳がん検診は大幅に低下しています。

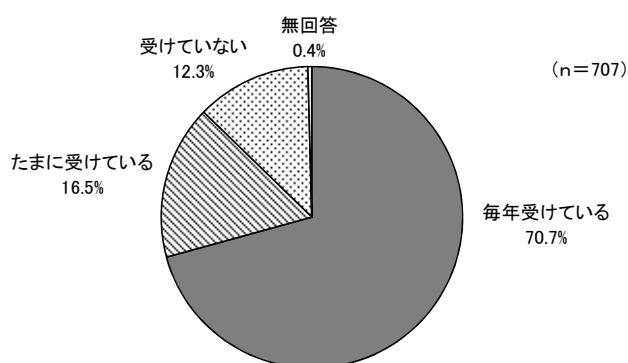
指標		平成28年度 策定時	令和3年度 中間値	令和8年度 目標値	判定
胃がん検診の受診率	全体	6.9% (12.7%)※	4.6%	40%	×
肺がん検診の受診率	全体	15.1% (32.5%)※	14.9%	40%	△
大腸がん検診の受診率	全体	17.6% (27.8%)※	13.4%	40%	×
乳がん検診の受診率	女性	20.5% (35.3%)※	10.2%	50%	×
子宮頸がん検診の受診率	女性	18.4% (34.7%)※	14.1%	50%	×

※ 受診可能である対象者の変更（平成29年度より）に伴い、算出方法が変更となったため、括弧内は策定時（変更前）数値を表示しています。

(1) 健康意識調査結果

① 健康診断の受診

「毎年受けている」70.7%、「たまに受けている」16.5%、「受けていない」12.3%となっています。



【性別】

「毎年受けている」は男性76.4%が女性66.3%を上回ります。

【性・年代別】

「毎年受けている」は、男性が20代、70歳以上を除く、いずれの年代も8割以上ですが、女性では、多い30代、50代でも75.4%、75.4%にとどまります。

【健康状態】

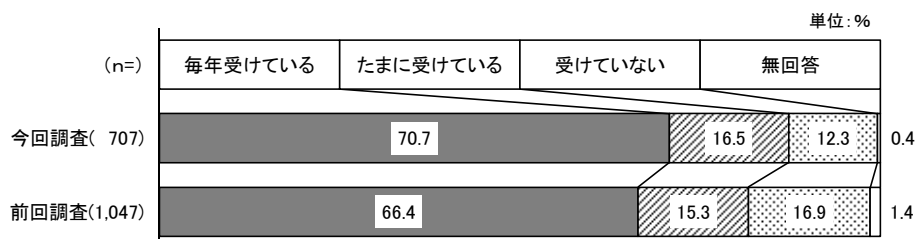
「毎年受けている」は、健康状態が『よい』と回答した人は7割を超えています。

単位：%

		(n)	毎年受けている	たまに受けている	受けていない	無回答
性別	男性	305	76.4	14.1	8.5	1.0
	女性	395	66.3	18.5	15.2	0.0
性・年代別	男性-20代	22	77.3	4.5	18.2	0.0
	男性-30代	26	80.8	15.4	3.8	0.0
	男性-40代	44	88.6	11.4	0.0	0.0
	男性-50代	38	84.2	10.5	5.3	0.0
	男性-60代	59	83.1	13.6	3.4	0.0
	男性-70歳以上	115	65.2	17.4	14.8	2.6
	女性-20代	32	62.5	21.9	15.6	0.0
	女性-30代	57	75.4	8.8	15.8	0.0
	女性-40代	75	69.3	16.0	14.7	0.0
	女性-50代	58	75.9	15.5	8.6	0.0
	女性-60代	64	60.9	23.4	15.6	0.0
女性-70歳以上	109	58.7	22.9	18.3	0.0	
健康状態	よい	137	73.7	14.6	11.7	0.0
	まあよい	162	76.5	13.6	9.3	0.6
	ふつう	302	67.5	19.2	12.9	0.3
	あまりよくない	83	67.5	15.7	15.7	1.2
	よくない	16	62.5	18.8	18.8	0.0

◆ 前回調査との比較

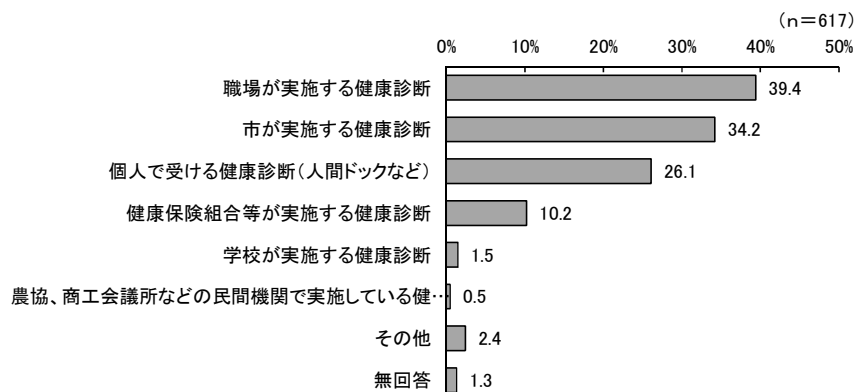
「毎年受けている」「たまに受けている」が増え、「受けていない」は減っています。



② 受診している健康診断の種類

「職場が実施する健康診断」39.4%、「市が実施する健康診断」34.2%、「個人で受ける健康診断（人間ドックなど）」26.1%などとなっています。

※ ①で「1. 毎年受けている」、または「2. たまに受けている」の回答者より



【性別】

「職場が実施する健康診断」は男性 42.4%が女性 36.7%を上回り、「市が実施する健康診断」は女性 37.6%が男性 30.4%を上回ります。

【性・年代別】

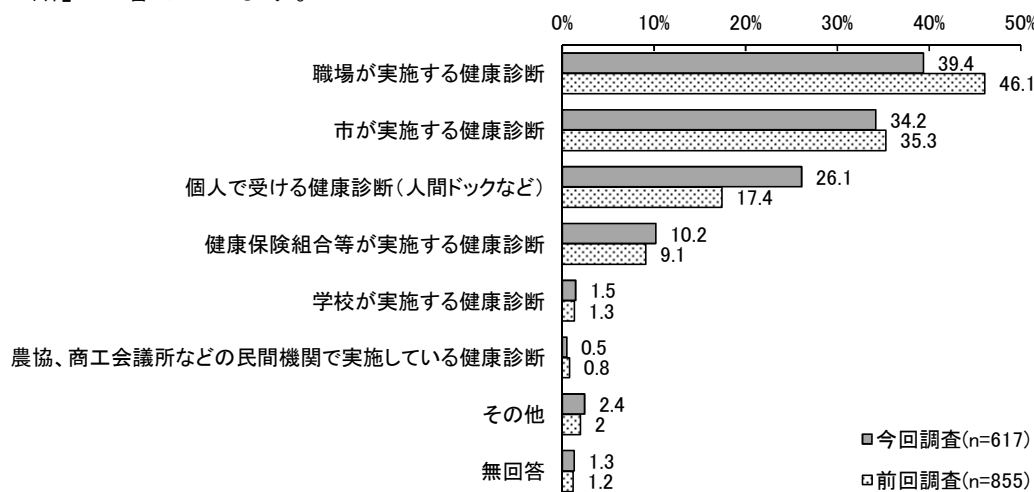
男性の 70 歳以上、女性の 60 代、70 歳以上では「市が実施する健康診断」が「職場が実施する健康診断」を上回ります。

単位：%

		(n)	職場が実施する健康診断	市が実施する健康診断	個人で受ける健康診断(人間ドックなど)	健康保険組合等が実施する健康診断	学校が実施する健康診断	農協、商工会議所などの民間機関で実施している健康診断	その他	無回答
性別	男性	276	42.4	30.4	26.4	7.6	1.1	0.4	2.5	1.1
	女性	335	36.7	37.6	26.3	12.5	1.8	0.6	1.8	1.5
性・年代別	男性-20代	18	77.8	11.1	0.0	5.6	16.7	0.0	0.0	0.0
	男性-30代	25	88.0	8.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-40代	44	68.2	9.1	20.5	11.4	0.0	0.0	2.3	2.3
	男性-50代	36	55.6	2.8	33.3	13.9	0.0	0.0	0.0	2.8
	男性-60代	57	40.4	31.6	29.8	5.3	0.0	0.0	3.5	1.8
	男性-70歳以上	95	8.4	60.0	33.7	7.4	0.0	1.1	4.2	0.0
	女性-20代	27	55.6	22.2	7.4	3.7	18.5	0.0	3.7	3.7
	女性-30代	48	70.8	12.5	16.7	14.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-40代	64	46.9	26.6	25.0	25.0	0.0	0.0	1.6	1.6
	女性-50代	53	50.9	20.8	22.6	18.9	0.0	1.9	1.9	0.0
	女性-60代	54	25.9	55.6	29.6	13.0	1.9	1.9	1.9	0.0
	女性-70歳以上	89	3.4	62.9	38.2	1.1	0.0	0.0	2.2	3.4

◆ 前回調査との比較

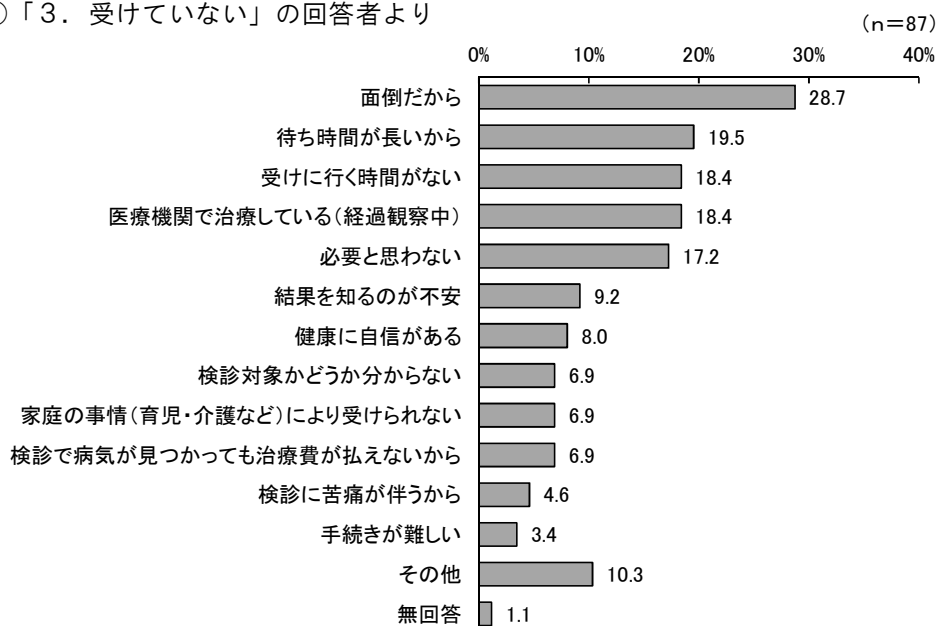
「職場が実施する健康診断」「市が実施する健康診断」が減り、「個人で受ける健康診断」が増えています。



③ 健診を受けていない理由

「面倒だから」28.7%、「待ち時間が長いから」19.5%、「受けに行く時間がない」「医療機関で治療している」ともに18.4%、「必要と思わない」17.2%などとなっています。

※ ①「3. 受けていない」の回答者より



【性別】

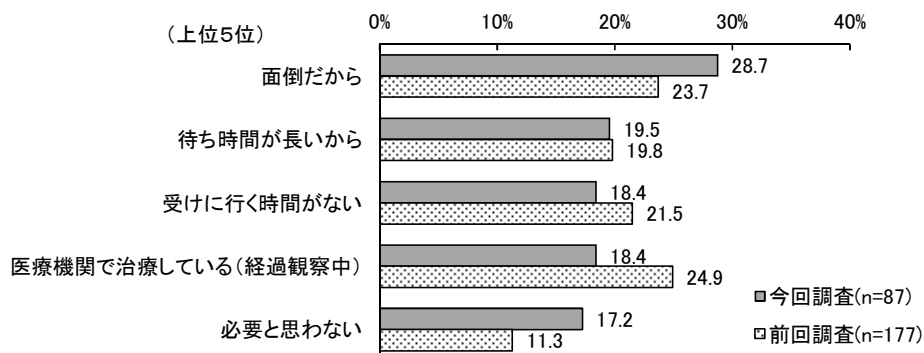
「必要と思わない」は男性 34.6%が女性 10.0%を、「受けに行く時間がない」は女性 23.3%が男性 7.7%を大きく上回ります。

単位: %

		(n)	面倒だから	待ち時間が長いから	受けに行く時間がない	医療機関で治療している(経過観察中)	必要と思わない	結果を知るのが不安	健康に自信がある	検診対象かどうか分からない	家庭の事情(育児・介護など)により受けられない	検診で病気が見つかったも治療費が払えないから	検診に苦痛が伴うから	手続きが難しい	その他	無回答
性別	男性	26	30.8	15.4	7.7	23.1	34.6	11.5	11.5	3.8	0.0	3.8	3.8	3.8	3.8	0.0
	女性	60	28.3	21.7	23.3	16.7	10.0	8.3	6.7	8.3	10.0	8.3	5.0	3.3	11.7	1.7

◆ 前回調査との比較

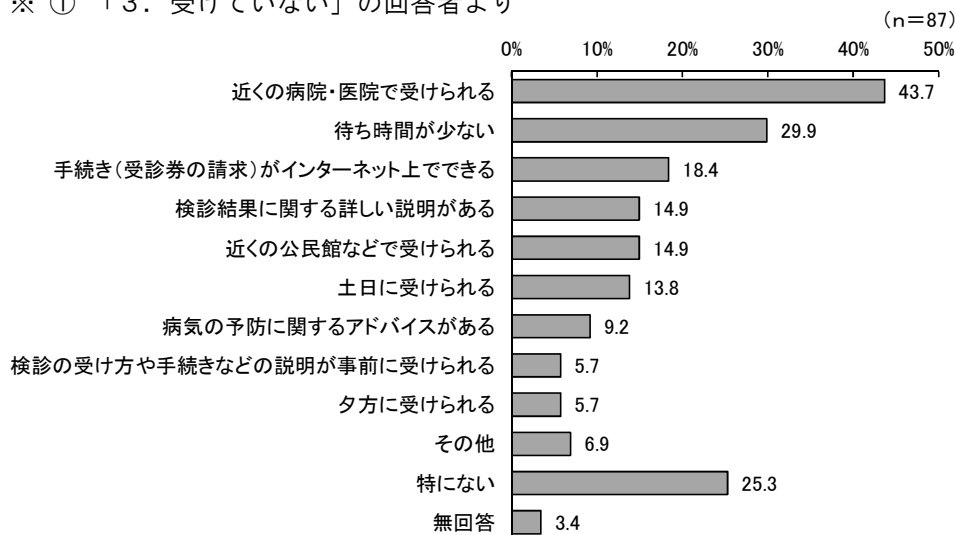
「面倒だから」「必要と思わない」が増えています。



④ どのような健診が望まれているのか

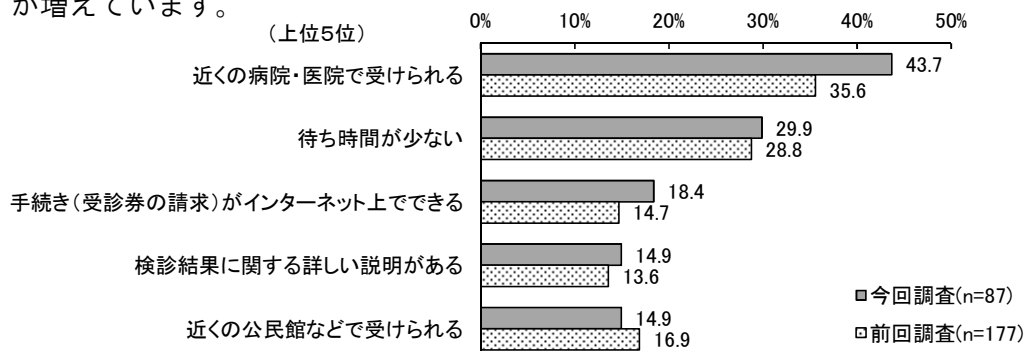
「近くの病院・医院で受けられる」43.7%、「待ち時間が少ない」29.9%、「特にない」25.3%、「手続き（受診券の請求）がインターネット上のできる」18.4%、「検診結果に関する詳しい説明がある」「近くの公民館などで受けられる」ともに14.9%などとなっています。

※ ① 「3. 受けていない」の回答者より



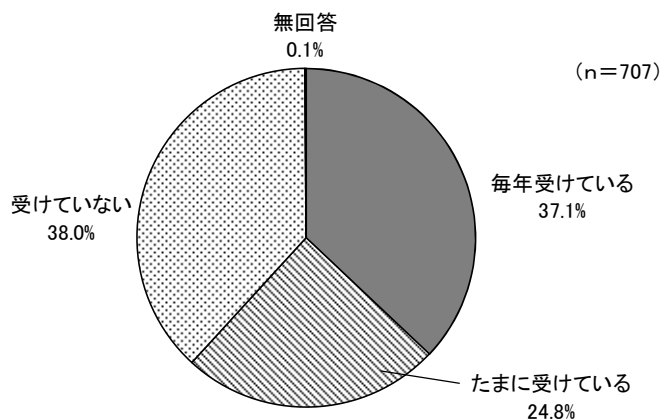
◆ 前回調査との比較

「近くの病院・医院で受けられる」「手続き（受診券の請求）がインターネット上のできる」が増えています。



⑤ がん検診の受診状況

「受けていない」38.0%が「毎年受けている」37.1%、「たまに受けている」24.8%を上回ります。



【性別】

「毎年受けている」は、女性 39.0%が男性 34.8%を上回り、「受けていない」は男性 44.9%が女性 32.7%を上回ります。

【年代別】

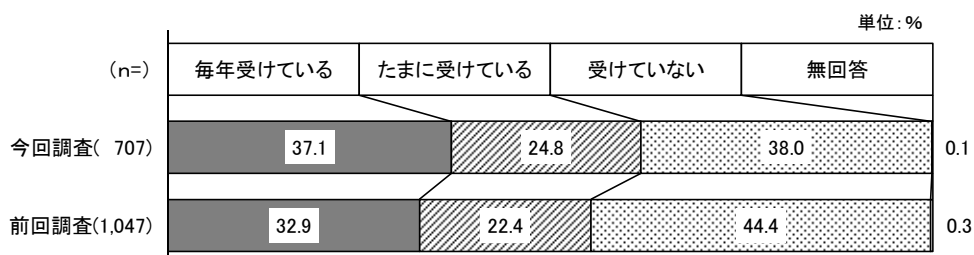
「毎年受けている」は、40代以上では50代の39.6%を除き、いずれも4割を超えています。これに対し、「受けていない」は20代79.6%、30代56.8%であり、40代以上は3割台となっています。

単位：%

		(n)	毎年受けている	たまに受けている	受けていない	無回答
性別	男性	305	34.8	20.0	44.9	0.3
	女性	395	39.0	28.4	32.7	0.0
年代	20代	54	9.3	11.1	79.6	0.0
	30代	83	24.1	24.1	51.8	0.0
	40代	121	44.6	21.5	33.9	0.0
	50代	96	39.6	27.1	33.3	0.0
	60代	123	43.1	26.0	30.9	0.0
	70歳以上	227	40.5	27.8	31.3	0.4

◆ 前回調査との比較

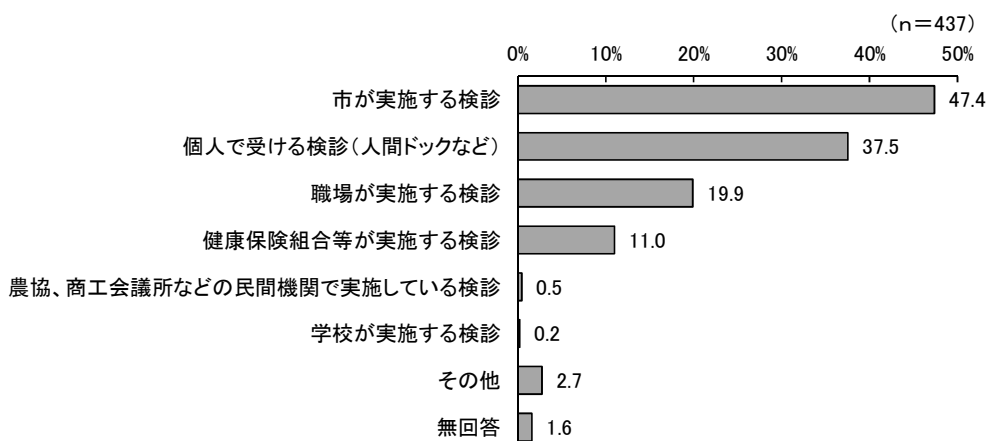
「毎年受けている」「たまに受けている」ともに、前回調査を上回ります。



⑥ 受診しているがん検診の種類

「市が実施する検診」が47.4%と最も多く、次いで「個人で受ける検診(人間ドックなど)」37.5%、「職場が実施する検診」19.9%などとなっています。

※ ⑤で「1. 毎年受けている」、または「2. たまに受けている」の回答者より



【性別】

「市が実施する検診」は女性 53.8%が男性 37.1%を上回り、「職場が実施する検診」は、男性 22.8%が女性 17.7%を上回ります。

【性・年代別】

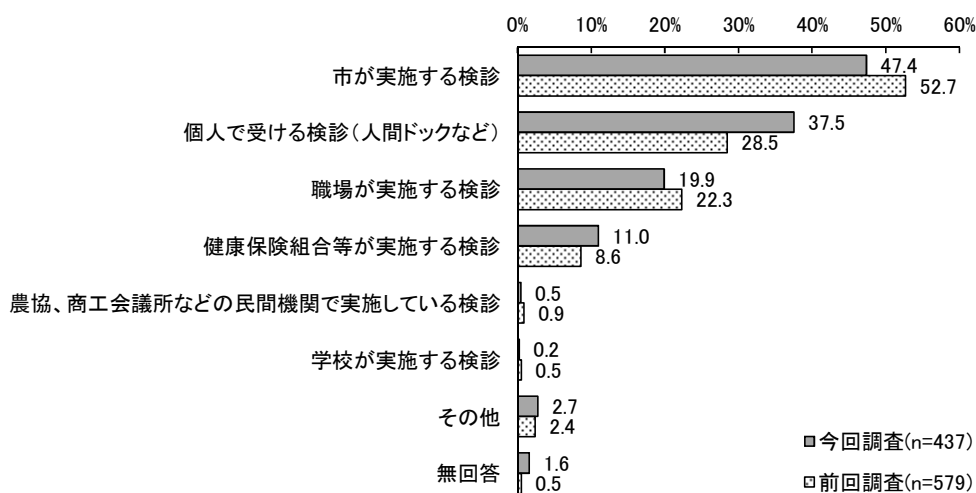
「市が実施する検診」は、男性は 60 代、70 歳以上、女性はすべての年代（ただし男性の 60 代、女性の 30 代は同率あり）で最も多くなっています。

単位：%

		(n)	市が実施する検診	職場が実施する検診	個人で受ける検診 (人間ドックなど)	健康保険組合等が実施する検診	学校が実施する検診	農協、商工会議所などの民間機関で実施している検診	その他	無回答
性別	男性	167	37.1	22.8	39.5	6.6	0.6	0.6	3.6	1.2
	女性	266	53.8	17.7	36.5	13.9	0.0	0.4	2.3	1.9
性・年代別	男性-20代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-30代	7	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-40代	22	18.2	45.5	50.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-50代	20	5.0	50.0	45.0	5.0	5.0	0.0	0.0	0.0
	男性-60代	39	41.0	20.5	41.0	7.7	0.0	0.0	5.1	2.6
	男性-70歳以上	77	53.2	3.9	36.4	6.5	0.0	1.3	5.2	1.3
	女性-20代	10	40.0	20.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	女性-30代	33	45.5	45.5	33.3	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-40代	56	51.8	21.4	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-50代	44	40.9	27.3	38.6	20.5	0.0	2.3	4.5	2.3
	女性-60代	46	56.5	13.0	34.8	19.6	0.0	0.0	0.0	2.2
女性-70歳以上	77	66.2	0.0	37.7	2.6	0.0	0.0	5.2	1.3	

◆ 前回調査との比較

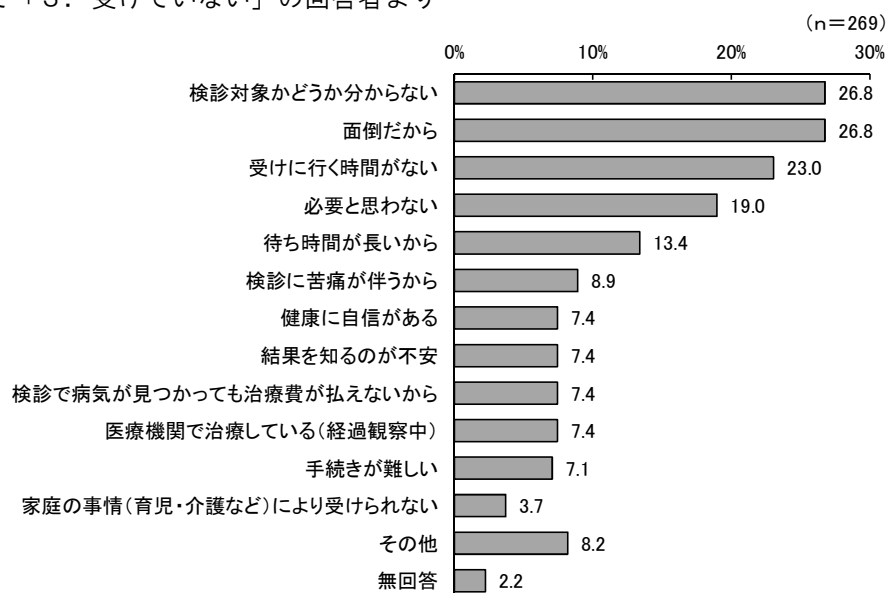
「個人で受ける検診」が増えています。



⑦ がん検診を受けていない理由

「検診対象かどうか分からない」「面倒だから」ともに 26.8%で最も多く、次いで「受けに行く時間がない」23.0%、「必要と思わない」19.0%などとなっています。

※ ⑤で「3. 受けていない」の回答者より



【性別】

「検査対象かどうか分からない」は男性 35.0%が女性 17.8%を大きく上回ります。

【性・年代別】

男性は 40 代、50 代、女性は 20 代から 40 代で「受けに行く時間がない」を多くあげています。

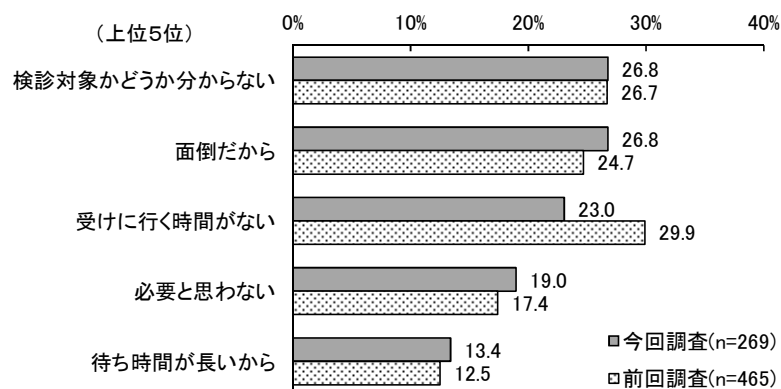
「検査対象かどうか分からない」は男性では 20 代、30 代、また 60 代にも多くなっています。

単位: %

	(n)	検査対象かどうか分からない	面倒だから	受けに行く時間がない	必要と思わない	待ち時間が長いから	検診に苦痛が伴うから	健康に自信がある	結果を知るのが不安	検診で病気が見つかって治療費が払えないから	医療機関で治療している(経過観察中)	手続きが難しい	家庭の事情(育児・介護など)により受けられない	その他	無回答	
全体	269	26.8	26.8	23.0	19.0	13.4	8.9	7.4	7.4	7.4	7.4	7.1	3.7	8.2	2.2	
性別	男性	137	35.0	26.3	21.2	21.9	10.9	3.6	8.0	6.6	4.4	8.8	8.0	0.0	5.8	0.7
	女性	129	17.8	27.9	25.6	16.3	16.3	14.7	7.0	8.5	10.1	6.2	6.2	7.8	10.1	3.9
性・年代別	男性-20代	21	42.9	19.0	23.8	28.6	9.5	0.0	19.0	9.5	0.0	0.0	4.8	0.0	4.8	0.0
	男性-30代	19	63.2	26.3	10.5	21.1	15.8	5.3	0.0	5.3	5.3	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0
	男性-40代	22	31.8	31.8	40.9	0.0	13.6	0.0	9.1	0.0	4.5	4.5	9.1	0.0	13.6	4.5
	男性-50代	18	22.2	33.3	44.4	27.8	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0
	男性-60代	20	35.0	35.0	20.0	25.0	25.0	15.0	5.0	15.0	5.0	5.0	15.0	0.0	5.0	0.0
	男性-70歳以上	37	24.3	18.9	2.7	27.0	5.4	2.7	8.1	8.1	8.1	24.3	2.7	0.0	8.1	0.0
	女性-20代	22	27.3	27.3	45.5	18.2	13.6	18.2	4.5	4.5	22.7	0.0	9.1	4.5	9.1	4.5
	女性-30代	24	33.3	20.8	37.5	12.5	8.3	8.3	8.3	4.2	8.3	0.0	4.2	29.2	8.3	0.0
	女性-40代	19	26.3	42.1	52.6	5.3	26.3	10.5	5.3	5.3	5.3	0.0	26.3	5.3	5.3	0.0
	女性-50代	14	0.0	21.4	7.1	21.4	14.3	7.1	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	21.4	7.1
	女性-60代	18	0.0	38.9	11.1	27.8	27.8	33.3	0.0	16.7	16.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性-70歳以上	32	12.5	21.9	3.1	15.6	12.5	12.5	9.4	9.4	3.1	18.8	0.0	0.0	15.6	9.4

◆ 前回調査との比較

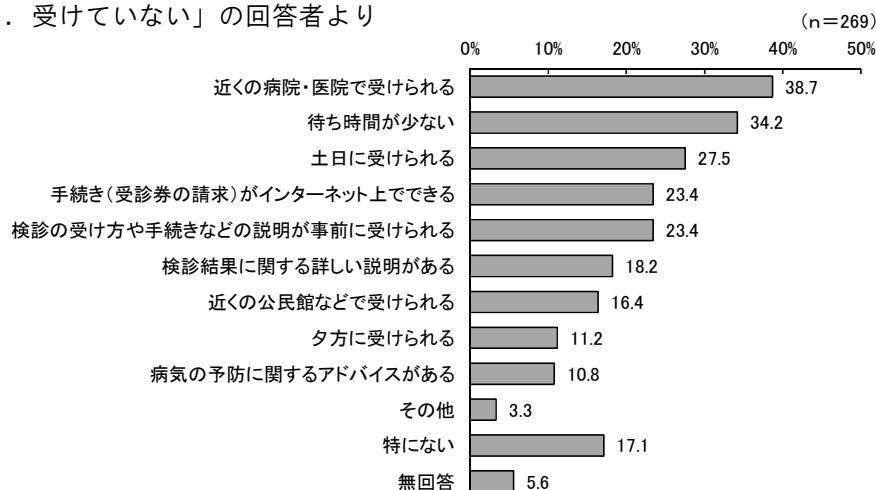
「面倒だから」「必要と思わない」がやや増え、「受けに行く時間がない」がやや減っています。



⑧ どのような検診であれば受けようと思うか

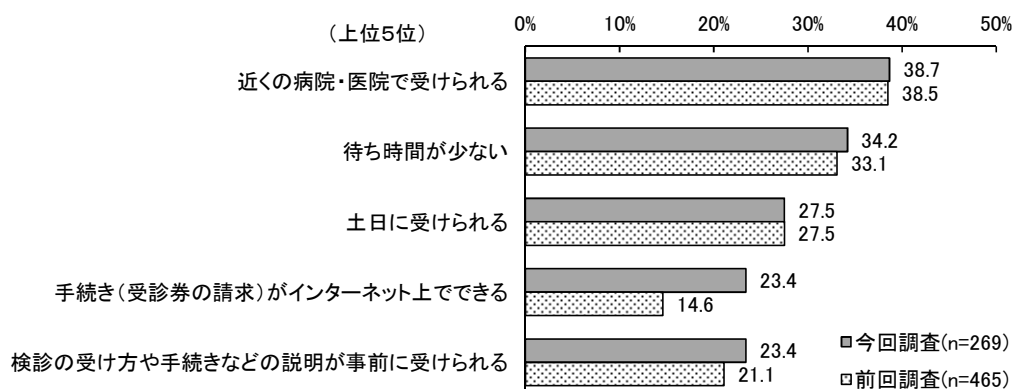
「近くの病院・医院で受けられる」38.7%、「待ち時間が少ない」34.2%、「土日に受けられる」27.5%、「手続き（受診券の請求）がインターネット上で行える」「検診の受け方や手続きなどの説明が事前に受けられる」ともに23.4%、「検診結果に関する詳しい説明がある」18.2%などとなっています。

※ ⑤で「3. 受けていない」の回答者より



◆ 前回調査との比較

「手続き（受診券の請求）がインターネット上で行える」が大きく増えています。



(2) 今後の課題と取り組み

- がん検診については「受けていない」38.0%が「毎年受けている」37.1%、「たまに受けている」24.8%を上回り、市のがん検診の受診率は減少傾向にあることから、引き続き、がん検診未受診者に対し受診を促していく必要があります。
- がん検診を受けていない理由で、「検診対象かどうか分からない」「面倒だから」ともに26.8%で最も多く、「面倒だから」「必要と思わない」については前回調査に比べ、やや増えています。がん検診は、継続的に受診することが重症化を防ぐ有効な方法であることから、がん検診の重要性や必要性について、広報やホームページなどで啓発を図り、商業施設での広告等による周知方法を工夫するなど、がん検診の未受診者に対し、機会をとらえた働きかけを行い、受診を促していくことが必要となります。
- 健康診断の受診については「受けていない」が12.3%と、前回調査の16.9%よりやや減少しています。「受けていない理由」として「面倒だから」「待ち時間が長いから」とあり、今後も公共施設での健診や予約制を実施し、受診しやすい環境作りに取り組んでいきます。
- 「どのような健診が望まれているか」については、「近くの病院・医院で受けられる」が43.7%と、約半数を占めていることから、引き続き市内医療機関で個別の健康診査が受診できる体制作りを努めていきます。

(基本施策2) 栄養と食生活の充実

一般市民の朝食摂取の割合は、ほぼ横這いとなっていますが、バランスのとれた食事、野菜摂取、減塩の一般市民の割合は増加しています。親子の割合はいずれも低くなっています。

指標		平成28年度 策定時	令和4年度 中間値	令和8年度 目標値	判定
朝食を週6日以上とっている人の割合	一般	77.1%	76.5%	100%に近づける	△
	親子	80.0%	69.1%	100%に近づける	×
バランスのとれた食事を週6日以上とっている人の割合	一般	51.6%	56.1%	60%	○
	親子	45.5%	37.2%	増加	×
一日の野菜4皿(280g)以上分とっている人の割合	一般	8.9%	10.0%	増加	◎
	親子	11.6%	4.3%	増加	×
減塩に取り組んでいる割合	一般	53.1%	55.0%	増加	○
	親子	55.2%	51.4%	増加	×

(1) 健康意識調査結果

① 朝食の摂取状況

一般市民

朝食を『週6日以上とっている』76.5%、「週1日以下」10.3%となっています。

※ 栄養ドリンク剤、野菜ジュース等のみの場合は含みません

単位: %

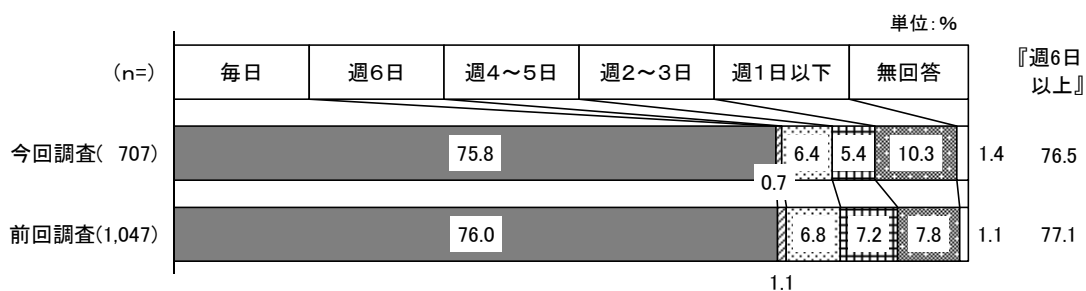
		(n)	毎日 とっている	週6日 とっている	週4~5日 とっている	週2~3日 とっている	週1日以下	無回答	『週6日 以上』
全体		707	75.8	0.7	6.4	5.4	10.3	1.4	76.5
年代別	20代	54	48.1	0.0	16.7	13.0	22.2	0.0	48.1
	30代	83	61.4	3.6	12.0	9.6	12.0	1.2	65.0
	40代	121	62.8	0.8	4.1	11.6	19.0	1.7	63.6
	50代	96	75.0	0.0	7.3	3.1	14.6	0.0	75.0
	60代	123	86.2	0.0	6.5	1.6	4.9	0.8	86.2
	70歳以上	227	89.4	0.4	2.6	1.8	3.1	2.6	89.8

【年代別】

朝食を『週6日以上とっている』は20代が48.1%と最も少なく、70歳以上は89.8%と最も多くなっています。

◆ 前回調査との比較

朝食を『週6日以上とっている』は、ほぼ同じです。



親子

朝食を『週6日以上とっている』69.1%、「週1日以下」8.1%となっています。

単位: %

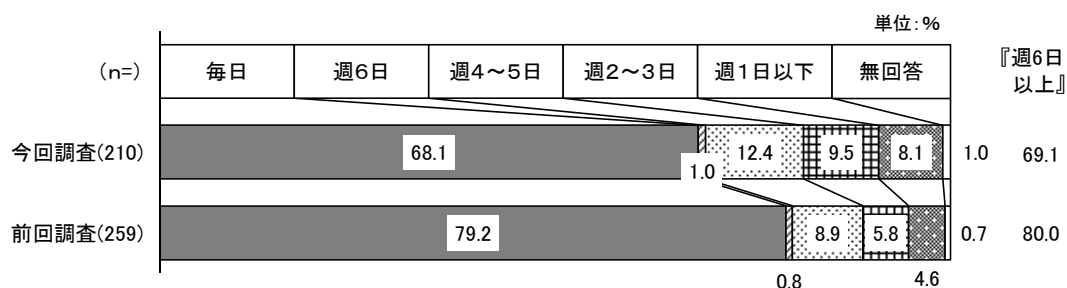
	(n)	毎日 とっている	週6日 とっている	週4~5日 とっている	週2~3日 とっている	週1日以下	無回答	『週6日 以上』	
全体	210	68.1	1.0	12.4	9.5	8.1	1.0	69.1	
保護者の 年齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	40	47.5	0.0	27.5	10.0	15.0	0.0	47.5
	30代	135	73.3	1.5	8.9	9.6	6.7	0.0	74.8
	40代	33	75.8	0.0	9.1	9.1	6.1	0.0	75.8
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

朝食を『週6日以上とっている』は、20代は47.5%で、30代74.8%、40代75.8%とは差があります。

◆ 前回調査との比較

朝食を『週6日以上とっている』は、前回調査80.0%を下回ります。



● 一般市民と親子の比較

朝食を『週6日以上とっている』は一般の30代、40代は60%台だが、親子の30代、40代では70%台と多くなっています。

② バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜を組み合わせた食事)の1日2回以上の摂取状況

一般市民

バランスのとれた食事を『週6日以上とっている』56.1%「週1日以下」8.6%となっています。

単位: %

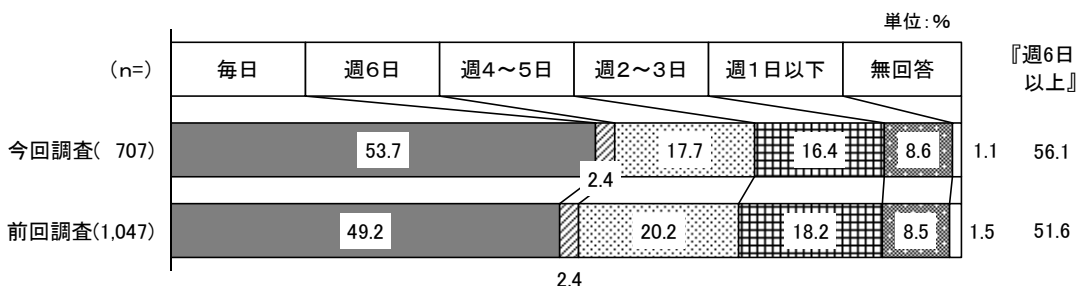
		(n)	毎日 とっている	週6日 とっている	週4~5日 とっている	週2~3日 とっている	週1日以下	無回答	『週6日 以上』
全 体		707	53.7	2.4	17.7	16.4	8.6	1.1	56.1
年 代 別	20代	54	29.6	3.7	25.9	24.1	16.7	0.0	33.3
	30代	83	37.3	0.0	22.9	25.3	13.3	1.2	37.3
	40代	121	37.2	3.3	18.2	24.8	14.9	1.7	40.5
	50代	96	51.0	2.1	19.8	15.6	11.5	0.0	53.1
	60代	123	56.1	4.9	14.6	15.4	7.3	1.6	61.0
	70歳以上	227	74.0	1.3	14.1	7.9	1.3	1.3	75.3

【年代別】

バランスのとれた食事を『週6日以上とっている』は20代が33.3%と最も少なく、70歳以上で75.3%と最も多くなっています。「週1日以下」は20代で16.7%と多く、70歳以上では1.3%と少なくなっています。

◆ 前回調査との比較

『週6日以上』は増えています。



親子

バランスのとれた食事を『週6日以上とっている』37.2%、「週4~5日とっている」37.1%、「週1日以下」7.6%となっています。

単位: %

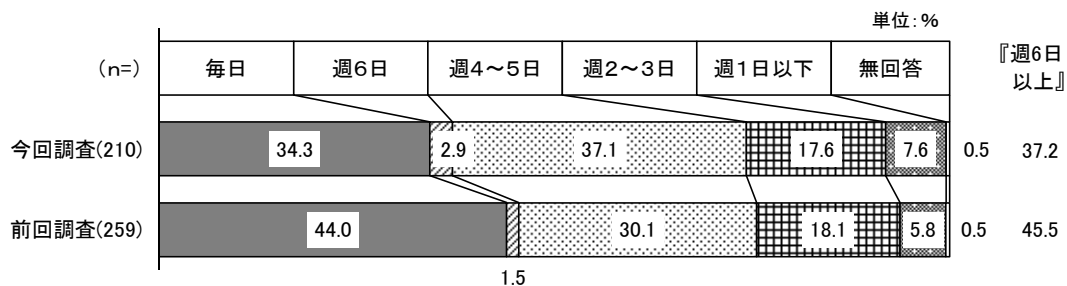
		(n)	毎日 とっている	週6日 とっている	週4~5日 とっている	週2~3日 とっている	週1日以下	無回答	『週6日 以上』
全 体		210	34.3	2.9	37.1	17.6	7.6	0.5	37.2
保 護 者 の 年 齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	40	27.5	2.5	52.5	7.5	10.0	0.0	30.0
	30代	135	36.3	2.2	29.6	23.7	8.1	0.0	38.5
	40代	33	33.3	6.1	51.5	6.1	3.0	0.0	39.4
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

バランスのとれた食事を『週6日以上とっている』は20代30.0%、30代38.5%、40代39.4%であり、20代と30代、40代とではやや差があります。

◆ 前回調査との比較

『週6日以上とっている』は、前回調査45.5%を下回ります。



● 一般市民と親子の比較

一般市民と親子の20代、30代、40代のバランスのとれた食事を『週6日以上とっている』はどの年代もほとんど同じであるが、『週4日以上』では、親子の方が多くなっています。

③ 1日の野菜摂取量

一般市民

1日の野菜摂取量[※]が『4皿分以上とっている』10.0%、「2~3皿分とっている」43.6%、「1皿分とっている」39.6%となっています。

※ 1皿の野菜料理の目安量：おひたしなどの小鉢1皿や具だくさんの味噌汁1杯。
(一皿野菜70g程度)

単位：%

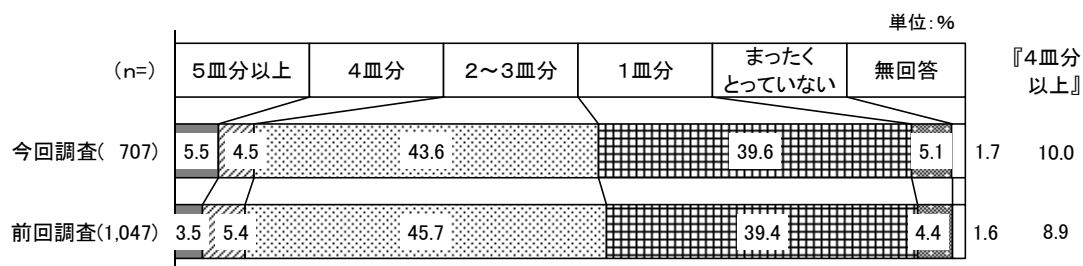
	(n)	5皿分以上とっている	4皿分とっている	2~3皿分とっている	1皿分とっている	まったくとっていない	無回答	『4皿分以上』	
全体	707	5.5	4.5	43.6	39.6	5.1	1.7	10.0	
年代別	20代	54	1.9	0.0	31.5	55.6	11.1	0.0	1.9
	30代	83	3.6	0.0	43.4	44.6	7.2	1.2	3.6
	40代	121	5.8	2.5	37.2	49.6	4.1	0.8	8.3
	50代	96	4.2	3.1	51.0	32.3	9.4	0.0	7.3
	60代	123	1.6	6.5	46.3	39.8	4.1	1.6	8.1
	70歳以上	227	9.7	7.9	45.4	31.7	2.2	3.1	17.6

【年代別】

1日の野菜摂取量が50代、60代、70代以上では「2~3皿分とっている」が最も多く、20代、30代、40代では「1皿分とっている」が最も多くなっています。

◆ 前回調査との比較

1日の野菜摂取量が『4皿分以上とっている』はやや増えていますが、「まったくとっていない」も増えています。



親子

1日の野菜摂取量が『4皿分以上とっている』4.3%、「2~3皿分とっている」48.6%、「1皿分とっている」44.3%となっています。

単位: %

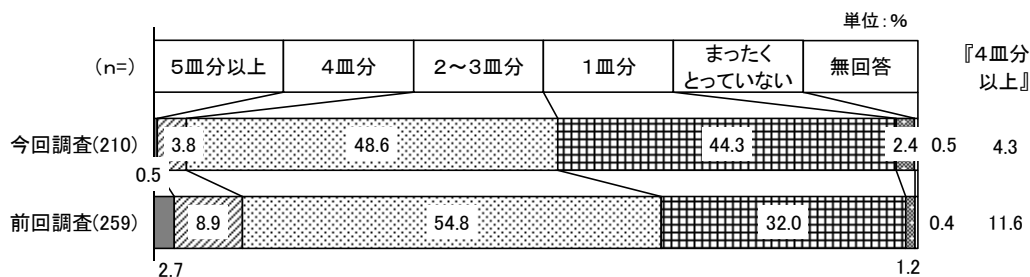
	(n)	5皿分以上とっている	4皿分とっている	2~3皿分とっている	1皿分とっている	まったくとっていない	無回答	『4皿分以上』
全体	210	0.5	3.8	48.6	44.3	2.4	0.5	4.3
保護者の年齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	40	0.0	2.5	47.5	47.5	2.5	2.5
	30代	135	0.0	3.0	50.4	43.7	3.0	3.0
	40代	33	3.0	9.1	45.5	42.4	0.0	12.1
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

1日の野菜摂取量が『4皿分以上とっている』は40代が12.1%と最も多く、20代が2.5%と最も少なくなっています。

◆ 前回調査との比較

1日の野菜摂取量が『4皿分以上とっている』は、前回調査11.6%を大きく下回ります。



● 一般市民と親子の比較

一般市民の20代、30代、40代は1日の野菜摂取量が「1皿分とっている」が多いが、親子の20代、30代、40代では「2~3皿分とっている」が多くなっています。

④ 減塩の取組み状況

一般市民

減塩に『取り組んでいる』は55.0%、これに対し『取り組んでいない』は43.7%となっています。

単位：%

	(n)	積極的に取り組んでいる	ある程度取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	無回答	『取り組んでいる』	『取り組んでいない』	
全体	707	10.2	44.8	32.0	11.7	1.3	55.0	43.7	
年代別	20代	54	3.7	25.9	46.3	24.1	0.0	29.6	70.4
	30代	83	7.2	33.7	39.8	18.1	1.2	40.9	57.9
	40代	121	4.1	36.4	40.5	18.2	0.8	40.5	58.7
	50代	96	9.4	47.9	25.0	17.7	0.0	57.3	42.7
	60代	123	10.6	56.1	26.8	5.7	0.8	66.7	32.5
	70歳以上	227	16.3	50.2	26.9	4.0	2.6	66.5	30.9

【年代別】

50代、60代、70歳以上では減塩に「ある程度取り組んでいる」、20代、30代、40代では減塩に「あまり取り組んでいない」が最も多くなっています。

◆ 前回調査との比較

『取り組んでいる』は、やや増えています。

単位：%

(n=)	積極的に取り組んでいる	ある程度取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	無回答	『取り組んでいる』	『取り組んでいない』
今回調査(707)	10.2	44.8	32.0	11.7	1.3	55.0	43.7
前回調査(1,047)	9.5	43.6	33.3	12.5	1.1	53.1	45.8

親子

減塩に『取り組んでいる』は51.4%、これに対し、『取り組んでいない』は48.1%となっています。

単位：%

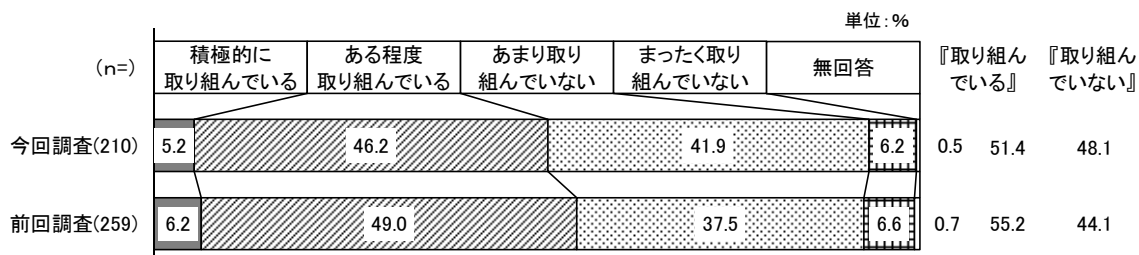
	(n)	積極的に取り組んでいる	ある程度取り組んでいる	あまり取り組んでいない	まったく取り組んでいない	無回答	『取り組んでいる』	『取り組んでいない』	
全体	210	5.2	46.2	41.9	6.2	0.5	51.4	48.1	
保護者の年齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	40	2.5	45.0	42.5	10.0	0.0	47.5	52.5
	30代	135	6.7	45.2	41.5	6.7	0.0	51.9	48.2
	40代	33	3.0	51.5	45.5	0.0	0.0	54.5	45.5
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

すべての年代で減塩に「ある程度取り組んでいる」が最も多くなっています。

◆ 前回調査との比較

減塩に『取り組んでいる』は、前回調査 55.2%とほぼ同じとなっています。



● 一般市民と親子の比較

減塩に『取り組んでいる』は、20代、30代、40代において親子が一般市民を上回っております。

⑤ 子どもとの食事の頻度

親子

子どもとの食事の頻度は、「毎食」38.6%、「1日2回」35.2%、「1日1回」13.3%、「とっていない」9.5%、「休日のみ」1.9%となっています。

単位: %

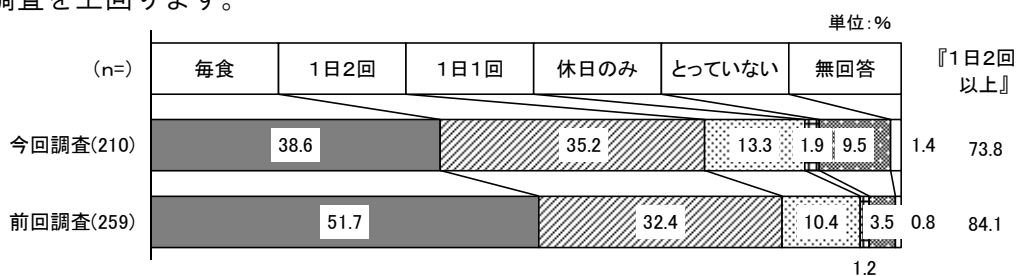
	(n)	毎食	1日2回	1日1回	休日のみ	とっていない	無回答	『1日2回以上』	
全体	210	38.6	35.2	13.3	1.9	9.5	1.4	73.8	
保護者の年齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20代	40	30.0	42.5	17.5	0.0	10.0	0.0	72.5
	30代	135	36.3	36.3	12.6	3.0	10.4	1.5	72.6
	40代	33	60.6	21.2	12.1	0.0	6.1	0.0	81.8
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

子どもとの食事の頻度は、『1日2回以上』は、40代が最も多く81.8%、次いで30代が72.6%、20代が72.5%となっています。

◆ 前回調査との比較

子どもとの食事の頻度は、『1日2回以上』は前回調査を下回り、「とっていない」は前回調査を上回ります。



⑥ 食事の問題の有無

一般市民

現在とっている食事について『良い』は 61.6%、これに対し『問題がある』は 36.7%となっています。

単位：%

		(n)	大変良い	良い	少し問題がある	問題が多い	無回答	『良い』	『問題がある』
全 体		707	6.2	55.4	33.0	3.7	1.7	61.6	36.7
年 代 別	20代	54	3.7	44.4	44.4	7.4	0.0	48.1	51.8
	30代	83	4.8	49.4	37.3	7.2	1.2	54.2	44.5
	40代	121	5.8	43.0	46.3	4.1	0.8	48.8	50.4
	50代	96	6.3	47.9	38.5	6.3	1.0	54.2	44.8
	60代	123	6.5	61.0	30.1	1.6	0.8	67.5	31.7
	70歳以上	227	7.5	66.5	21.1	1.3	3.5	74.0	22.4
B M I	低体重(～18.5未満)	62	6.5	58.1	29.0	4.8	1.6	64.6	33.8
	普通体重(18.5～25.0未満)	464	6.3	59.9	29.7	2.6	1.5	66.2	32.3
	肥満度1(25.0～30.0未満)	135	6.7	45.2	40.7	5.9	1.5	51.9	46.6
	肥満度2以上(30.0以上)	31	0.0	35.5	51.6	9.7	3.2	35.5	61.3

【年代別】

ほとんどの年代で現在とっている食事について「良い」が最も多く 55.4%となっています。20代では「良い」と「少し問題がある」が 44.4%と多く、40歳代では「少し問題がある」が 46.3%と最も多くなっています。

【BMI別】

肥満度2以上では現在とっている食事について『問題がある』は 61.3%に達します。

親子

『良い』は 54.2%、これに対し『問題がある』は 44.8%となっています。

単位：%

		(n)	大変良い	良い	少し問題がある	問題が多い	無回答	『良い』	『問題がある』
全 体		210	5.2	49.0	40.0	4.8	1.0	54.2	44.8
保 護 者 の 年 齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	40	7.5	55.0	32.5	5.0	0.0	62.5	37.5
	30代	135	4.4	47.4	41.5	5.9	0.7	51.8	47.4
	40代	33	6.1	48.5	45.5	0.0	0.0	54.6	45.5
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

すべての年代で現在とっている食事について「良い」が最も多くなっています。しかし、次いで多いのは全ての年代で「少し問題がある」となっています。『問題がある』は 30代 47.4%、40代 45.5%、20代 37.5%の順となっています。

⑦ 食事をどのようにしたいか

一般市民

食事を「今より良くしたい」68.0%、「特に考えていない」22.4%、「今のままを続けたい」8.5%となっています。

※ ⑥で食事に『問題がある』との回答者より

単位：%

		(n)	今より 良くしたい	今のままを 続けたい	特に考えて いない	無回答
全 体		259	68.0	8.5	22.4	1.2
年 代 別	20代	28	78.6	3.6	17.9	0.0
	30代	37	67.6	5.4	24.3	2.7
	40代	61	77.0	3.3	19.7	0.0
	50代	43	67.4	9.3	23.3	0.0
	60代	39	64.1	17.9	15.4	2.6
	70歳以上	51	54.9	11.8	31.4	2.0

【年代別】

全ての年代で食事を「今より良くしたい」が最も多く、20代では78.6%、次いで40代で77.0%となっています。

親子

食事を「今より良くしたい」は79.8%、「特に考えていない」は17.0%、「今のままを続けたい」は2.1%となっています。

単位：%

		(n)	今より 良くしたい	今のままを 続けたい	特に考えて いない	無回答
全 体		94	79.8	2.1	17.0	1.1
保 護 者 の 年 齢	19歳以下	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	15	73.3	0.0	26.7	0.0
	30代	64	84.4	1.6	14.1	0.0
	40代	15	66.7	6.7	20.0	6.7
	50歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0

【年代別】

全ての年代で食事を「今より良くしたい」が最も多くなっています。

● 一般市民と親子の比較

いずれも食事を「今より良くしたい」が最も多く、親子においては79.8%が「今よりよくしたい」となっています。

(2) 今後の課題と取り組み

- 朝食を『週6日以上とっている』人は前回調査と比べ、一般市民全体では一般76.5%と横ばいです。しかし、一般市民全体と比べ20代は48.1%と少なくなっています。また、親子全体では前回調査を下回り、引き続き朝食摂取の重要性を伝えていく必要があります。
- バランスのとれた食事を『週6日以上とっている』人は一般市民では前回調査と比べ多くなっているものの、親子では37.2%で前回調査を下回っています。食事の基本として、今後も継続しバランスのとれた食事とその重要性を伝えていきます。
- 野菜の摂取量は、一般市民では前回と比較すると数値の改善がみられるものの、40代以下では、1皿分以下が最も多く、50代以上でも2~3皿分が最も多くなっています。すべての年代に対して、野菜の目標摂取量と併せて今より1皿多く摂取することを引き続き啓発していきます。
- 減塩に『取り組んでいる』人は親子では前回調査と比較すると減少しています。しかし、一般市民の20代から40代と比較すると『取り組んでいる』人の割合は多いことから、妊娠・子育てをきっかけに減塩への意識が高まることが考えられます。母親学級・赤ちゃん相談・幼児健診時などを利用し、引き続き減塩の大切さを伝え、分かりやすい工夫を広めます。
- 子どもとの食事の頻度は減少しています。家族と一緒に食事を食べることの大切さを伝え、楽しい食事の場となるようなアドバイスを引き続き行っていきます。
- 現在とっている食事について『問題がある』と回答した人のうち、「食事を今よりよくしたい」と感じている人は、全ての年代で多くなっています。規則正しい食生活や栄養バランスのよい食事等について、引き続き広報誌やホームページ等で普及・啓発をしていきます。

(基本施策3) 適度な身体活動・運動の継続

ロコモティブシンドローム^{※1}を知っている人、体を動かしている人の割合は増加していますが、スポーツリーダーバンク^{※2}に登録している人は減少しています。

指標		平成28年度 策定時	中間値	令和8年度 目標値	判定
ロコモティブシンドロームの認知度	全体	11.6%	17.6% (令和4年度)	80%	○
日常生活の中で、健康の維持・増進のために意識的に体を動かしている人の増加(いつもしている・時々している人の計)	全体	59.8%	68.6% (令和4年度)	増加	◎
スポーツリーダーバンクの登録数	全体	36人	26人 (令和3年度)	38人	×

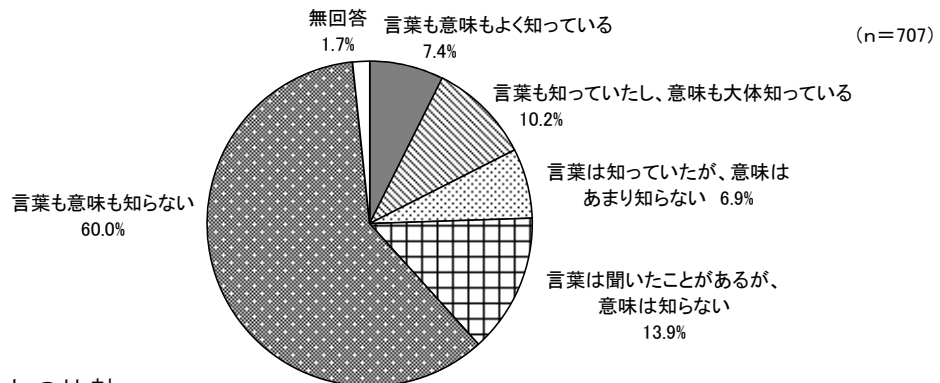
※1 ロコモティブシンドローム：運動器（身体運動に関わる骨、筋肉、関節、神経などの総称）の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を表す新しい言葉で、「運動器症候群」ともいいます。

※2 スポーツリーダーバンク：スポーツ・レクリエーション活動の普及推進を目的に技術・能力を提供する意思のある指導者の登録・紹介などを行う制度

(1) 健康意識調査結果

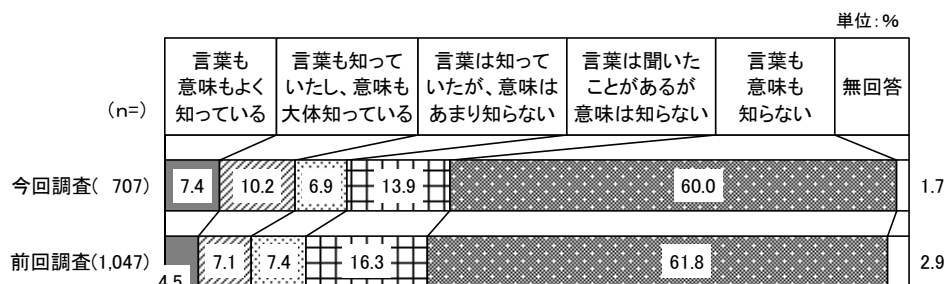
① ロコモティブシンドロームの認知度に関する調査結果

「言葉も意味も知らない」60.0%、次以下とは大きな差があり「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」13.9%、「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」10.2%などとなっています。



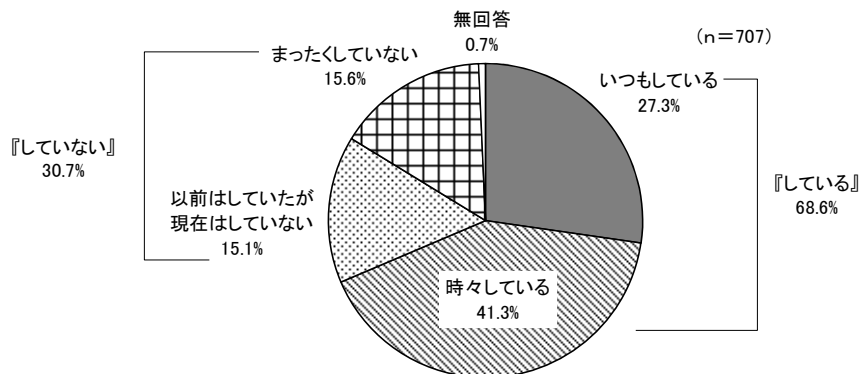
◆ 前回調査との比較

「言葉も意味もよく知っている」「言葉も知っていたし、意味も大体知っている」が増えるなど、認知度は高まりつつあります。



② 日常生活で身体を動かしているか

「いつもしている」27.3%、「時々している」41.3%を合わせた『している』は68.6%に対し、「以前はしていたが現在はしていない」15.1%、「まったくしていない」15.6%を合わせた『していない』は30.7%となっています。



【性別】

『している』は男性69.5%、女性68.2%とほとんど差がありません。

【性・年代別】

『している』は、男女とも60代、70歳以上で7割を超えていますが、男性の20代、30代、女性の40代では5割台となっています。

【健康状態】

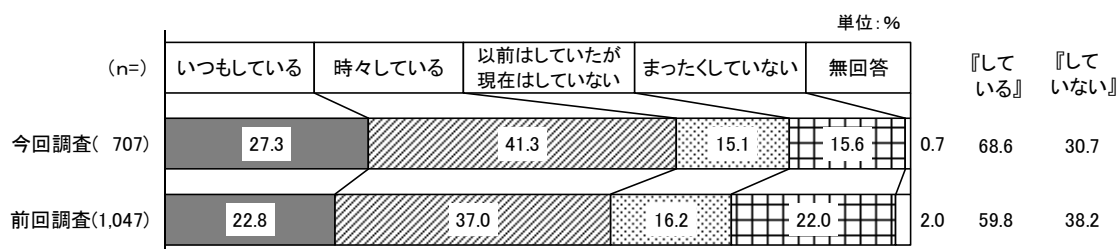
『している』は、健康状態がよいとした人は83.2%、まあよいとした人は43.8%、あまりよくないとした人は51.8%となっています。

単位：%

		(n)	いつもしている	時々している	以前はしていたが現在はしていない	まったくしていない	無回答	『している』	『していない』
性別	男性	305	31.5	38.0	16.7	12.8	1.0	69.5	29.5
	女性	395	24.1	44.1	13.7	17.7	0.5	68.2	31.4
性・年代別	男性-20代	22	13.6	40.9	31.8	13.6	0.0	54.5	45.4
	男性-30代	26	19.2	38.5	26.9	15.4	0.0	57.7	42.3
	男性-40代	44	22.7	40.9	22.7	13.6	0.0	63.6	36.3
	男性-50代	38	15.8	47.4	23.7	13.2	0.0	63.2	36.9
	男性-60代	59	39.0	42.4	5.1	13.6	0.0	81.4	18.7
	男性-70歳以上	115	41.7	31.3	13.0	11.3	2.6	73.0	24.3
	女性-20代	32	15.6	50.0	9.4	25.0	0.0	65.6	34.4
	女性-30代	57	14.0	49.1	15.8	19.3	1.8	63.1	35.1
	女性-40代	75	8.0	42.7	20.0	29.3	0.0	50.7	49.3
	女性-50代	58	27.6	39.7	13.8	19.0	0.0	67.3	32.8
	女性-60代	64	25.0	48.4	9.4	17.2	0.0	73.4	26.6
	女性-70歳以上	109	40.4	40.4	11.9	6.4	0.9	80.8	18.3
健康状態	よい	137	34.3	48.9	8.8	8.0	0.0	83.2	16.8
	まあよい	162	26.5	42.6	13.0	16.7	1.2	69.1	29.7
	ふつう	302	28.1	40.1	14.6	16.2	1.0	68.2	30.8
	あまりよくない	83	14.5	37.3	28.9	19.3	0.0	51.8	48.2
	よくない	16	25.0	18.8	31.3	25.0	0.0	43.8	56.3

◆ 前回調査との比較

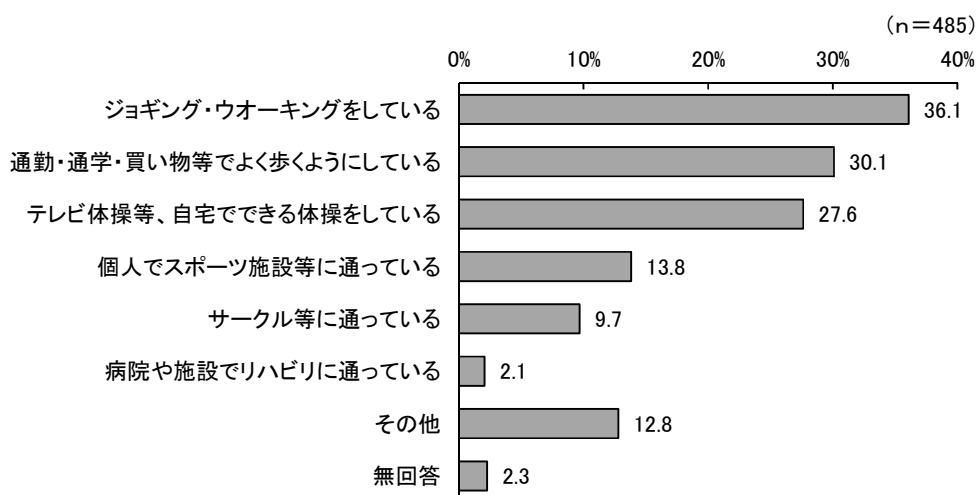
『している』は、前回調査を10ポイント近く上回ります。



③ どのように身体を動かしているか

「ジョギング・ウォーキングをしている」36.1%、「通勤・通学・買い物等でよく歩くようにしている」30.1%、「テレビ体操等、自宅でできる体操をしている」27.6%、「個人でスポーツ施設等に通っている」13.8%などとなっています。

※ ①で「1. いつもしている」、または「2. 時々している」の回答者より



【性別】

「ジョギング・ウォーキングをしている」は男性47.6%が女性27.5%を、「テレビ体操等、自宅でできる体操をしている」は女性36.1%が男性16.5%を大きく上回ります。

【年代別】

40代以上では「ジョギング・ウォーキングをしている」、20代、30代では「通勤・通学・買い物等でよく歩くようにしている」が最も多くなっています。

【健康状態】

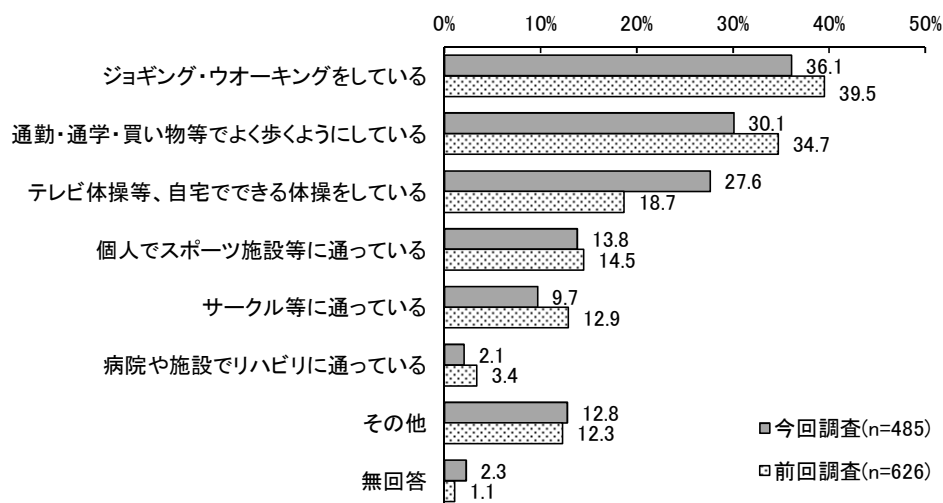
健康状態がよいとした人は「ジョギング・ウォーキングをしている」を、よくないとした人は「テレビ体操等、自宅でできる体操をしている」

単位：%

		(n)	ジョギング・ウォーキング をしている	通勤・通学・買い物等でよ く歩くようにしている	テレビ体操等、自宅で できる体操をしている	個人でスポーツ施設等に 通っている	サークル等に通っている	病院や施設でリハビリに 通っている	その他	無回答
全体		485	36.1	30.1	27.6	13.8	9.7	2.1	12.8	2.3
性別	男性	212	47.6	25.9	16.5	11.3	5.2	0.9	17.0	2.8
	女性	269	27.5	33.5	36.1	16.0	13.4	3.0	9.3	1.9
年代別	20代	33	27.3	66.7	33.3	3.0	6.1	0.0	3.0	0.0
	30代	51	33.3	43.1	23.5	13.7	9.8	2.0	3.9	3.9
	40代	66	30.3	27.3	25.8	21.2	6.1	1.5	7.6	4.5
	50代	63	41.3	36.5	25.4	19.0	9.5	1.6	3.2	1.6
	60代	95	37.9	25.3	23.2	15.8	9.5	2.1	16.8	0.0
	70歳以上	174	38.5	20.7	32.2	9.8	11.5	2.9	20.1	2.9
健康状態	よい	114	43.9	30.7	23.7	15.8	13.2	0.0	11.4	1.8
	まあよい	112	30.4	31.3	24.1	17.9	7.1	2.7	15.2	3.6
	ふつう	206	36.9	33.0	29.1	12.1	11.2	1.5	10.2	2.4
	あまりよくない	43	27.9	16.3	37.2	9.3	0.0	9.3	20.9	0.0
	よくない	7	28.6	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0

◆ 前回調査との比較

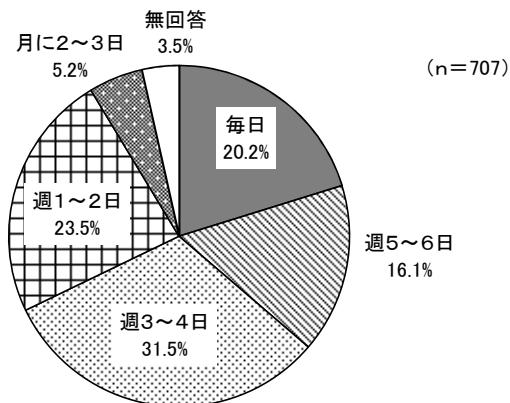
「ジョギング・ウォーキングをしている」「通勤・通学・買い物等でよく歩くようにしている」「サークル等に通っている」が減り、「テレビ体操等、自宅でできる体操をしている」が増えています。



④ 身体を動かす頻度

「週3～4日」31.5%、「週1～2日」23.5%、「毎日」20.2%、「週5～6日」16.1%となっています。

※ ①で「1. いつもしている」、または「2. 時々している」の回答者より



◆ 前回調査との比較

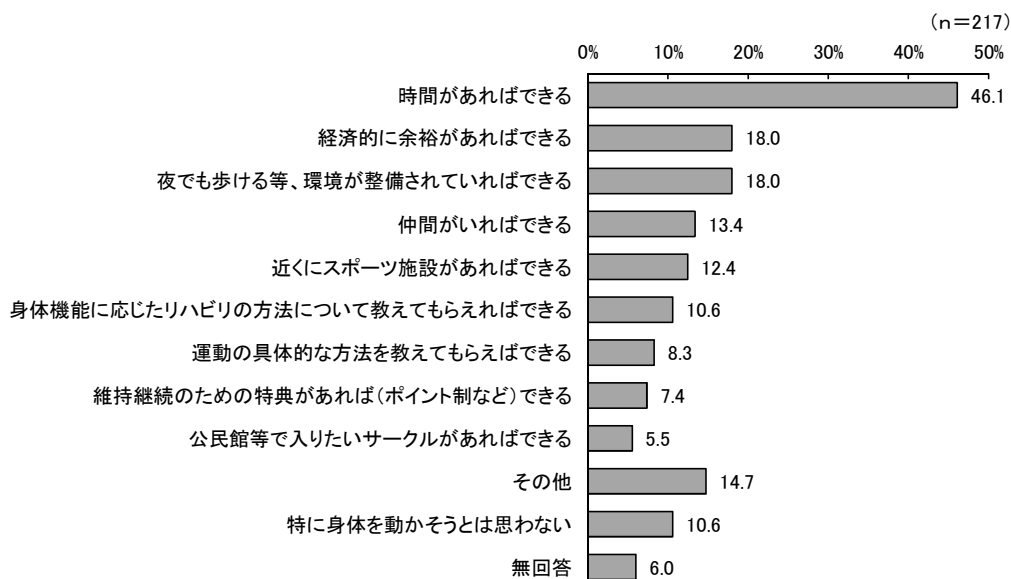
「週3～4日」が増えるなど、頻度はやや多くなっています。

(n=)	毎日	週5～6日	週3～4日	週1～2日	月に2～3日	無回答	合計 (%)
今回調査(485)	20.2	16.1	31.5	23.5	5.2	3.5	3.5
前回調査(626)	19.8	16.1	28.8	25.6	7.2	2.5	2.5

⑤ 身体を動かすことができる条件

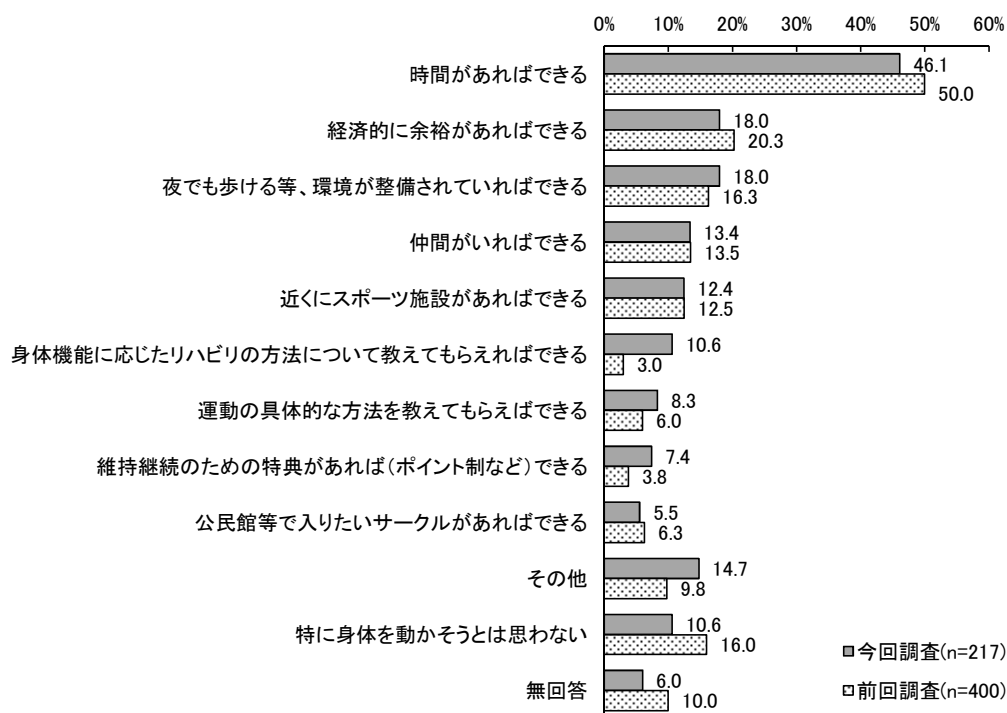
「時間があればできる」が最も多く、46.1%と次以下とは大きな差があります。

※ ①で「3. 以前はしていたが～」、または「4. まったくしていない」の回答者より



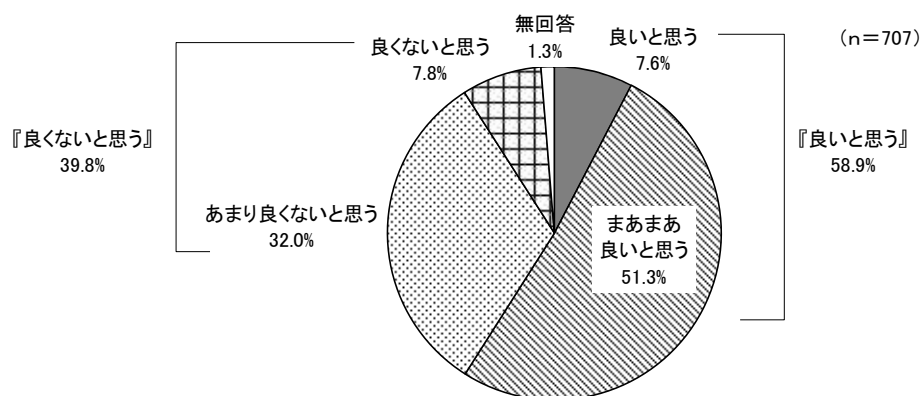
◆前回調査との比較

「身体機能に応じたリハビリの方法について教えてもらえればできる」が増え、「特に身体を動かそうとは思わない」は減っています。



⑥ 生活習慣の状況

「良いと思う」7.6%、「まあまあ良いと思う」51.3%を合わせた『良いと思う』は58.9%、「良くないと思う」7.8%、「あまり良くないと思う」32.0%を合わせた『良くないと思う』は39.8%となっています。



【性別】

『良いと思う』は男性62.0%が女性57.0%を上回ります。

【性・年代別】

『良くないと思う』は、女性20代68.8%、40代57.3%、男性40代56.9%、20代54.5%、30代50.0%で5割を超えます。

【BMI別】

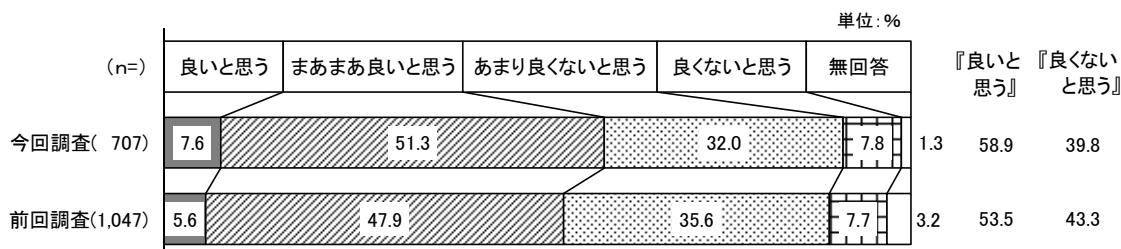
肥満度2以上では『良くないと思う』が74.2%と、『良いと思う』25.8%を大きく上回ります。

単位：%

		(n)	良いと思う	まあまあ良いと思う	あまり良くないと思う	良くないと思う	無回答	『良いと思う』	『良くないと思う』
性別	男性	305	8.9	53.1	30.2	6.9	1.0	62.0	37.1
	女性	395	6.6	50.4	33.2	8.4	1.5	57.0	41.6
性・年代別	男性-20代	22	4.5	40.9	50.0	4.5	0.0	45.4	54.5
	男性-30代	26	7.7	42.3	42.3	7.7	0.0	50.0	50.0
	男性-40代	44	6.8	36.4	45.5	11.4	0.0	43.2	56.9
	男性-50代	38	2.6	52.6	34.2	10.5	0.0	55.2	44.7
	男性-60代	59	11.9	50.8	33.9	3.4	0.0	62.7	37.3
	男性-70歳以上	115	11.3	65.2	14.8	6.1	2.6	76.5	20.9
	女性-20代	32	6.3	25.0	50.0	18.8	0.0	31.3	68.8
	女性-30代	57	5.3	54.4	31.6	8.8	0.0	59.7	40.4
	女性-40代	75	5.3	37.3	48.0	9.3	0.0	42.6	57.3
	女性-50代	58	5.2	48.3	31.0	13.8	1.7	53.5	44.8
	女性-60代	64	4.7	64.1	26.6	4.7	0.0	68.8	31.3
	女性-70歳以上	109	10.1	57.8	23.9	3.7	4.6	67.9	27.6
BMI	低体重(～18.5未満)	62	6.5	59.7	24.2	8.1	1.6	66.2	32.3
	普通体重(18.5～25.0未満)	464	8.6	55.4	29.3	6.0	0.6	64.0	35.3
	肥満度1(25.0～30.0未満)	135	6.7	42.2	37.8	12.6	0.7	48.9	50.4
	肥満度2以上(30.0以上)	31	3.2	22.6	58.1	16.1	0.0	25.8	74.2

◆ 前回調査との比較

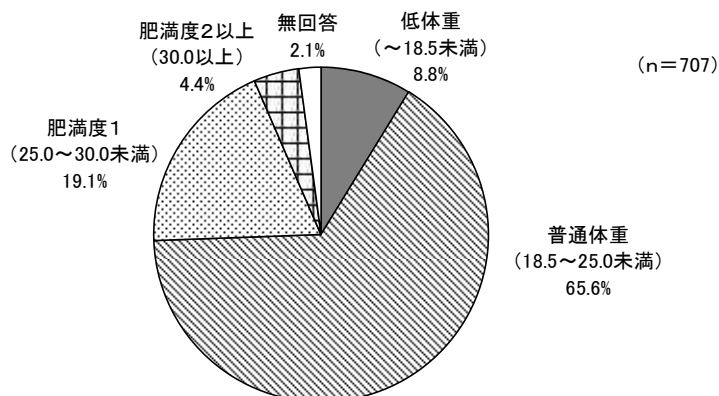
『良いと思う』が増え、『良くないと思う』が減っています。



⑦ BMIに関する調査結果

● 身長・体重

身長、体重からBMIを算出しています。「普通体重」65.6%、「肥満度1」19.1%、「低体重」8.8%、「肥満度2以上」4.4%となっています。



【性・年代別】

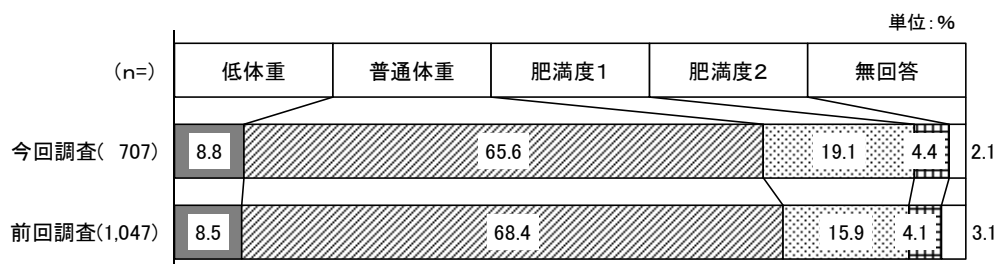
「肥満度1」及び「肥満度2以上」は全体では23.5%ですが、男性30代から60代、女性の50代はこれを上回ります。なかでも男性の50代は39.5%と4割に達します。

単位：%

		(n)	低体重 (~18.5未満)	普通体重 (18.5~25.0 未満)	肥満度1 (25.0~30.0 未満)	肥満度2以上 (30.0以上)	無回答
性・年代別	男性-20代	22	4.5	72.7	9.1	13.6	0.0
	男性-30代	26	3.8	61.5	26.9	7.7	0.0
	男性-40代	44	2.3	63.6	29.5	4.5	0.0
	男性-50代	38	2.6	57.9	31.6	7.9	0.0
	男性-60代	59	1.7	66.1	28.8	3.4	0.0
	男性-70歳以上	115	5.2	71.3	20.0	1.7	1.7
	女性-20代	32	31.3	56.3	6.3	3.1	3.1
	女性-30代	57	19.3	63.2	14.0	1.8	1.8
	女性-40代	75	10.7	65.3	13.3	6.7	4.0
	女性-50代	58	5.2	69.0	19.0	5.2	1.7
	女性-60代	64	12.5	67.2	14.1	4.7	1.6
	女性-70歳以上	109	10.1	63.3	18.3	2.8	5.5

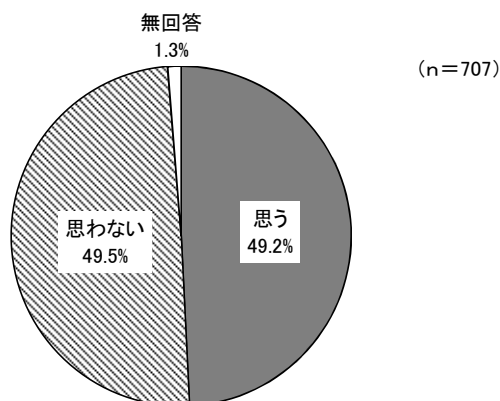
◆ 前回調査との比較

「低体重」「肥満度1」「肥満度2」とも増加しています。



● 適正体重だと思うか

「思う」49.2%、「思わない」49.5%、ほぼ同じです。



【性・年代別】

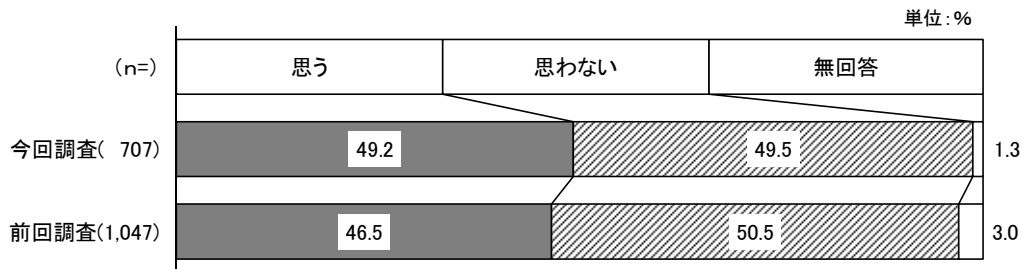
「思わない」が「思う」を上回るのは、男女いずれも40代、50代です。

単位：%

		(n)	思う	思わない	無回答
性・年代別	男性-20代	22	50.0	50.0	0.0
	男性-30代	26	50.0	50.0	0.0
	男性-40代	44	34.1	65.9	0.0
	男性-50代	38	28.9	71.1	0.0
	男性-60代	59	55.9	44.1	0.0
	男性-70歳以上	115	55.7	43.5	0.9
	女性-20代	32	56.3	43.8	0.0
	女性-30代	57	57.9	42.1	0.0
	女性-40代	75	41.3	58.7	0.0
	女性-50代	58	43.1	55.2	1.7
	女性-60代	64	53.1	45.3	1.6
	女性-70歳以上	109	52.3	43.1	4.6

◆ 前回調査との比較

「思う」がやや増え、「思わない」はほぼ同じです。



(2) 今後の課題と取り組み

- ロコモティブシンドロームの認知度に関する調査では、前回調査と比較し認知度は高まりつつあるものの、「言葉も意味も知らない」が60.0%と最も多くなっています。ロコモティブシンドロームは、進行すると要介護の状態や要介護リスクが高くなるため、健康教育の内容に組み込む等により、引き続き知識の普及・啓発に努める必要があります。
- 肥満度1以上の方が前回調査に比べ増加し、全体では23.5%ですが、男性30代から60代、女性の50代は全体を上回り、特に男性の50代は39.5%と4割に達しています。日常生活の中で歩く機会や、身体を動かす機会を持つために、運動習慣を取り入れるための事業や情報提供の推進に努める必要があります。

(3) 指標・目標値の見直し

○ 削除する指標

指標	削除理由
スポーツリーダーバンクの登録数	スポーツリーダーバンク制度は、令和4年3月31日付けで廃止となっているため

(基本施策4) 休養とこころの健康づくり

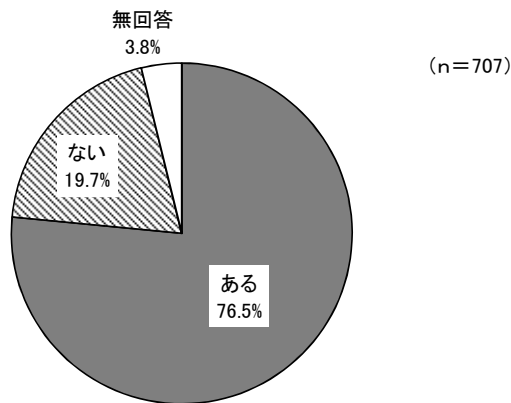
自殺者の割合は減少していますが、相談相手がいる人の割合は、男性は増加していますが女性は減少しています。また、十分な睡眠をとれていない人の割合はほぼ横這いとなっています。

指標		平成 28 年度 策定時	中間値	令和 8 年度 目標値	判定
自殺者の割合	全体	21.3 (人口 10 万 対)	16.69 (令和 3 年 度)	減少	◎
困ったことや悩み事等の相談相手 がいる人の割合	全体	78.8%	77.4% (令和 4 年 度)	増加	△
	男性	70.0%	73.1% (令和 4 年 度)	増加	○
	女性	85.1%	80.8% (令和 4 年 度)	増加	×
十分な睡眠をとれていない人の割合 (あまりとれていない・まったくと れていない人の合計)	全体	23.9%	23.3% (令和 4 年 度)	減少	△

(1) 健康意識調査結果

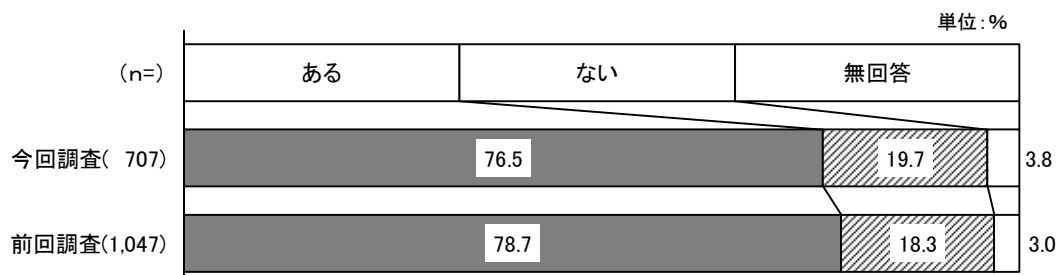
① 趣味や楽しみの有無

「ある」76.5%、「ない」19.5%となっています。



◆ 前回調査との比較

「ある」がやや減り、「ない」がやや増えています。



【健康状態別】

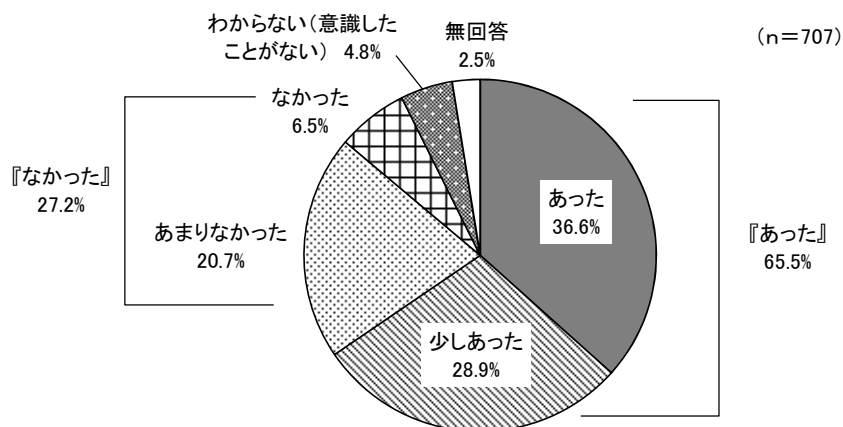
健康状態が「よい」「まあよい」とした人は、いずれも「ある」が8割を超えますが、「よくない」「あまりよくない」とした人はいずれも5割台にとどまります。

単位：%

		(n)	ある	ない	無回答
健康状態	よい	137	87.6	10.9	1.5
	まあよい	162	84.0	13.0	3.1
	ふつう	302	74.8	22.5	2.6
	あまりよくない	83	57.8	32.5	9.6
	よくない	16	56.3	37.5	6.3

② この1か月の不満・悩み等の有無

「あった」36.3%、「少しあった」28.9%を合わせた『あった』は65.5%、これに対し「なかった」6.5%、「あまりなかった」20.7%を合わせた『なかった』は27.2%となっています。



【性・年代別】

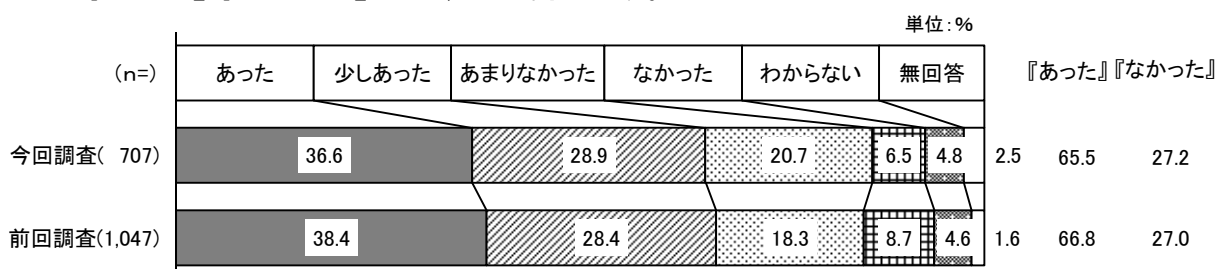
『あった』は女性42.5%が男性の28.5%を上回り、女性の20代、30代では9割、40代でも8割を超え、女性に多くなっています。

単位：%

		(n)	あった	少しあった	あまりなかった	なかった	わからない(意識したことがない)	無回答	『あった』	『なかった』
性別	男性	305	28.5	25.2	27.2	8.5	6.9	3.6	53.7	35.7
	女性	395	42.5	31.6	15.7	5.1	3.3	1.8	74.1	20.8
性・年代別	男性-20代	22	45.5	22.7	22.7	0.0	9.1	0.0	68.2	22.7
	男性-30代	26	46.2	26.9	15.4	3.8	7.7	0.0	73.1	19.2
	男性-40代	44	47.7	25.0	15.9	2.3	6.8	2.3	72.7	18.2
	男性-50代	38	31.6	39.5	23.7	2.6	2.6	0.0	71.1	26.3
	男性-60代	59	16.9	25.4	35.6	11.9	5.1	5.1	42.3	47.5
	男性-70歳以上	115	19.1	20.9	31.3	13.9	8.7	6.1	40.0	45.2
	女性-20代	32	65.6	28.1	3.1	3.1	0.0	0.0	93.7	6.2
	女性-30代	57	61.4	29.8	7.0	1.8	0.0	0.0	91.2	8.8
	女性-40代	75	56.0	28.0	12.0	2.7	1.3	0.0	84.0	14.7
	女性-50代	58	48.3	22.4	17.2	6.9	5.2	0.0	70.7	24.1
	女性-60代	64	32.8	34.4	21.9	4.7	1.6	4.7	67.2	26.6
女性-70歳以上	109	19.3	39.4	22.0	8.3	7.3	3.7	58.7	30.3	

◆ 前回調査との比較

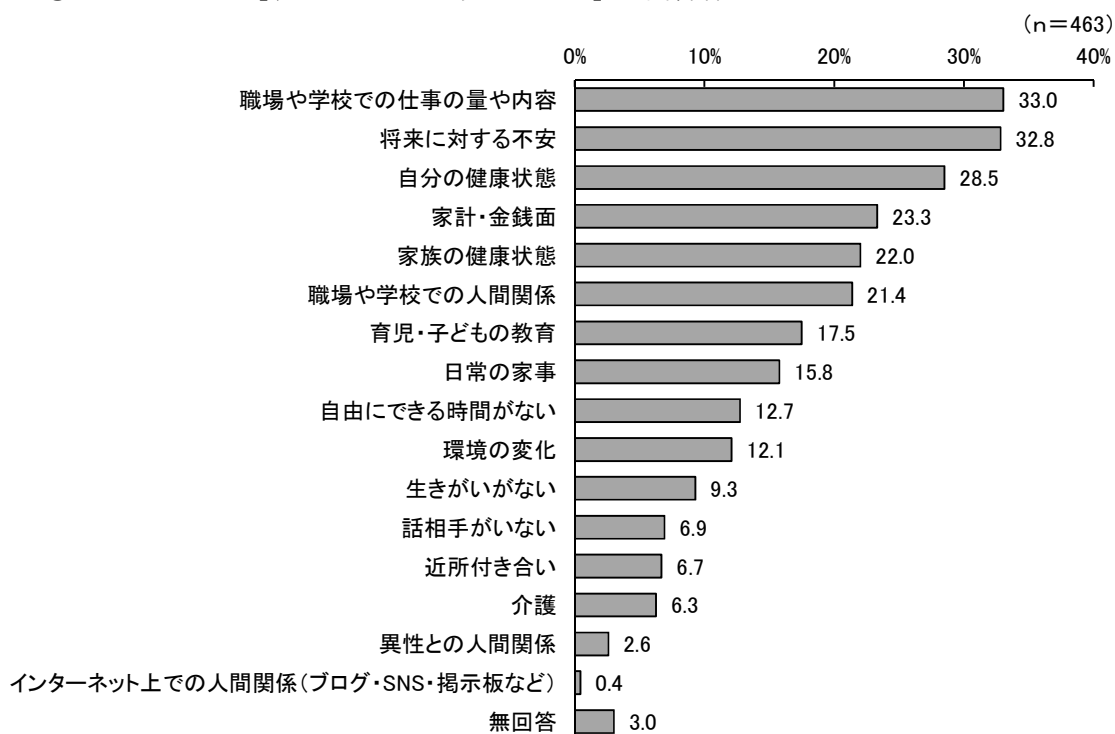
『あった』『なかった』とも、ほぼ同じです。



③ 不安・悩み等の原因

「職場や学校での仕事の量や内容」が最も多く 33.0%、次いで「将来に対する不安」32.8%、「自分の健康状態」28.5%、「家計・金銭面」23.3%などとなっています。

※ ①で「1. あった」、または「2. 少しあった」の回答者より



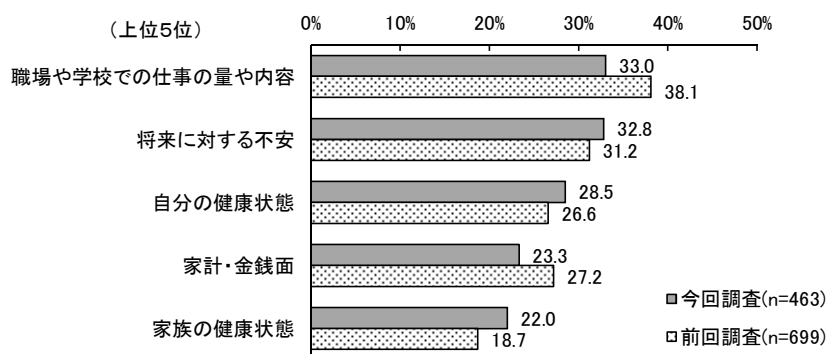
【性・年代別】

「職場や学校での仕事の量や内容」は男性の30代から50代、「将来に対する不安」は男女とも20代、「育児・子どもの教育」は女性の30代、40代で多くあげられています。

		(n)	職場や学校での仕事の量や内容	将来に対する不安	自分の健康状態	家計・金銭面	家族の健康状態	職場や学校での人間関係	育児・子どもの教育	日常の家事	自由にできる時間がない	環境の変化	生きがいがない	話相手がない	近所付き合い	介護	異性との人間関係	インターネット上での人間関係 (ブログ・SNS・掲示板など)	無回答
性・年代別	男性-20代	15	46.7	46.7	6.7	13.3	6.7	33.3	0.0	0.0	20.0	20.0	13.3	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
	男性-30代	19	63.2	36.8	15.8	31.6	21.1	36.8	21.1	5.3	21.1	10.5	21.1	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0
	男性-40代	32	53.1	34.4	15.6	31.3	18.8	31.3	25.0	3.1	12.5	9.4	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	3.1	0.0
	男性-50代	27	74.1	22.2	22.2	11.1	18.5	25.9	3.7	3.7	0.0	11.1	7.4	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	男性-60代	25	28.0	36.0	24.0	12.0	16.0	24.0	4.0	4.0	4.0	8.0	12.0	4.0	8.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	男性-70歳以上	46	4.3	26.1	47.8	10.9	21.7	4.3	0.0	6.5	4.3	15.2	6.5	8.7	6.5	13.0	0.0	0.0	8.7
	女性-20代	30	46.7	53.3	20.0	46.7	20.0	33.3	20.0	6.7	26.7	13.3	6.7	6.7	3.3	3.3	13.3	3.3	0.0
	女性-30代	52	42.3	26.9	23.1	28.8	3.8	28.8	44.2	30.8	26.9	9.6	7.7	5.8	3.8	0.0	5.8	0.0	3.8
	女性-40代	63	31.7	27.0	28.6	27.0	19.0	27.0	46.0	28.6	15.9	4.8	4.8	7.9	6.3	6.3	1.6	0.0	3.2
	女性-50代	41	41.5	39.0	26.8	26.8	24.4	26.8	9.8	22.0	9.8	12.2	12.2	12.2	4.9	14.6	0.0	0.0	0.0
	女性-60代	43	23.3	34.9	27.9	25.6	39.5	16.3	9.3	18.6	7.0	11.6	11.6	14.0	11.6	9.3	2.3	0.0	2.3
女性-70歳以上	64	3.1	32.8	45.3	17.2	39.1	3.1	1.6	17.2	9.4	18.8	10.9	4.7	12.5	10.9	0.0	0.0	4.7	

◆ 前回調査との比較

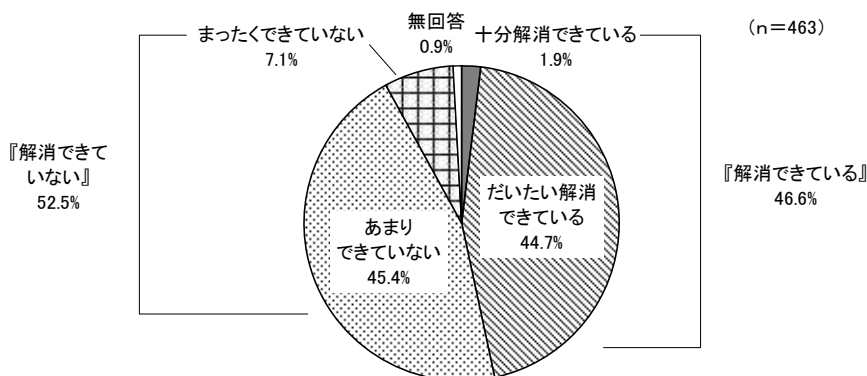
増えているのは「将来に対する不安」「自分の健康状態」「家族の健康状態」です。



④ 不安・悩み等が解消できているか

「十分解消できている」1.9%、「だいたい解消できている」44.7%を合わせた『解消できている』は46.6%、これに対し「まったくできていない」7.1%、「あまりできていない」45.4%を合わせた『解消できていない』は52.5%であり、『解消できていない』が『解消できている』をやや上回ります。

※ ①で「1. あった」、または「2. 少しあった」の回答者より



【性・年代別】

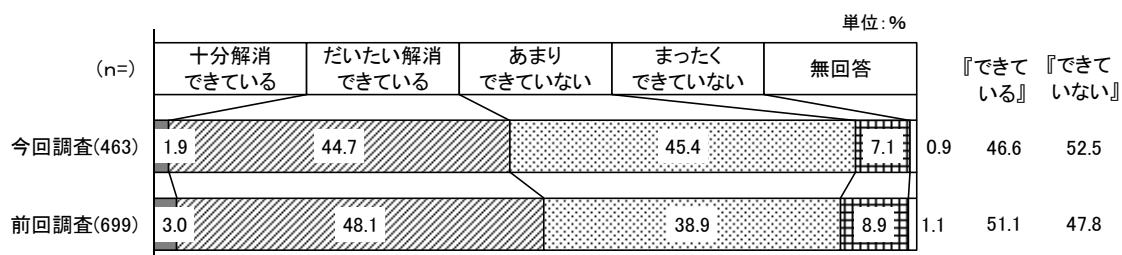
『解消できていない』は、男性の20代で73.7%と他の年代を大きく上回ります。

単位：%

		(n)	十分解消 できている	だいたい解消 できている	あまりでき ていない	まったくでき ていない	無回答	『解消できて いる』	『解消できて いない』
性・ 年代 別	男性-20代	15	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	60.0	40.0
	男性-30代	19	5.3	21.1	63.2	10.5	0.0	26.4	73.7
	男性-40代	32	9.4	50.0	31.3	9.4	0.0	59.4	40.7
	男性-50代	27	0.0	55.6	37.0	7.4	0.0	55.6	44.4
	男性-60代	25	4.0	36.0	48.0	12.0	0.0	40.0	60.0
	男性-70歳以上	46	0.0	39.1	47.8	8.7	4.3	39.1	56.5
	女性-20代	30	6.7	43.3	46.7	3.3	0.0	50.0	50.0
	女性-30代	52	1.9	48.1	44.2	3.8	1.9	50.0	48.0
	女性-40代	63	1.6	52.4	39.7	6.3	0.0	54.0	46.0
	女性-50代	41	0.0	43.9	39.0	17.1	0.0	43.9	56.1
	女性-60代	43	0.0	48.8	41.9	7.0	2.3	48.8	48.9
	女性-70歳以上	64	0.0	40.6	57.8	1.6	0.0	40.6	59.4

◆ 前回調査との比較

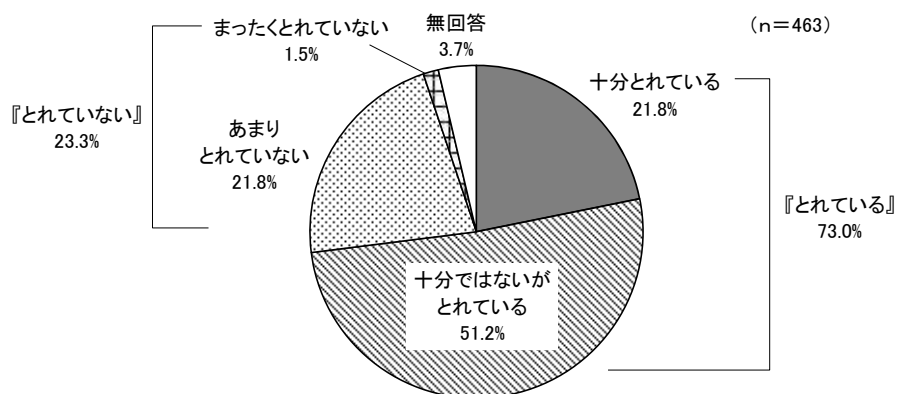
『できている』が減り、『できていない』が増えています。



⑤ 十分な睡眠がとれているか

「十分とれている」21.8%、「十分ではないがとれている」51.2%を合わせた『とれている』は73.0%、これに対し「まったくとれていない」1.5%、「あまりとれていない」21.8%を合わせた『とれていない』は23.3%となっています。

※ ①で「1. あった」、または「2. 少しあった」の回答者より



【性・年代別】

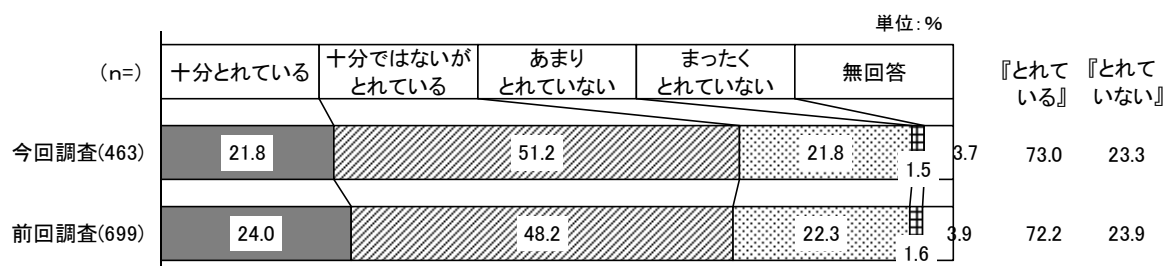
『とれていない』は男性40代、60代で3割を超えています。

単位:%

		(n)	十分とれている	十分ではないがとれている	あまりとれていない	まったくとれていない	無回答	『とれている』	『とれていない』
性・年代別	男性-20代	15	40.0	46.7	6.7	0.0	6.7	86.7	6.7
	男性-30代	19	42.1	42.1	15.8	0.0	0.0	84.2	15.8
	男性-40代	32	9.4	50.0	34.4	0.0	6.3	59.4	34.4
	男性-50代	27	18.5	63.0	7.4	3.7	7.4	81.5	11.1
	男性-60代	25	16.0	48.0	32.0	0.0	4.0	64.0	32.0
	男性-70歳以上	46	19.6	58.7	19.6	0.0	2.2	78.3	19.6
	女性-20代	30	26.7	53.3	13.3	0.0	6.7	80.0	13.3
	女性-30代	52	25.0	55.8	15.4	0.0	3.8	80.8	15.4
	女性-40代	63	22.2	44.4	25.4	4.8	3.2	66.6	30.2
	女性-50代	41	26.8	43.9	19.5	4.9	4.9	70.7	24.4
	女性-60代	43	18.6	48.8	30.2	2.3	0.0	67.4	32.5
	女性-70歳以上	64	17.2	57.8	23.4	0.0	1.6	75.0	23.4

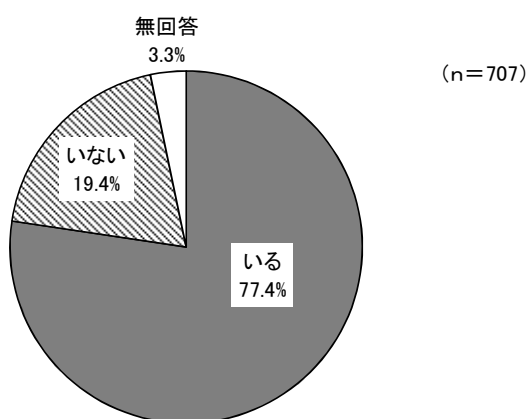
◆ 前回調査との比較

『とれている』はやや増えています、**「十分とれている」**は減っています。



⑥ 身の回りに相談できる人がいるか

「いる」77.4%、「いない」19.4%となっています。



【性・年代別】

「いない」は、男性の40代から60代で3割程度あげられています。

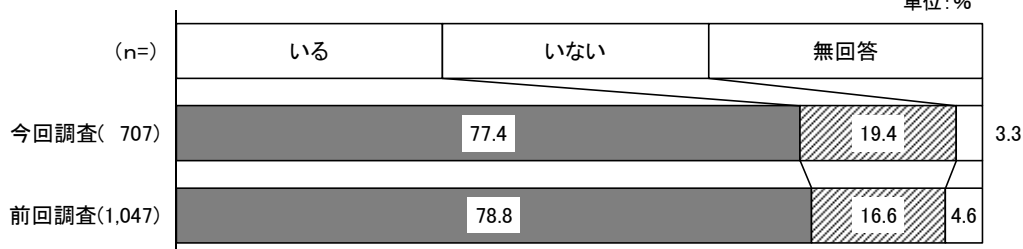
単位：%

		(n)	いる	いない	無回答
性・年代別	男性-20代	22	77.3	22.7	0.0
	男性-30代	26	88.5	11.5	0.0
	男性-40代	44	68.2	29.5	2.3
	男性-50代	38	71.1	28.9	0.0
	男性-60代	59	67.8	30.5	1.7
	男性-70歳以上	115	73.9	17.4	8.7
	女性-20代	32	87.5	12.5	0.0
	女性-30代	57	94.7	5.3	0.0
	女性-40代	75	78.7	20.0	1.3
	女性-50代	58	77.6	20.7	1.7
	女性-60代	64	71.9	20.3	7.8
	女性-70歳以上	109	79.8	16.5	3.7

◆ 前回調査との比較

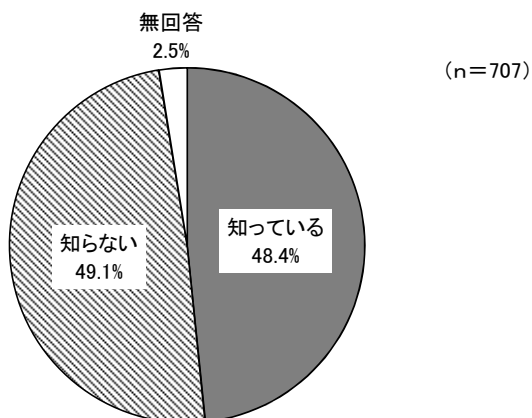
「いる」はほぼ同じですが、「いない」はやや増えています。

単位：%



⑦ 困りごと・悩みの相談場所を知っているか

「知っている」48.4%、「知らない」49.1%、ほぼ同じとなっています。



【性・年代別】

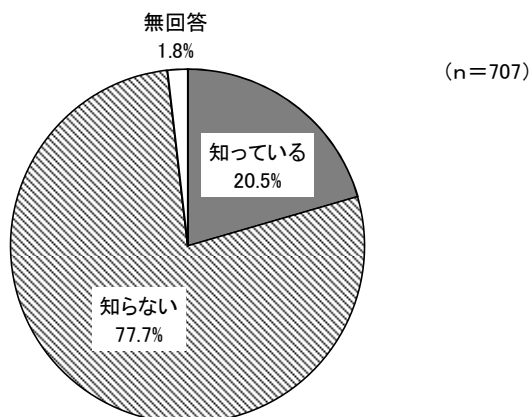
男性の70歳以上、女性の30代、70歳以上では「知っている」が「知らない」を上回りますが、男性40代、50代では「知らない」が6割を超えています。

単位：%

		(n)	知っている	知らない	無回答
性・年代別	男性-20代	22	45.5	54.5	0.0
	男性-30代	26	50.0	50.0	0.0
	男性-40代	44	36.4	63.6	0.0
	男性-50代	38	39.5	60.5	0.0
	男性-60代	59	45.8	52.5	1.7
	男性-70歳以上	115	49.6	44.3	6.1
	女性-20代	32	50.0	50.0	0.0
	女性-30代	57	66.7	31.6	1.8
	女性-40代	75	45.3	54.7	0.0
	女性-50代	58	46.6	53.4	0.0
	女性-60代	64	45.3	50.0	4.7
	女性-70歳以上	109	52.3	42.2	5.5

⑧ 市の自殺予防対策の認知

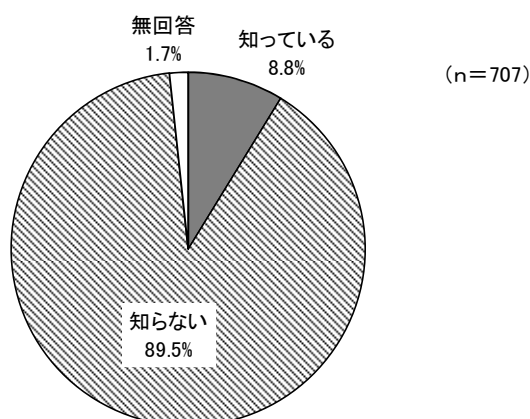
「知っている」20.5%、「知らない」77.7%となっています。



⑨ 「ゲートキーパー」※の認知

※ ゲートキーパー：悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ見守る人のことです。

「知っている」8.8%、「知らない」89.5%となっています。



(2) 今後の課題と取り組み

- 身の回りに相談できる人について、前回調査に比べ「いない」はやや増えていることやゲートキーパーについて「知っている」が8.8%であることから、相談窓口の周知など情報の提供に努めることに加え、ゲートキーパー養成講座を継続して実施し、ゲートキーパーの認知度向上への取り組みが必要となります。

(3) 指標・目標値の見直し

- 追加する指標

指標	現状値 令和3年度	目標値	追加理由
ゲートキーパー養成講座の受講者数(累計)	430人	700人	身の回りに相談できる人が増加しているかを評価するため。

(基本施策5) 禁煙・受動喫煙防止対策・適正飲酒への取り組み

妊娠中の飲酒率、受動喫煙の機会は減っています。COPD[※]を知っている人は増えています。一方で、妊娠中の喫煙率はやや増加し、飲酒の頻度が「毎日」の人の割合は増えています。

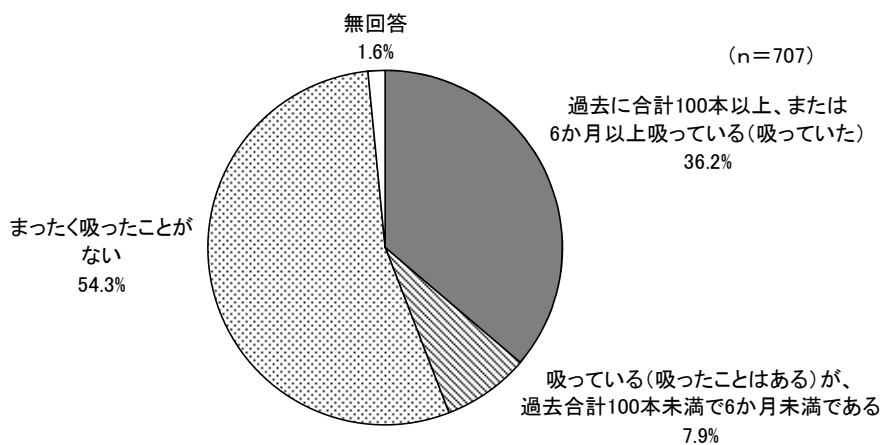
指標		平成28年度 策定時	中間値	令和8年度 目標値	判定
妊娠中の喫煙率	女性	1.1%	1.4% (令和3年度)	0%	×
妊娠中の飲酒率	女性	1.3%	0.7% (令和3年度)	0%	○
受動喫煙の機会があった人(職場)	全体	30.0%	16.3% (令和4年度)	減少	◎
受動喫煙の機会があった人(家庭)	全体	18.7%	11.9% (令和4年度)	減少	◎
COPDの認知度(どんな病気かよく知っている人)	全体	11.1%	16.0% (令和4年度)	80%	○
飲酒の頻度が「毎日」の人の割合	全体	15.9%	18.2% (令和4年度)	減少	×

※ COPD：咳や痰、息切れが主な症状で、「慢性気管支炎」と「肺気腫」のどちらか、または両方によって肺への空気の流れが悪くなる病気で、慢性閉塞性肺疾患ともいいます。長年の喫煙習慣が主な原因の肺の生活習慣病です。

(1) 健康意識調査結果

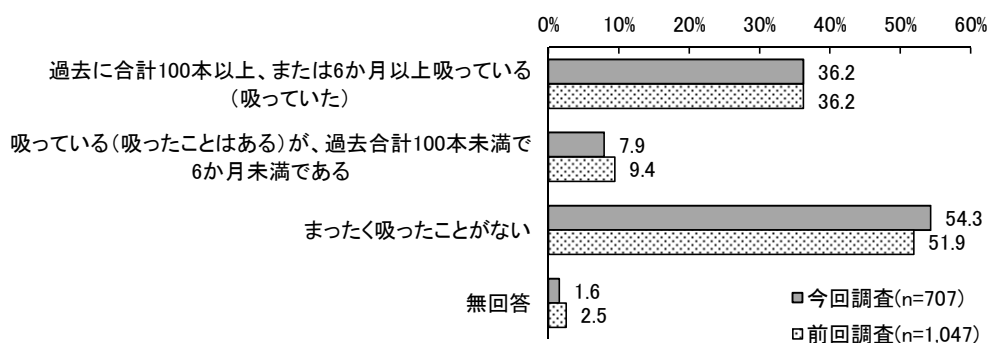
① 喫煙経験

「まったく吸ったことがない」が最も多く54.3%、次いで「過去に合計100本以上、または6か月以上吸っている(吸っていた)」36.2%、「吸っている(吸ったことはある)が、過去合計100本未満で6か月未満である」7.9%となっています。



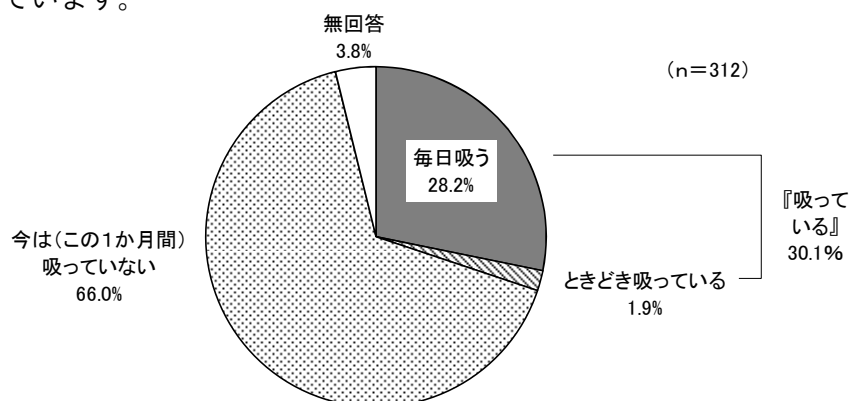
◆ 前回調査との比較

「まったく吸ったことがない」が、やや増えています。



① - 1 現在の喫煙状況

喫煙経験のある人のうち、「今は(この1か月間)吸っていない」66.0%に対し、「毎日吸う」28.2%、「ときどき吸っている」1.9%を合わせた『吸っている』は30.1%、約3割の人が現在も吸っています。



【性・年代別】

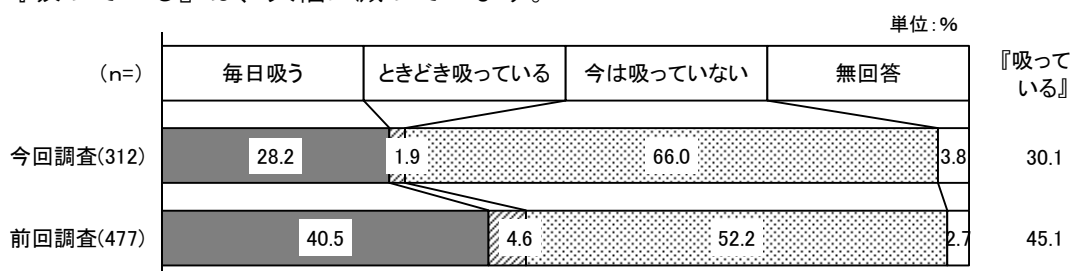
「毎日吸う」は女性の20代66.7%、男性の30代61.5%、男性の40代50.0%と続きます。

単位: %

		(n)	毎日吸う	ときどき吸っている	今は(この1か月間)吸っていない	無回答	『吸っている』
性・年代別	男性-20代	7	42.9	14.3	42.9	0.0	57.2
	男性-30代	13	61.5	0.0	38.5	0.0	61.5
	男性-40代	28	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	男性-50代	25	32.0	4.0	56.0	8.0	36.0
	男性-60代	46	39.1	2.2	58.7	0.0	41.3
	男性-70歳以上	79	12.7	0.0	78.5	8.9	12.7
	女性-20代	3	66.7	0.0	33.3	0.0	66.7
	女性-30代	13	15.4	7.7	69.2	7.7	23.1
	女性-40代	38	34.2	2.6	63.2	0.0	36.8
	女性-50代	22	9.1	0.0	90.9	0.0	9.1
	女性-60代	17	17.6	5.9	70.6	5.9	23.5
	女性-70歳以上	17	17.6	0.0	76.5	5.9	17.6

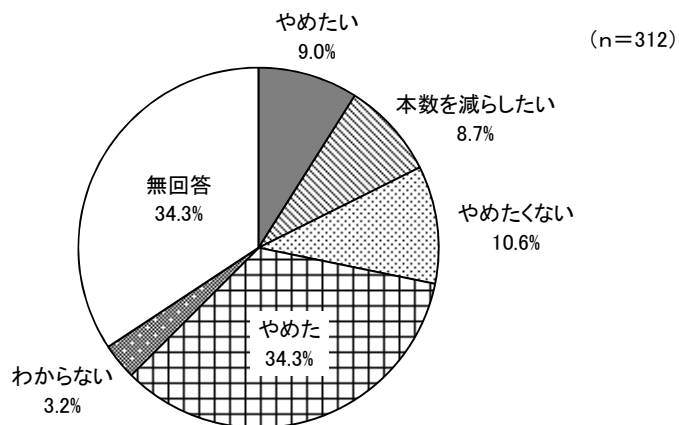
◆ 前回調査との比較

『吸っている』は、大幅に減っています。



①-2 禁煙の意向

「やめた」が 34.3%と最も多く、次いで「やめたくない」10.6%、「やめたい」9.0%、「本数を減らしたい」8.7%、「わからない」3.2%となっています。



【性・年代別】

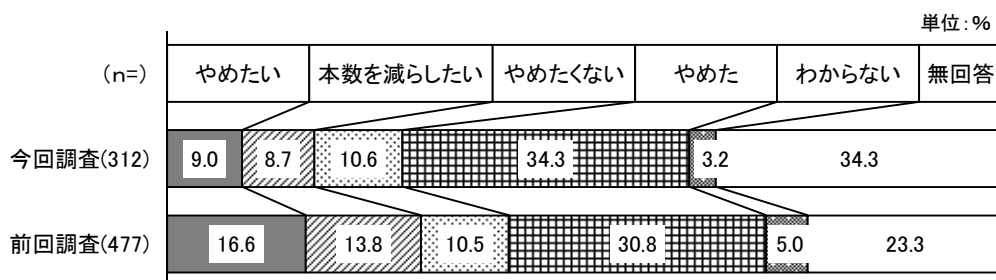
「やめたい」は男性の 20 代 42.9%、30 代 23.1%、女性の 40 代 18.4%が 2 ケタです。

単位: %

		(n)	やめたい	本数を減らしたい	やめたくない	やめた	わからない	無回答
性・年代別	男性-20代	7	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
	男性-30代	13	23.1	0.0	46.2	30.8	0.0	0.0
	男性-40代	28	7.1	17.9	21.4	35.7	3.6	14.3
	男性-50代	25	8.0	4.0	20.0	36.0	8.0	24.0
	男性-60代	46	8.7	10.9	15.2	32.6	4.3	28.3
	男性-70歳以上	79	3.8	6.3	1.3	40.5	0.0	48.1
	女性-20代	3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	女性-30代	13	7.7	15.4	0.0	38.5	7.7	30.8
	女性-40代	38	18.4	13.2	2.6	31.6	2.6	31.6
	女性-50代	22	4.5	4.5	4.5	40.9	0.0	45.5
	女性-60代	17	5.9	5.9	11.8	23.5	0.0	52.9
	女性-70歳以上	17	5.9	5.9	5.9	29.4	0.0	52.9

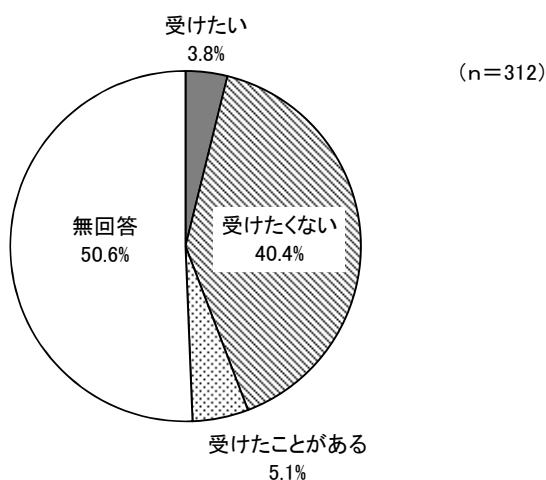
◆ 前回調査との比較

「やめたい」「本数を減らしたい」が減り、「やめたくない」が増えています。



①-3 禁煙外来の受診意向

「受けたい」3.8%、「受けたくない」40.4%、「受けたことがある」5.1%です。



【性・年代別】

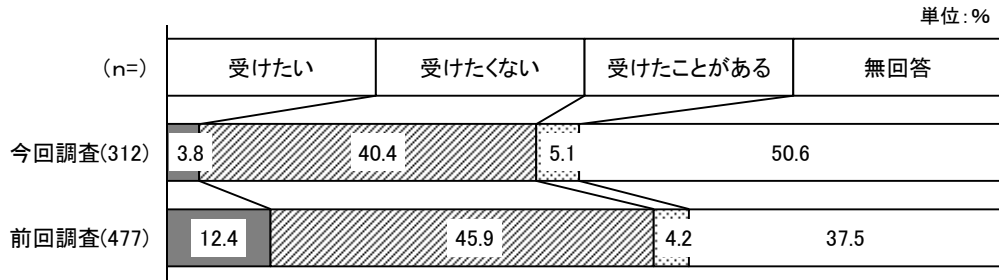
喫煙を「やめたい」が2ケタであった男性の20代、30代、女性の40代は、禁煙指導を「受けたい」についても2ケタとなっています。

単位: %

		(n)	受けたい	受けたくない	受けたことがある	無回答
性・年代別	男性-20代	7	14.3	85.7	0.0	0.0
	男性-30代	13	15.4	61.5	0.0	23.1
	男性-40代	28	0.0	60.7	10.7	28.6
	男性-50代	25	4.0	64.0	4.0	28.0
	男性-60代	46	0.0	47.8	4.3	47.8
	男性-70歳以上	79	1.3	25.3	5.1	68.4
	女性-20代	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	女性-30代	13	0.0	23.1	7.7	69.2
	女性-40代	38	15.8	36.8	2.6	44.7
	女性-50代	22	0.0	36.4	9.1	54.5
	女性-60代	17	0.0	29.4	5.9	64.7
	女性-70歳以上	17	0.0	17.6	5.9	76.5

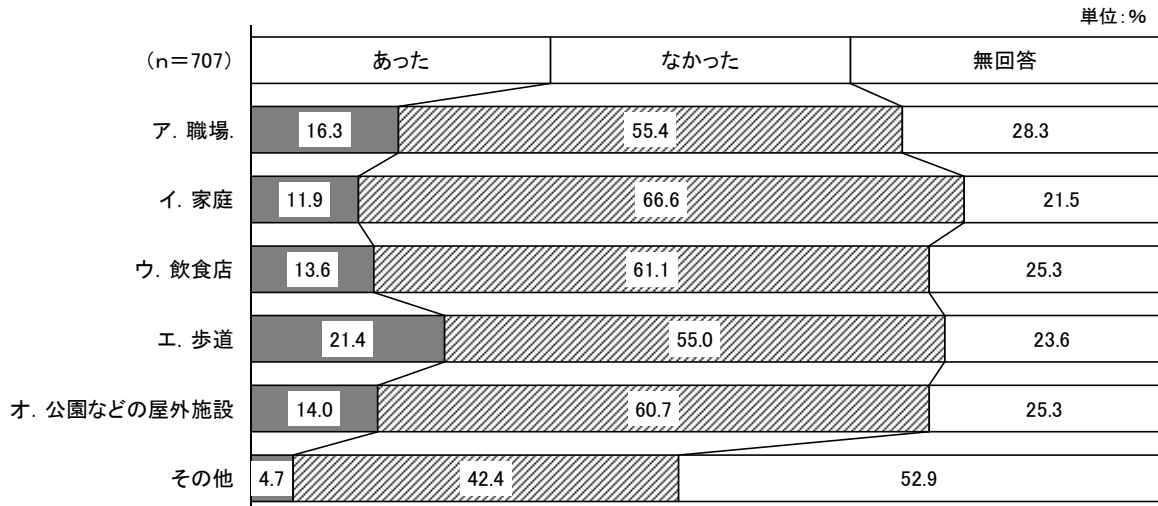
◆ 前回調査との比較

「受けない」「受けたくない」とともに減っています。



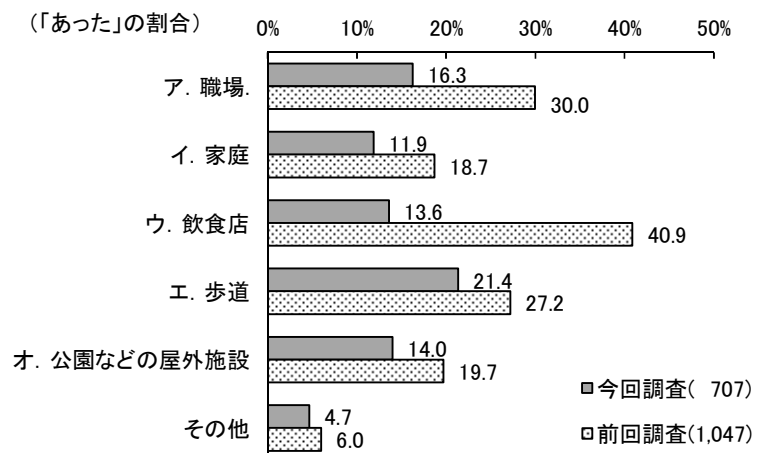
② 受動喫煙の経験

「あった」は歩道 21.4%、「職場」16.3%、「公園などの屋外施設」14.0%、「飲食店」13.6%、「家庭」11.9%となっています。



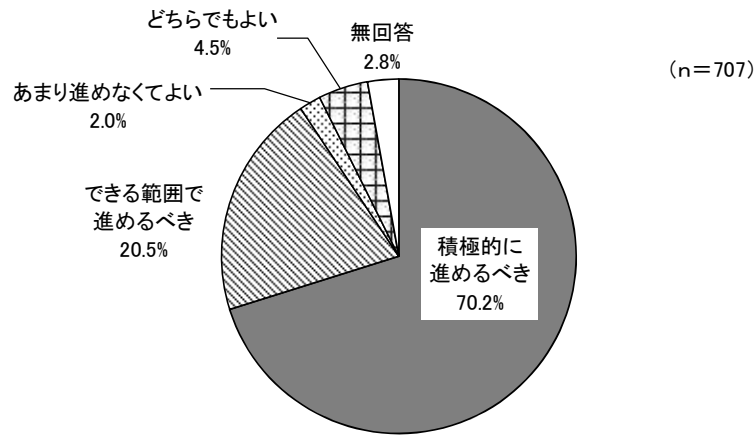
◆ 前回調査との比較

「あった」の割合は、いずれも減っています。



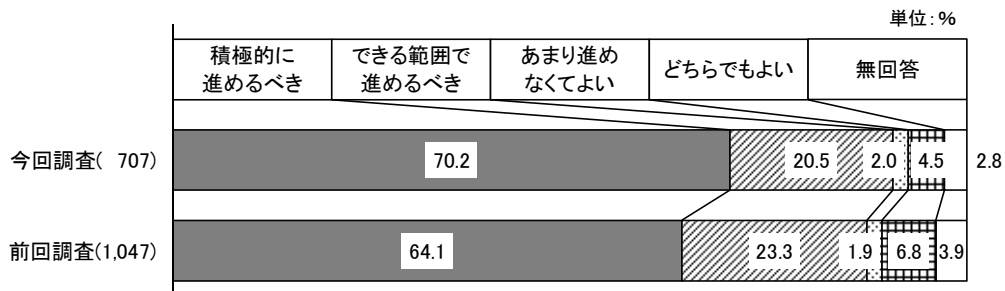
③ 分煙について

「積極的に進めるべき」70.2%、「できる範囲で進めるべき」20.5%、「どちらでもよい」4.5%、「あまり進めなくてよい」2.0%となっています。



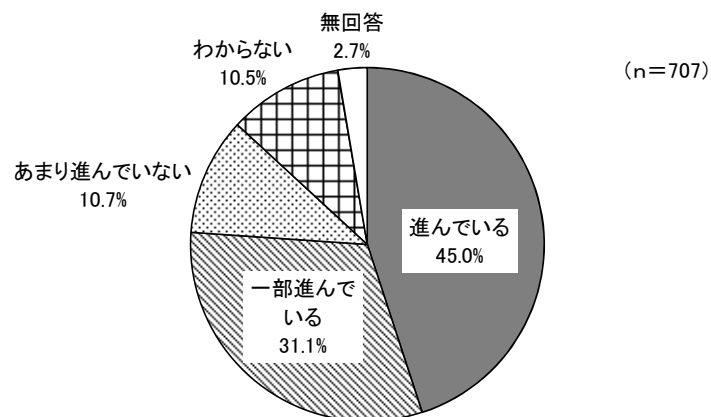
◆ 前回調査との比較

「積極的に進めるべき」が増えています。



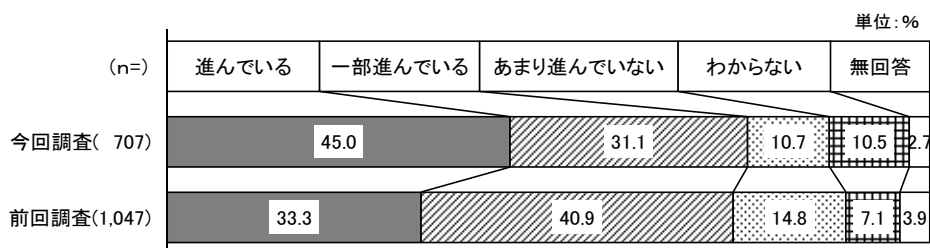
④ 周囲の分煙状況

「進んでいる」45.0%、「一部進んでいる」31.1%、「あまり進んでいない」10.7%、「わからない」10.5%となっています。



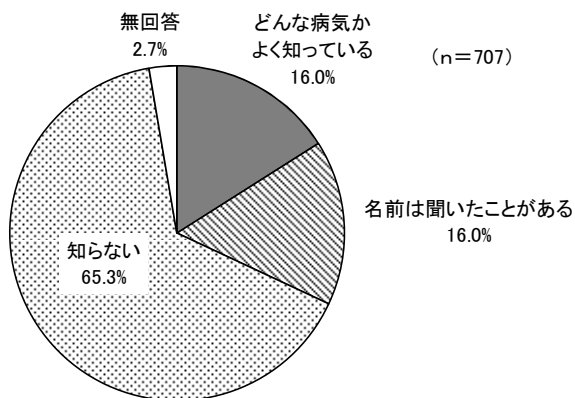
◆ 前回調査との比較

「進んでいる」は10ポイント以上増えています。



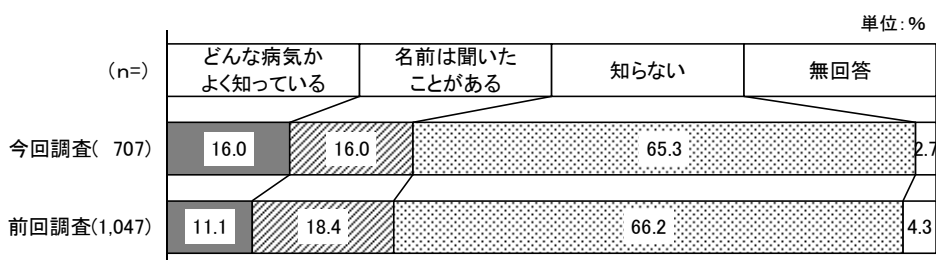
⑤ COPDの認知度

「知らない」65.3%が最も多く、「どんな病気かよく知っている」「名前は聞いたことがある」とともに16.0%となっています。



◆ 前回調査との比較

「どんな病気かよく知っている」が増え、認知度は高まりつつあります。



⑥ 飲酒の頻度

飲酒の頻度が「毎日」の人の割合18.2%

◆ 前回調査との比較

「毎日」が15.9%から18.2%とやや増えています。

(2) 今後の課題と取り組み

- 妊娠中の喫煙率が前回調査に比べ増えていることについて、妊娠中の喫煙は胎児に及ぼす影響が大きいことから、母子健康手帳交付時の面接や母親学級等で、引き続き妊娠中の喫煙・受動喫煙防止に向けて説明していくことが必要となります。
- 飲酒の頻度が「毎日」の人の割合が前回調査に比べやや増えています。過度の飲酒は、生活習慣病の原因となることや、アルコール依存症等についての正しい知識の普及を図ります。

(基本施策6) 歯と口腔の健康づくり

歯と口腔の健康づくりに関する指標は、多くで達成されています。かかりつけ医を持っている人の割合、むし歯のない人の割合、仕上げみがきをする親の割合、定期歯科検診を受けている人の割合、8020運動^{※1}について知っている人の割合はいずれも増加し、重度の歯周病に罹患している人の割合はやや減少しています。一方で、成人歯科検診の受診率は減少しています。

※1 8020（はちまるにいまる）運動：「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動です。20本以上の歯があれば、食生活にほぼ満足できると言われています。

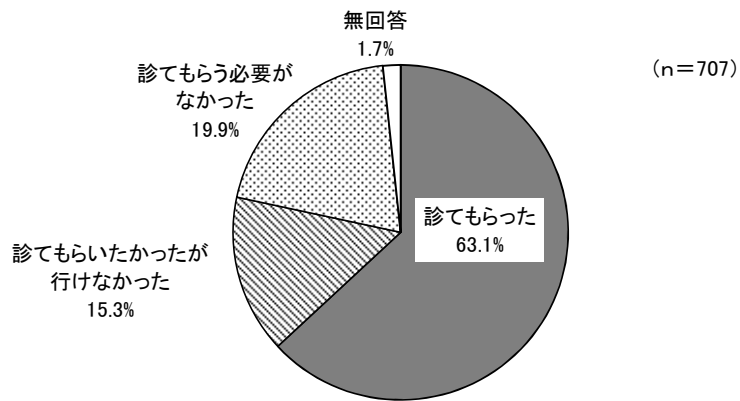
指標		平成28年度 策定時	中間値	令和8年 度 目標値	判定
かかりつけ歯科医を持っている者の割合	3歳児	38.2%	42.3% (令和3年度)	増加	◎
むし歯のない者の割合	3歳児	75.1%	86.9% (令和3年度)	80%以上	◎
	12歳児	65.4%	71.5% (令和3年度)	維持	◎
仕上げみがきをする親の割合	1歳6か月児	79.6%	94.8% (令和3年度)	100%	○
歯肉に炎症を有する者の割合	小学生	5.5%	3.9% (令和3年度)	減少	◎
	中学生	8.2%	7.1% (令和3年度)	減少	◎
成人歯科検診受診率	40歳以上	0.56%	0.33% (令和3年度)	増加	×
重症の歯周病に罹患している者の割合	40歳代	67.4% (27.4%) ^{※2}	66.7% (令和3年度)	20%以下	△
	50歳代	78.8% (42.4%) ^{※2}	73.7% (令和3年度)	20%以下	○
定期歯科検診を受けている者の割合	全体	32.1%	48.4% (令和4年度)	53.0%	○
8020運動について知っている者の割合	全体	19.5%	64.4% (令和4年度)	増加	◎

※2 歯周病検診マニュアルの見直しにより、歯周病の判定基準が変更となったため、括弧内は計画策定時（変更前）の数値を表示しています。

(1) 健康意識調査結果

① 歯科医院等の受診状況

この1年間の受診は、「診てもらった」63.1%、「診てもらいたかったが行けなかった」15.3%、「診てもらわなければならない」19.9%となっています。



【性別】

「診てもらった」は、女性 68.4%が男性 56.1%を上回ります。

【年代別】

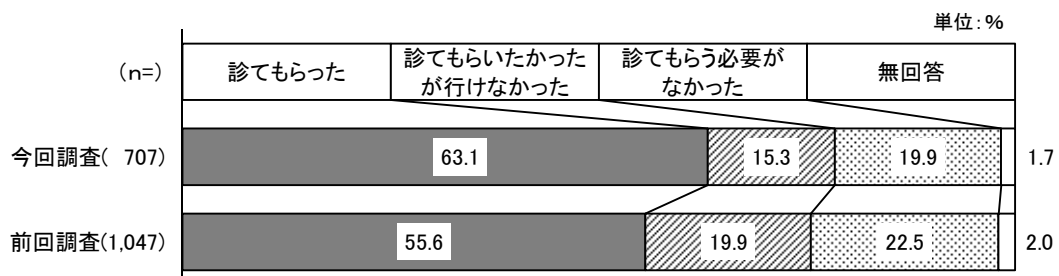
「診てもらった」は 20代 48.1%、30代 57.8%に対し、40代以上はいずれも 60%台となっています。

単位: %

		(n)	診てもらった	診てもらいたかったが行けなかった	診てもらう必要がなかった	無回答
性別	男性	305	56.1	14.1	28.2	1.6
	女性	395	68.4	15.9	13.9	1.8
年代別	20代	54	48.1	25.9	25.9	0.0
	30代	83	57.8	22.9	19.3	0.0
	40代	121	66.9	18.2	14.0	0.8
	50代	96	61.5	20.8	17.7	0.0
	60代	123	65.0	10.6	22.8	1.6
	70歳以上	227	65.6	8.8	21.6	4.0

◆前回調査との比較

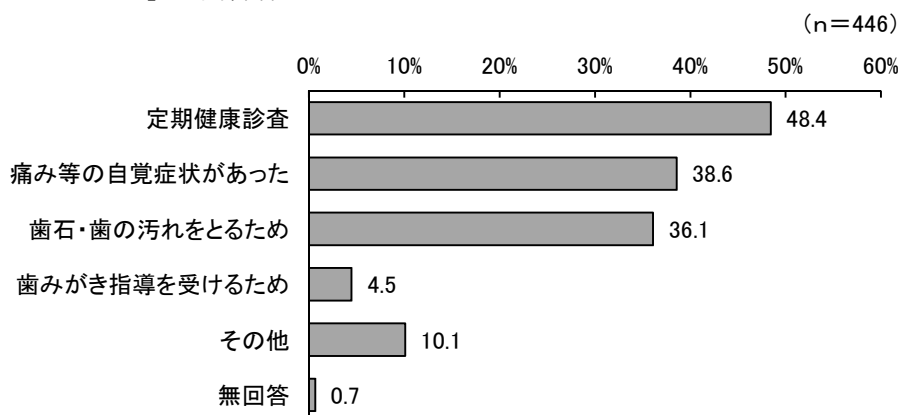
「診てもらった」は、10ポイント近く増えています。



①-1 歯科受診の理由

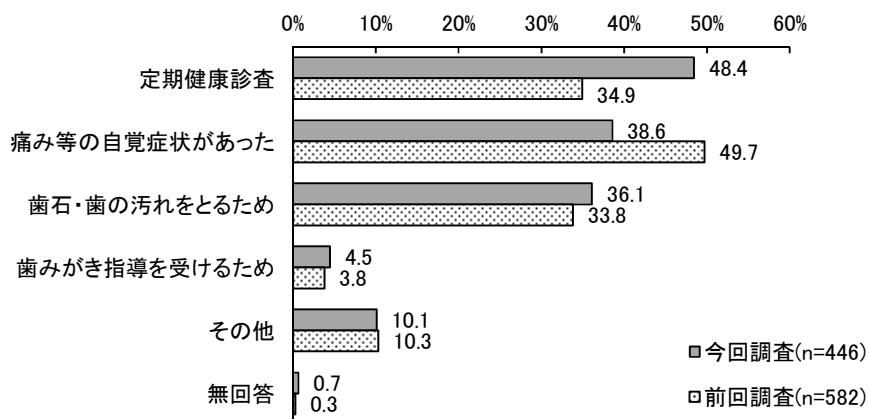
「定期健康診査」が最も多く 48.4%、次いで「痛み等の自覚症状があった」38.6%、「歯石・歯の汚れをとるため」36.1%などとなっています。

※ ①で「1. 診てもらった」の回答者より



◆ 前回調査との比較

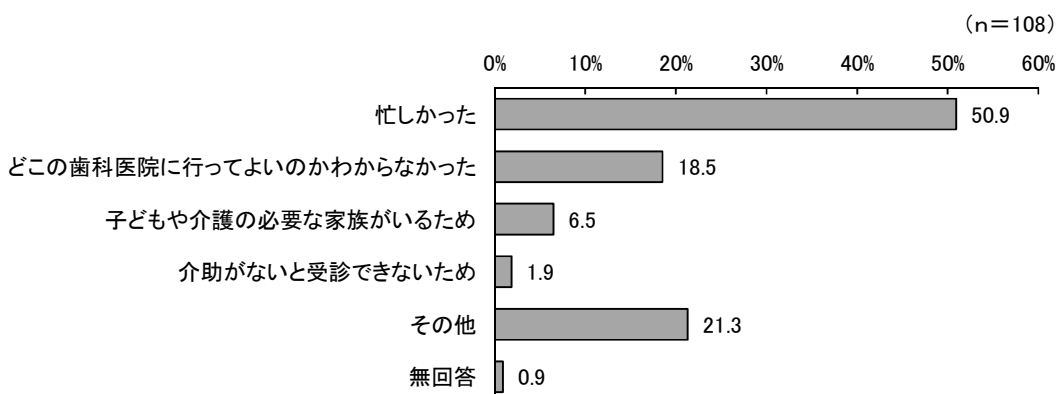
「定期健康診査」が10ポイント近く増え、「痛み等の自覚症状あった」は10ポイント以上減っています。



①-2 歯科受診ができなかった理由

「忙しかった」50.9%、「どこの歯科医院に行ってよいのかわからなかった」18.5%、「子どもや介護の必要な家族がいるため」6.5%などとなっています。

※ ①で「2. 診てもらいたかったが行けなかった」の回答者より



【年代別】

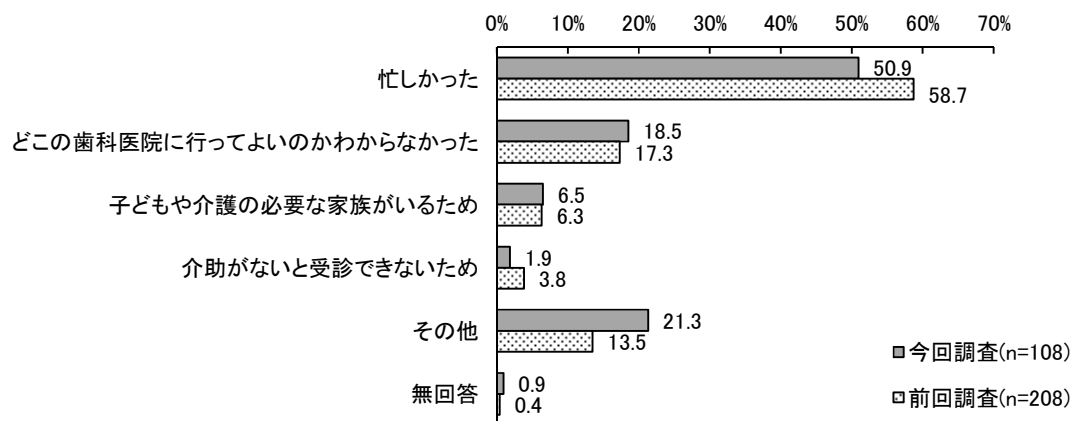
「どこの歯科医院に行ってよいのかわからなかった」は40代、50代が1ケタなのに対し、20代は35.7%、30代21.1%、60代23.1%、70歳以上25.0%となっています。

単位：%

		(n)	忙しかった	介助がないと受診できないため	子どもや介護の必要な家族がいるため	どこの歯科医院に行ってよいのかわからなかった	その他	無回答
年代別	20代	14	42.9	0.0	7.1	35.7	14.3	0.0
	30代	19	47.4	0.0	15.8	21.1	15.8	0.0
	40代	22	72.7	0.0	13.6	9.1	4.5	0.0
	50代	20	70.0	0.0	0.0	5.0	25.0	0.0
	60代	13	53.8	0.0	0.0	23.1	23.1	0.0
	70歳以上	20	15.0	10.0	0.0	25.0	45.0	5.0

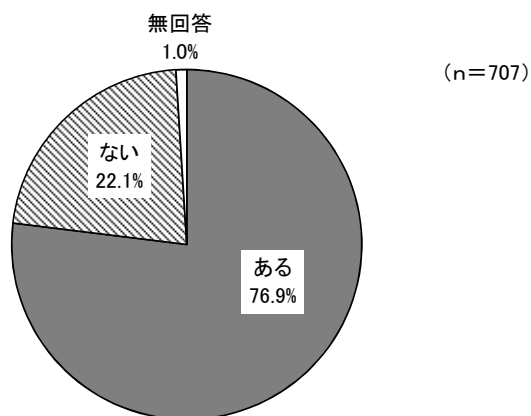
◆ 前回調査との比較

「忙しかった」は減っています。



② かかりつけ歯科医の有無

「ある」76.9%、「ない」22.1%となっています。



【性別】

「ある」は、女性82.3%が男性70.5%を上回ります。

【年代別】

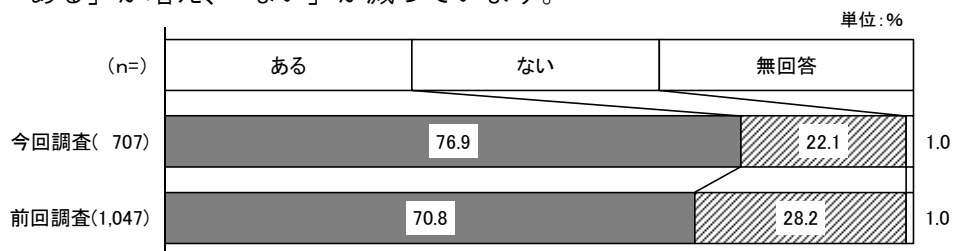
「ある」は60代の82.9%が最も多く、20代の61.1%が最も少なくなっています。

単位: %

		(n)	ある	ない	無回答
性別	男性	305	70.5	28.9	0.7
	女性	395	82.3	16.7	1.0
年代別	20代	54	61.1	38.9	0.0
	30代	83	73.5	26.5	0.0
	40代	121	75.2	24.8	0.0
	50代	96	77.1	22.9	0.0
	60代	123	82.9	16.3	0.8
	70歳以上	227	79.3	18.1	2.6

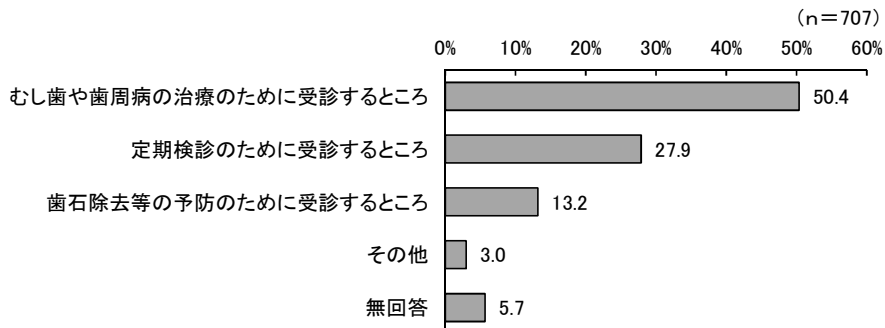
◆ 前回調査との比較

「ある」が増え、「ない」が減っています。



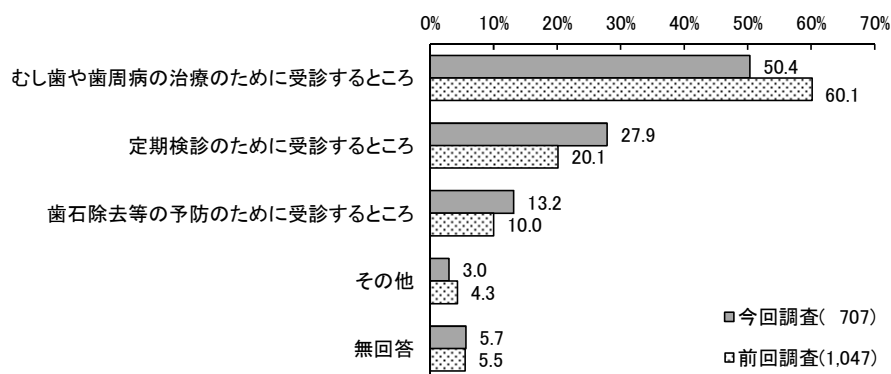
③ あなたの考えるかかりつけ歯科医とは

「むし歯や歯周病の治療のために受診するところ」50.4%、「定期検診のために受診するところ」27.9%、「歯石除去等の予防のために受診するところ」13.2%となっています。



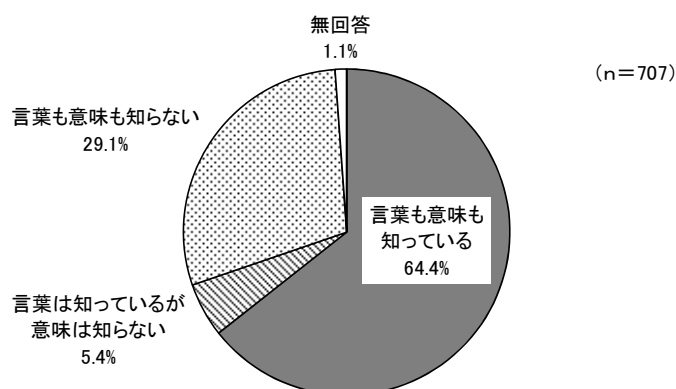
◆ 前回調査との比較

「むし歯や歯周病の治療のために受診するところ」「歯石除去等の予防のために受診するところ」が減り、「定期検診のために受診するところ」が増えています。



④ 8020 運動の認知度

「言葉も意味も知っている」64.4%、「言葉も意味も知らない」29.1%、「言葉は知っているが意味は知らない」5.4%となっています。



【性・年代別】

女性の20代は「言葉も意味も知らない」が43.8%と他の性・年代を上回ります。

単位: %

		(n)	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが意味は知らない	言葉も意味も知らない	無回答
性・年代別	男性-20代	22	54.5	9.1	36.4	0.0
	男性-30代	26	65.4	3.8	30.8	0.0
	男性-40代	44	50.0	9.1	38.6	2.3
	男性-50代	38	63.2	0.0	36.8	0.0
	男性-60代	59	52.5	6.8	39.0	1.7
	男性-70歳以上	115	61.7	3.5	32.2	2.6
	女性-20代	32	34.4	21.9	43.8	0.0
	女性-30代	57	75.4	1.8	22.8	0.0
	女性-40代	75	64.0	6.7	29.3	0.0
	女性-50代	58	74.1	5.2	20.7	0.0
	女性-60代	64	82.8	0.0	17.2	0.0
	女性-70歳以上	109	68.8	5.5	22.9	2.8

(2) 今後の課題と取り組み

- 幼児期、および学齢期における指標である“むし歯のない者の割合”や、“歯肉に炎症を有する者の割合”は、目標値を達成しています。引き続き歯科健康教育や保健指導を充実させ、歯と口腔の健康づくりの意識を高め、むし歯のない者の増加や歯肉に炎症を有する者が減少するよう努めます。
- 成人歯科検診の受診率は低下しています。しかし、かかりつけ歯科医をもつ割合については、前回調査から増加し、受診理由も定期歯科健診での受診が、約5割と、市民の歯と口腔の健康づくりへの認識は必ずしも低い割合ではないため、より受診をしやすい環境整備と受診勧奨に努めていきます。

- 成人期における重症の歯周病に罹患している割合が、策定時と比較し減少傾向にはありますが、目標値には達成していません。歯周病と生活習慣病、全身疾患との関連など歯と口腔の健康と全身の健康について啓発活動や情報提供の充実に取り組みます。

(3) 指標・目標値の見直し

- 目標値を見直す指標

指標		変更前	変更後	変更理由
重症の歯周病に罹患している者の割合	40歳代	20%以下	60%	検診基準が見直されたことにより、歯周病の算定方法が変更になったことから、見直し後の中間値をもとに目標値の見直しを行います。
	50歳代	20%以下	60%	

【基本目標2】ライフステージに合わせた健康づくりを行います

(基本施策1) 安心して子どもを産み育てられる支援体制の充実

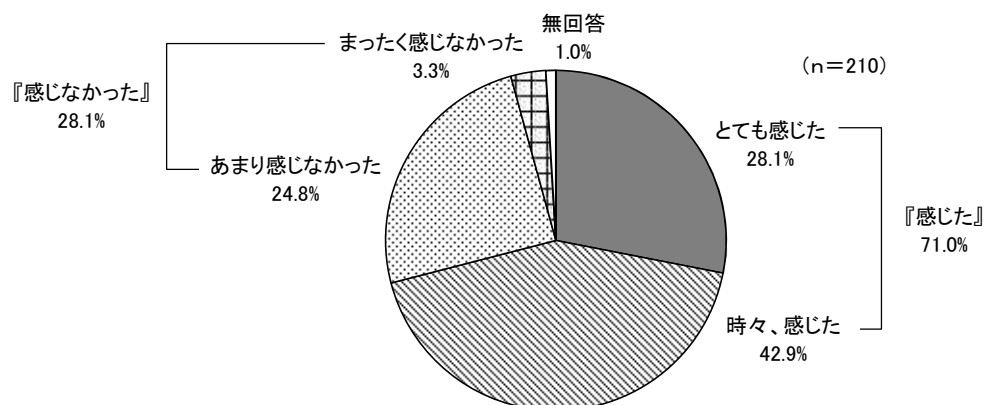
妊娠・出産について満足している人の割合は、目標値に達しています。1歳6か月児の健診の受診率は増加していますが、妊娠届出数の割合や3～6か月児の健診受診率の割合は減少し、未受診者の状況把握率も低下しています。2歳未満でのスマートフォンやタブレットの使用割合は大きく増加しています。

指標		平成28年度 策定時	中間値	令和8年 度 目標値	判定
妊娠11週以下での妊娠届出数の割合		95.7%	96.0% (令和3年度)	100%	△
低出生体重児の割合		5.7%	7.6% (令和3年度)	減少	×
妊娠・出産について満足している人の割合		76.9%	87.7% (令和3年度)	85%	◎
乳幼児健康診査の受診率	3～6か月児	85.0%	82.0% (令和3年度)	97%	△
	1歳6か月児	91.0%	94.2% (令和3年度)	97%	△
	3歳児	89.0%	89.8% (令和3年度)	95%	△
1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査の未受診者の状況把握率	1歳6か月児	81.0%	68.1% (令和3年度)	100%	×
	3歳児	89.4%	53.9% (令和3年度)	100%	×
2歳未満でスマートフォンやタブレット等を使用している割合		43.3%	81.0% (令和4年度)	減少	×

(1) 健康意識調査結果

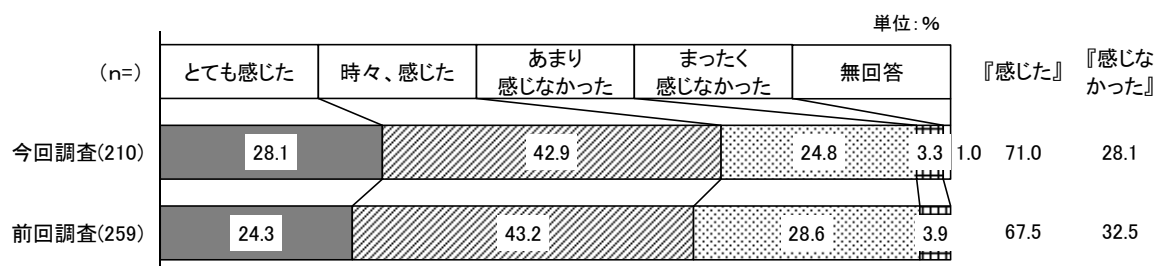
① 産後に不安や負担を感じたか

「とても感じた」28.1%、「時々感じた」42.9%を合わせた『感じた』は71.0%となっています。



◆ 前回調査との比較

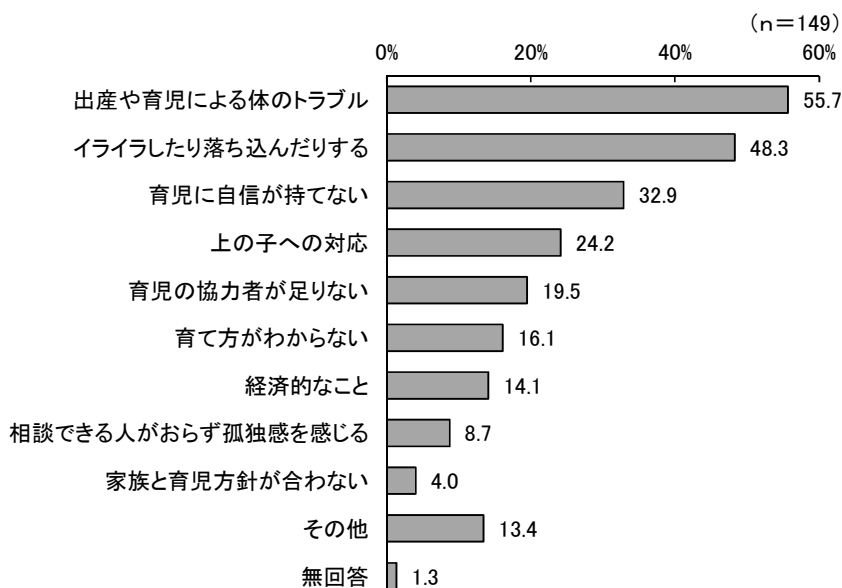
『感じた』は、前回調査の 67.5%と同程度となっています。



①-1 不安や負担の内容

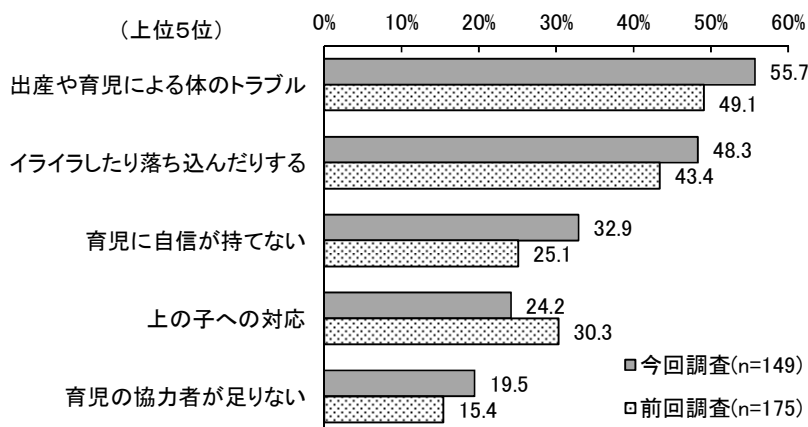
「出産や育児による体のトラブル」55.7%。「イライラしたり落ち込んだりする」48.3%、「育児に自信が持てない」32.9%、「上の子への対応」24.2%などとなっています。

※ ① で「1. とても感じた」、または「2. 時々、感じた」の回答者より



◆ 前回調査との比較

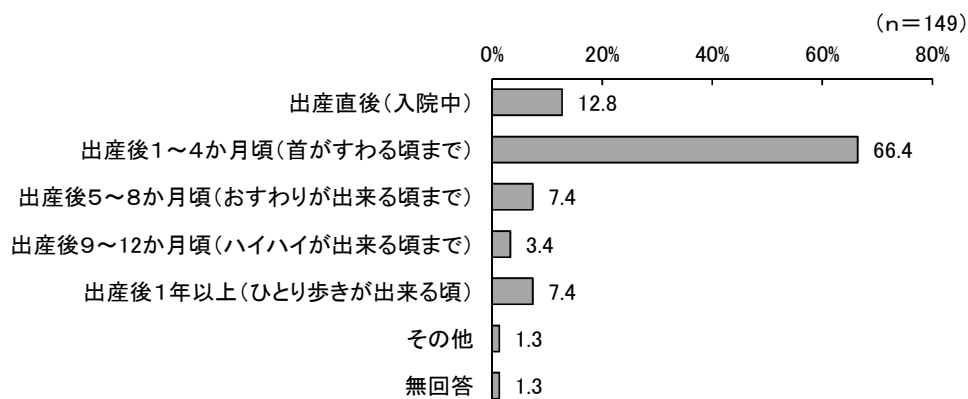
「育児に自信が持てない」は、前回調査の 25.1%を大きく上回ります。



②-2 もっとも不安や負担を感じた時期

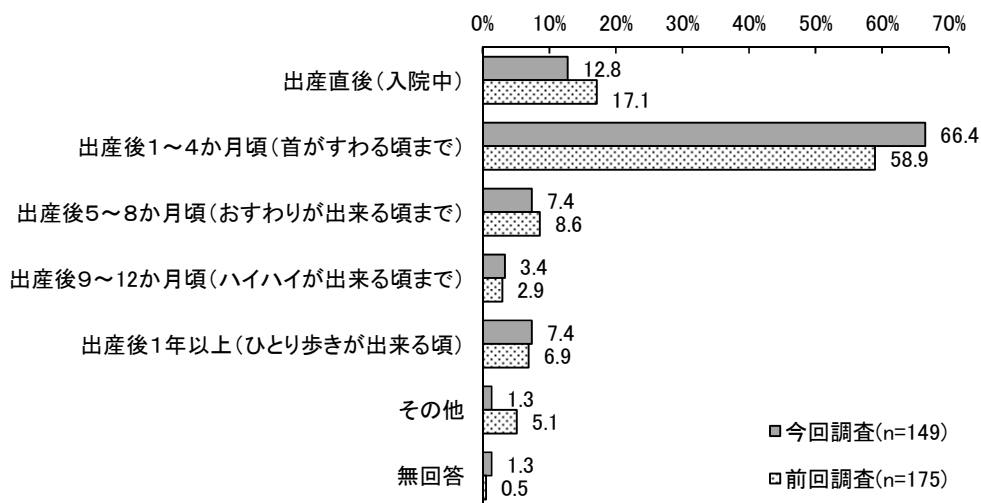
「出産後1～4か月頃（首がすわる頃まで）」が最も多く66.4%となっています。

※ ① で「1. とても感じた」、または「2. 時々、感じた」の回答者より



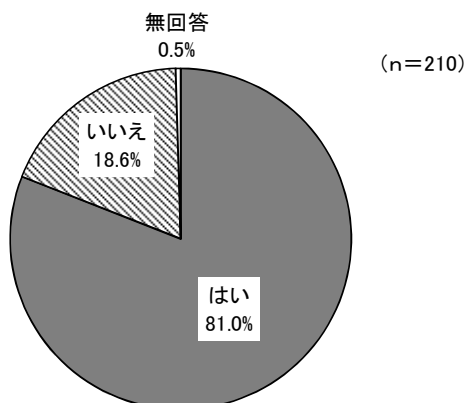
◆ 前回調査との比較

「出産後1～4か月頃（首がすわる頃まで）」は前回調査58.9%を上回ります。



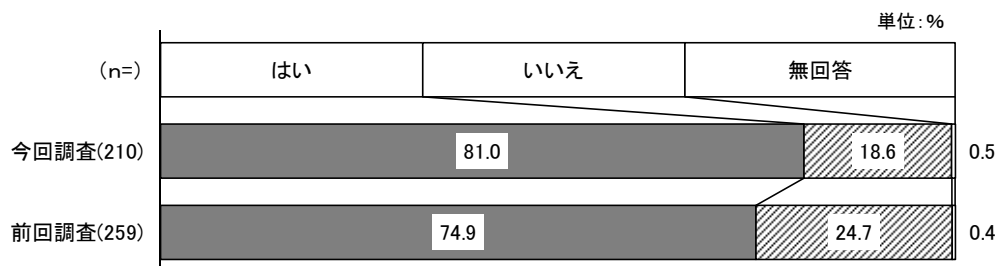
② 子どものスマートフォンやタブレットの使用の有無

「はい」81.0%、「いいえ」18.6%となっています。



◆ 前回調査との比較

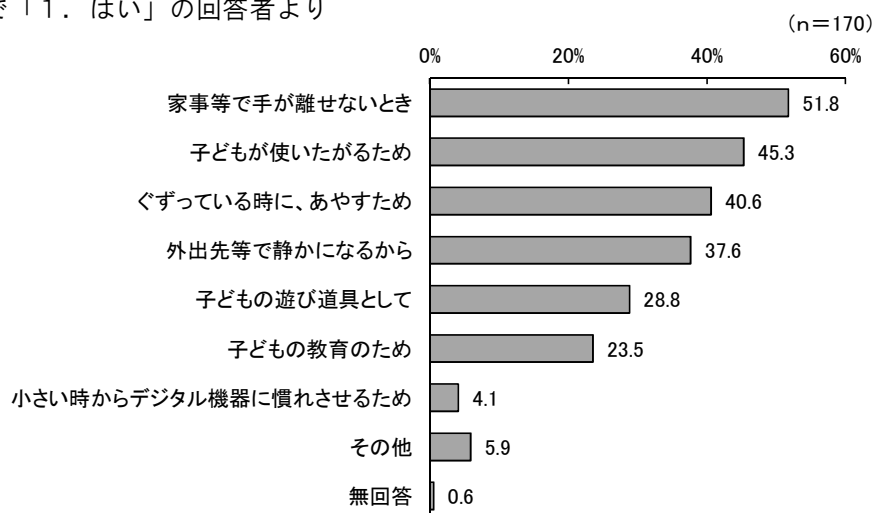
「はい」は、前回調査 74.9%を上回ります。



②-1 子どものスマートフォンやタブレットの使用目的

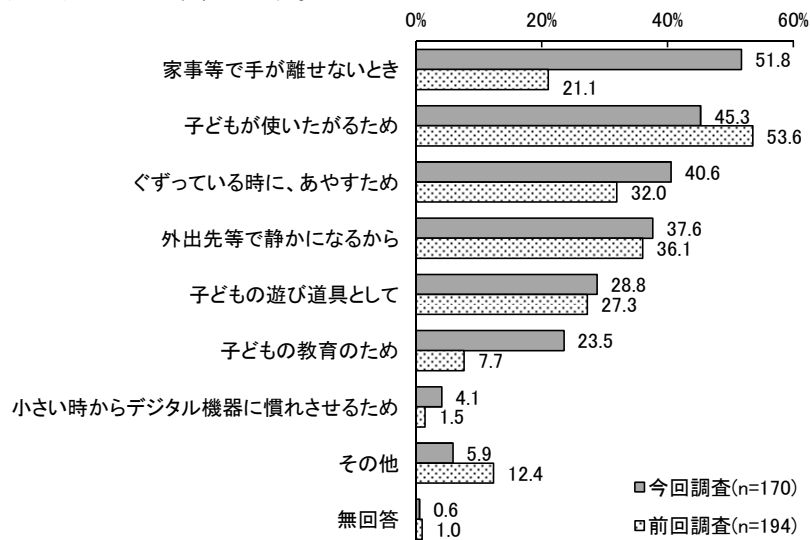
「家事等で手が離せないとき」51.8%、「子どもが使いたがるため」45.3%、「ぐずっている時に、あやすため」40.6%、「外出先等で静かになるから」37.6%などとなっています。

※ ②で「1. はい」の回答者より



◆ 前回調査との比較

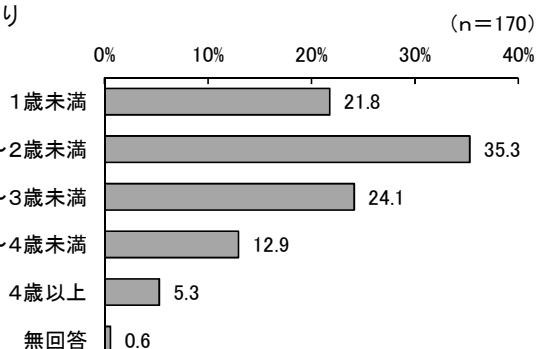
「家事等で手が離せないとき」は前回調査 21.1%を、「子どもの教育のため」は前回調査 7.7%を大きく上回ります。



②-2 子どものスマートフォンやタブレットの使用開始時期

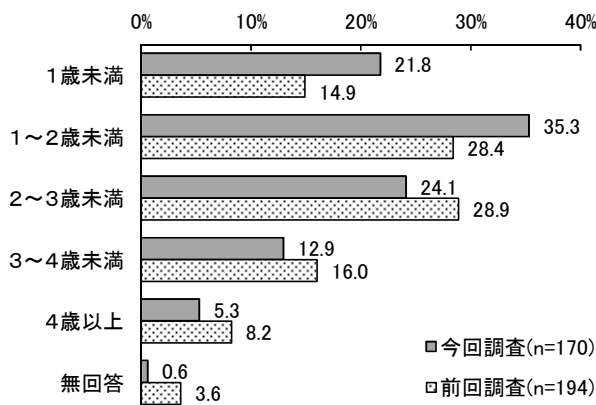
最も多いのが「1～2歳未満」35.3%、次いで「2～3歳未満」24.1%、「1歳未満」21.8%、「3～4歳未満」12.9%、「4歳以上」5.3%となっています。

※ ②で「1. はい」の回答者より



◆ 前回調査との比較

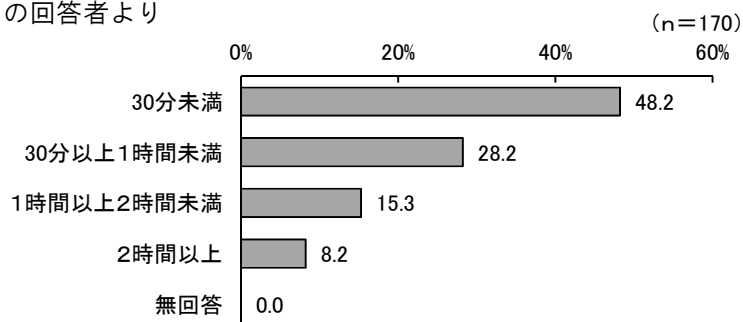
「1歳未満」「1～2歳未満」が増え、前回調査より使用開始時期は早くなっています。



②-3 子どものスマートフォンやタブレットの1日の使用時間

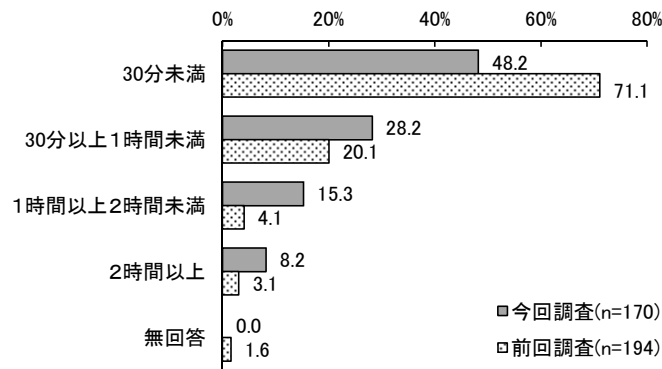
「30分未満」48.2%、「30分以上1時間未満」28.2%、「1時間以上2時間未満」15.3%、「2時間以上」8.2%となっています。

※ ②で「1. はい」の回答者より



◆ 前回調査との比較

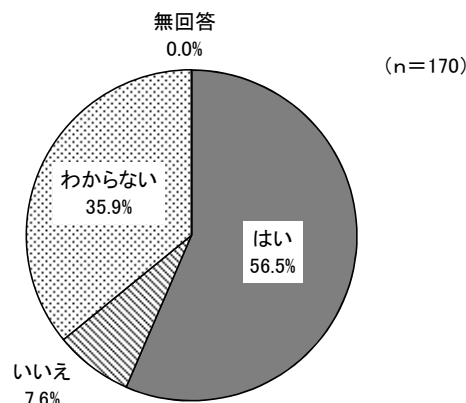
「30分未満」は前回調査71.1%を20ポイント以上下回り、「30分以上1時間未満」「1時間以上2時間未満」「2時間以上」はいずれも前回調査を上回っています。



②-4 スマートフォンやタブレットが子どもの役に立っているか

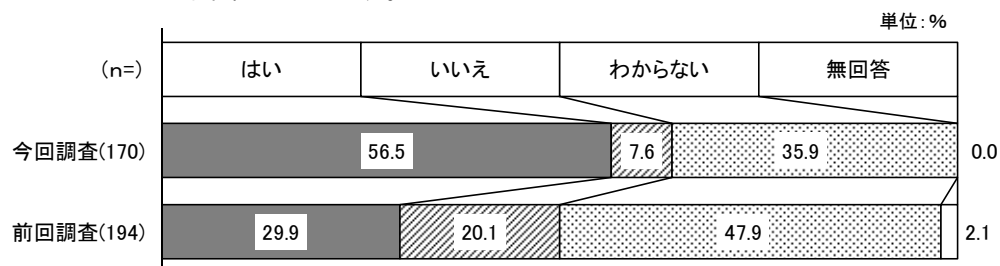
「はい」56.6%、「いいえ」7.6%、「わからない」35.9%となっています。

※ ②で「1. はい」の回答者より



◆ 前回調査との比較

「はい」は前回調査 29.9%を 26.6 ポイントも上回り、「いいえ」は前回調査 20.1%を 10ポイント以上下回っています。



(2) 今後の課題と取り組み

- 妊娠 11 週以下での妊娠届出数の割合は横ばいであり、届出の受付方法の見直しが必要となります。仕事等の都合やつわり等の体調で時間内の来所が難しい方には、事前のご相談の上で受付時間を過ぎての届出や、代理人申請を受け付けていますが、今後、妊娠届出書の電子申請も可能となるよう準備を進めていきます。
- 低出生体重児の割合は、増加しており、妊娠前からの女性の健康管理や、妊娠中の適正な食生活や体重管理、禁酒や禁煙についての啓発、ハイリスク妊婦への妊娠期からの継続的なケアが必要です。

- 乳幼児健康診査の受診率は低下していますが、健康診査は、子どもの健康状態の把握や保健相談、栄養相談、歯科相談等の場として活用されており、母子保健活動の根幹となるものです。受診勧奨等により受診率向上に努め、親子の健康の保持増進・育児不安の軽減を図る必要があります。
- 1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査の未受診者の状況把握率は低下しています。未受診者に対してハガキ送付及び地区担当保健師による電話や訪問を実施し、不在時は手紙を投函していますが、返答が得られないため、状況把握率が低下したと考えられます。今後、未受診者へのアプローチ方法を検討し、状況把握に努めます。
- 子どものスマートフォンやタブレットの使用目的は「家事等で手が離せないとき」が最も多く、使用割合が81.0%であり、前回調査に比べ大きく増加しています。メディアとの付き合い方や親子のコミュニケーションのとり方について助言・指導していきます。

(基本施策2) 次世代に向けた保健対策の充実

毎日の朝食摂取は、小学生・中学生とも目標値に達しています。10代で妊娠を知った時に戸惑いや、不安を感じた人の数も目標値に達しています。児童・生徒の痩身傾向児の割合は、女子は減少していますが、男子は横這い、肥満傾向児の割合は男子、女子とも増加しています。

指標		平成28年度 策定時	令和3年度 中間値	令和8年度 目標値	判定
児童・生徒の痩身傾向児の割合 (中1)	全体	2.7%	2.3%	1%	○
	男子	2.4%	2.4%	1%	△
	女子	3.2%	2.4%	1%	○
児童・生徒の肥満傾向児の割合 (中1)	全体	9.3%	11.9%	7%	×
	男子	10.9%	12.9%	7%	×
	女子	7.6%	10.9%	7%	×
毎日、朝食をとっている児童の割合(小学生)		84.0%	88.0%	88%	◎
毎日、朝食をとっている生徒の割合(中学生)		76.8%	84.9%	83%	◎
歯肉に炎症のある10代の割合(小学生)		5.5%	3.9%	減少	◎
歯肉に炎症のある10代の割合(中学生)		8.2%	7.1%	減少	◎
10代で妊娠を知った時に、戸惑ったり不安を感じた人の人数		6名	0名	0名	◎

〈今後の課題と取り組み〉

- 児童・生徒の痩身傾向児の割合において、男子の平成28年度から令和3年度の数値が横ばいです。一方で、児童・生徒の肥満傾向児の割合においては、男女ともに上昇しています。思春期特有のボディイメージに対する意識を尊重しつつ、外出や運動の機会及び食事等の生活習慣の見直しを行うことが必要となります。発達過程にある子ども達が、正しい知識を持ち実践できるよう保健対策を実施し、健康的な生活が送れるよう支援してまいります。
- 小中学生における歯肉炎予防には、口腔衛生の習慣化が不可欠です。児童生徒自身が、歯と口腔の健康づくりの重要性を理解し、保健行動に取り組めるような意識の啓発と環境づくりが必要となります。
- 学校で取り組む歯と口腔の健康づくりを効果的に支援すべく、歯科保健指導や健康教育を継続して実施してまいります。

(基本施策4) 介護・認知症予防対策(高年期)

健康教室の実施、講座の受講者数いずれも増加しています。

指標	平成28年度 策定時	令和3年度 中間値	令和8年度 目標値	判定
認知症・介護予防に関する健康教室の実施	125回	142回	170回	○
認知症サポーター養成講座受講者数	3,383人	5,884人	9,200人	○

〈今後の課題と取り組み〉

- 認知症・介護予防に関する健康教室、認知症サポーター養成講座受講者数のいずれも、平成28年度策定時に比べ、令和3年度は増加しています。今後は、特に75歳以上の後期高齢者の大幅な増加が見込まれる中、認知症の更なる周知啓発や理解促進、また効果的な介護予防教室を継続的に開催するなど、高齢になっても認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでまいります。

【基本目標3】 地域の支えあいによる健康づくりを推進します

(基本施策1) 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

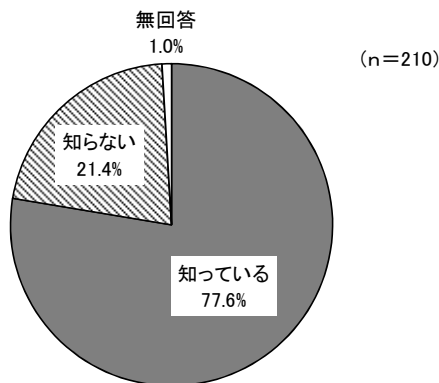
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる母親の割合、この地域で子育てをしたいと思う親の割合いずれも目標値に達しています。育児について相談相手がいる割合、育てにくさを感じた時に相談先や解決方法を知っている親の割合は増加しています。これに対し、子どもを虐待していると思う親の割合は増加しています。

指標	平成28年度 策定時	令和3年度 中間値	令和8年度 目標値	判定
育児について相談相手がいる割合	98.5%	99.3%	100%	△
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる母親の割合	69.1%	79.9%	72.8%	◎
育てにくさを感じた時に相談先や解決方法を知っている親の割合	1歳6か月児	72.5%	79.6%	○
	3歳児	73.4%	85.3%	○
この地域で子育てをしたいと思う親の割合	88.8%	97.0%	95%	◎
子どもを虐待していると思う親の割合	1.2%	18.2%	0%	×

(1) 健康意識調査結果

- ① 市の保健師、栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士に、個別で健康や育児の相談ができることを知っているか

「知っている」77.6%、「知らない」21.4%となっています。



【健診を受けた子ども別】

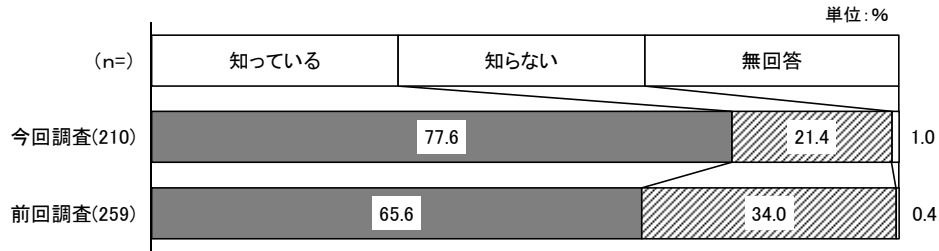
「知っている」は、2人目以上は8割を超えますが、1人目は71.6%にとどまります。

単位: %

		(n)	知っている	知らない	無回答
を今 受回 けた 健診 子ども	1人目	115	71.3	27.0	1.7
	2人目	64	84.4	15.6	0.0
	3人目	25	88.0	12.0	0.0
	4人目以上	5	80.0	20.0	0.0

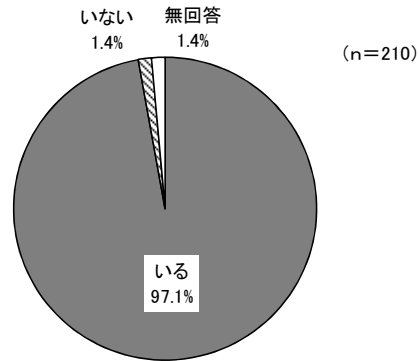
◆ 前回調査との比較

「知っている」は、前回調査 65.6%を 10 ポイント以上上回ります。



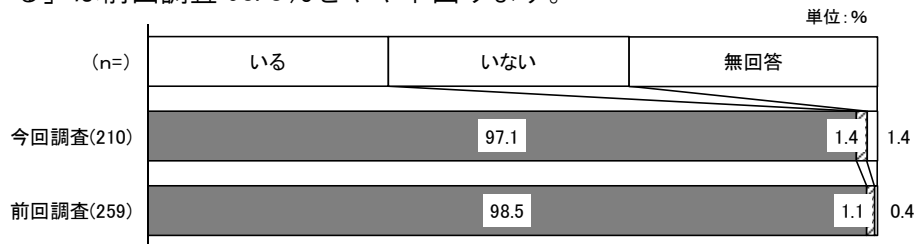
② 育児の相談相手の有無

「いる」97.1%、「いない」1.4%となっています。



◆ 前回調査との比較

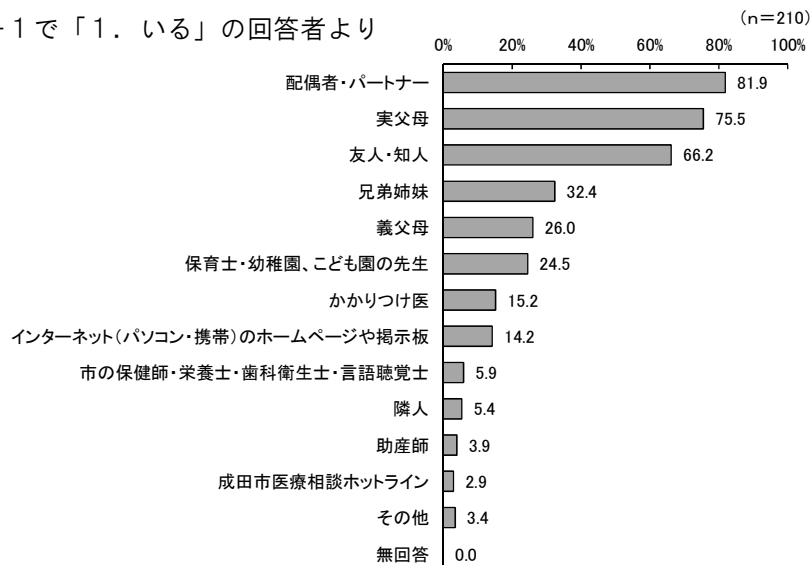
「いる」は前回調査 98.5%をやや下回ります。



②-1 相談相手や手段

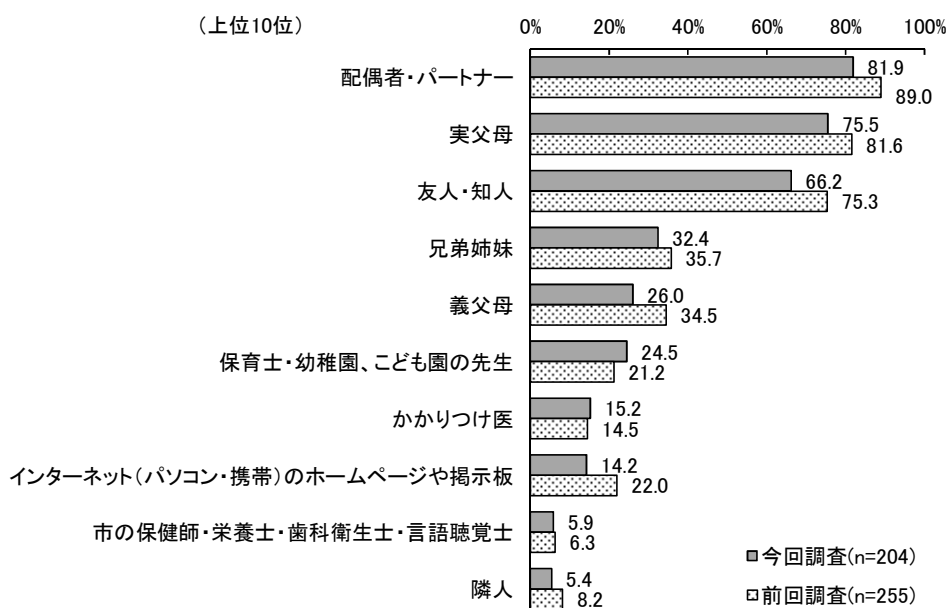
「配偶者・パートナー」81.9%、「実父母」75.5%、「友人・知人」66.2%、「兄弟姉妹」32.4%などとなっています。

※ ②-1で「1. いる」の回答者より



◆ 前回調査との比較

「配偶者・パートナー」「実父母」「友人・知人」「義父母」「インターネット（パソコン・携帯）のホームページや掲示板」など多くの項目で前回調査を下回ります。



(2) 今後の課題と取り組み

- 育児について相談相手がいる割合について、令和3年度は平成28年度より微増となっていますが、目標値の100%に至っていません。また、市の専門職に個別で相談できることを知らない方の割合は約2割となっています。
- 出産・子育て応援事業の開始に伴い、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ「伴走型相談支援」を既存の取り組みを活かしながら、さらに充実していきます。その例として、母子健康手帳交付や幼児健診の際などに、対象者の相談相手の有無について確認し、市の相談事業について案内を徹底していく必要があります。
- 子どもを虐待していると思う親の割合について、令和3年度は平成28年度より増加していますが、昨今のニュースなどから虐待の認知度が上がっていることや、核家族化により育児協力者を得にくいこと、共働き家庭の増加により十分な育児時間を確保することが難しいことから、親が育児ストレスを抱え込みやすいと考えられます。
- 伴走型相談支援をさらに充実していくことや、親子のコミュニケーション講座など必要なサービスを案内することで、地域で子育てしていくための体制整備に努めます。

(3) 指標・目標値の見直し

○ 指標の見直し

指標		変更内容・理由												
変更前	子どもを虐待していると思う親の割合	<p>市の乳幼児健診等で実施するアンケートにおける設問（国の「健やか親子21（第2次）」において必須とする設問項目）において、「しつけのし過ぎ」「感情的に叩く」等の選択肢を回答した者を分子に置き、指標の割合を算出していましたが、指標と設問内容が一致していないことから、「体罰や暴言、ネグレクト等によらない子育てをしている親の割合」へ変更し、当該アンケートにおいて「いずれにも該当しない」と回答した者を分子に置く算出方法に変更します。</p> <p>これに併せて、国の「健やか親子21（第2次）」に基づき以下の目標値を新たに設定します。</p> <table border="1" data-bbox="740 1106 1401 1314"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>現状値 (令和3年度)</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3・4か月児</td> <td>95.5%</td> <td>98.0%</td> </tr> <tr> <td>1歳6か月児</td> <td>81.6%</td> <td>85.0%</td> </tr> <tr> <td>3歳児</td> <td>68.4%</td> <td>70.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	現状値 (令和3年度)	目標値	3・4か月児	95.5%	98.0%	1歳6か月児	81.6%	85.0%	3歳児	68.4%	70.0%
対象	現状値 (令和3年度)		目標値											
3・4か月児	95.5%	98.0%												
1歳6か月児	81.6%	85.0%												
3歳児	68.4%	70.0%												
変更後	乳幼児期に体罰や暴言、ネグレクト等によらない子育てをしている親の割合													

(基本施策2) 継続的な健康づくりに取り組むための地域づくり

ボランティア活動に関心のある人の割合、活動実績、地区保健推進員の活動回数、いずれも減少しています。

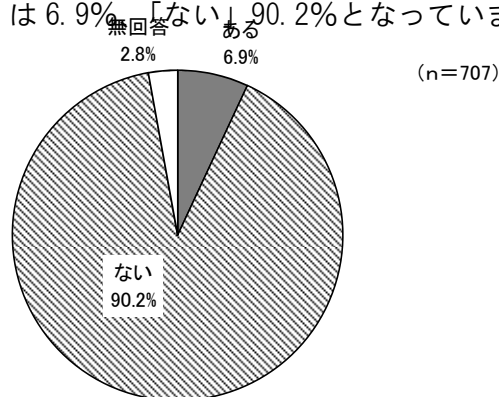
指標	平成28年度 策定時	中間値	令和8年度 目標値	判定
健康に関するボランティア活動に関心のある人の割合（活動したい・できれば活動したい人の計）	40.9%	29.2% （令和4年度）	増加	×
「健康ぼらんていあ」の活動実績	157回	78回 （令和3年度）	増加	×
地区保健推進員活動回数	67回	27回 （令和3年度）	増加	×
居住地域でお互い助け合っていると思う人の割合※	40.0%	—	増加	—

※ 中間値がなく、現時点で評価を行うことができませんでした。

(1) 健康意識調査結果

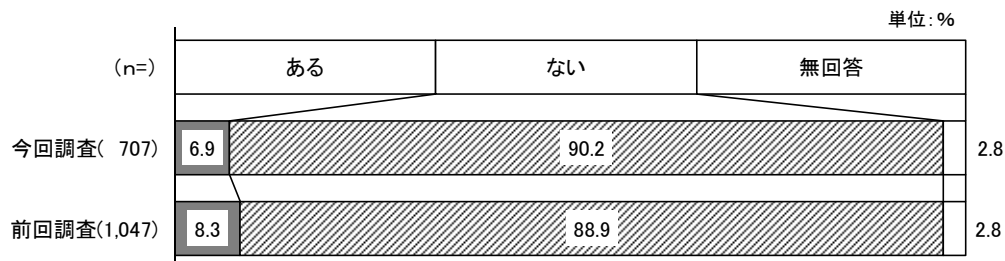
① 健康に関するボランティア活動

活動をしたことが「ある」は6.9%、「ない」90.2%となっています。



◆ 前回調査との比較

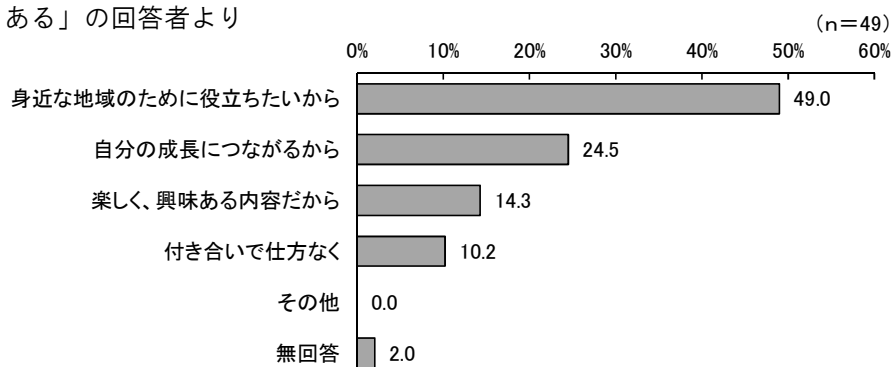
「ある」が減り、「ない」が増えています。



①-1 ボランティア活動への参加理由

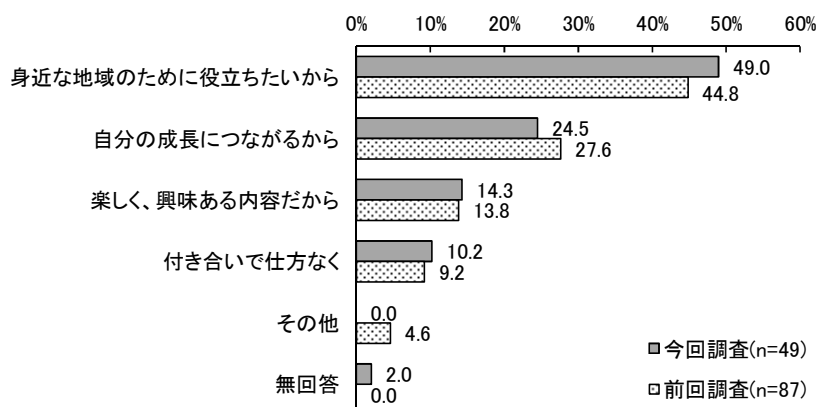
「身近な地域のために役立ちたいから」49.0%、「自分の成長につながるから」24.5%、「楽しく、興味ある内容だから」14.3%、「付き合いで仕方なく」10.2%となっています。

※ ①で「1. ある」の回答者より



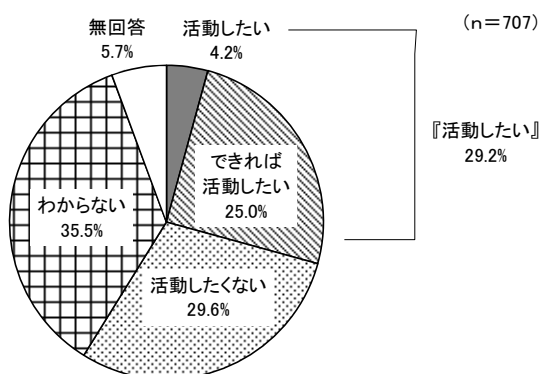
◆ 前回調査との比較

「身近な地域のために役立ちたいから」が増えています。



① - 2 ボランティア活動への参加意向

「活動したい」4.2%、「できれば活動したい」25.0%を合わせた『活動したい』は29.2%、「活動したくない」29.6%と『活動したい』は同程度となっています。「わからない」は35.5%です。



【年代別】

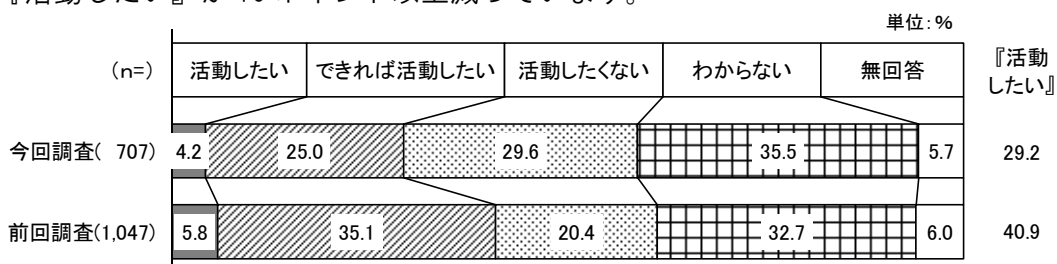
『活動したい』は20代が46.3%と他の年代を上回ります。

単位: %

		(n)	活動したい	できれば活動したい	活動したくない	わからない	無回答	『活動したい』
年代別	20代	54	5.6	40.7	29.6	24.1	0.0	46.3
	30代	83	3.6	25.3	34.9	36.1	0.0	28.9
	40代	121	0.8	20.7	27.3	48.8	2.5	21.5
	50代	96	7.3	28.1	27.1	35.4	2.1	35.4
	60代	123	8.9	22.8	28.5	35.8	4.1	31.7
	70歳以上	227	2.2	23.3	30.8	30.4	13.2	25.5

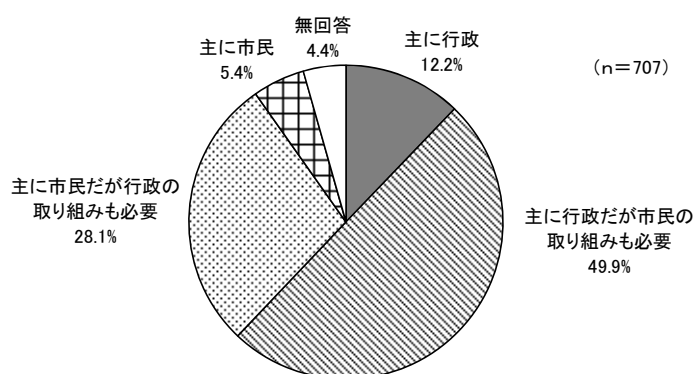
◆ 前回調査との比較

『活動したい』が10ポイント以上減っています。



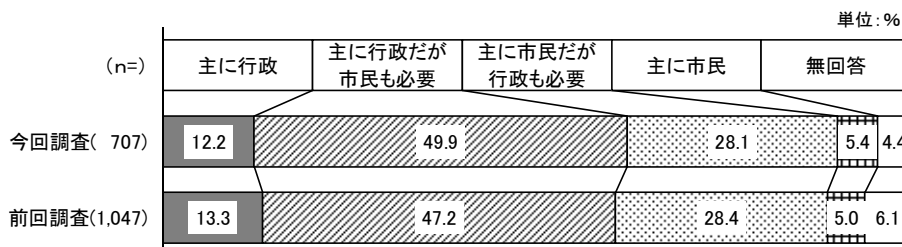
② 健康づくりの推進主体で望ましいもの

「主に行政だが市民の取り組みも必要」49.9%、「主に市民だが行政の取り組みも必要」28.1%、「主に行政」12.2%、「主に市民」5.4%となっています。



◆ 前回調査との比較

「主に行政だが市民の取り組みも必要」「主に市民」が増えています。



(2) 今後の課題と取り組み

○ 健康に関するボランティア活動について、活動をしたことが「ある」が6.9%と少なく、「ない」が90.2%となっています。健康に関するボランティア活動に関心のある人の割合や健康ボランティア活動実績、地区保健推進員活動回数が前回調査と比較し減っています。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた可能性がありますが、健康に関するボランティア活動については、市民の継続的な健康づくりにつながるため、健康ぼらんていあ事業や健康づくりマイレージ事業について広報等で情報提供し、地区保健推進員や健康ぼらんていあなど地域のボランティア活動を推進していくことが必要となります。

【基本目標4】 健康を支える環境を整えます

(基本施策1) 地域医療の推進

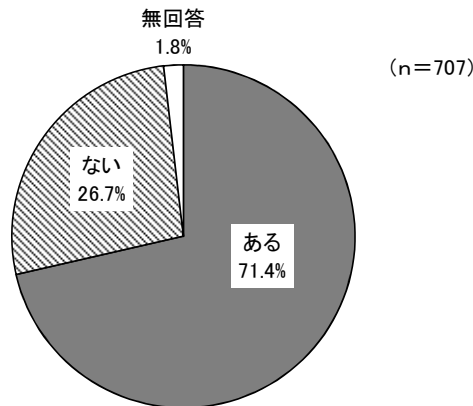
小児救急相談を知っている親の割合、在宅医療・介護連携支援センターの設置いずれも目標値を達成しています。かかりつけ医をもつ人や親の割合、かかりつけ歯科医をもつ人や親の割合いずれも増加となっています。

指標	平成28年度 策定時	中間値	令和8年度 目標値	判定
かかりつけ医をもつ人の割合	67.4%	71.4% (令和4年度)	増加	○
かかりつけ医をもつ親の割合(3歳児)	73.0%	84.7% (令和3年度)	増加	◎
かかりつけ歯科医をもつ人の割合	70.8%	76.9% (令和4年度)	増加	○
かかりつけ歯科医をもつ親の割合(3歳児)	38.2%	42.3% (令和3年度)	増加	○
小児救急相談(#8000)を知っている親の割合	76.0%	91.7% (令和3年度)	90%	◎
在宅医療・介護連携支援センターの設置	0施設	1施設 (令和3年度)	1施設	◎

(1) 健康意識調査結果

① かかりつけ医の有無

「ある」71.4%が「ない」26.7%を大きく上回ります。



【性別】

「ある」は女性73.4%が男性68.5%を上回ります。

【年代別】

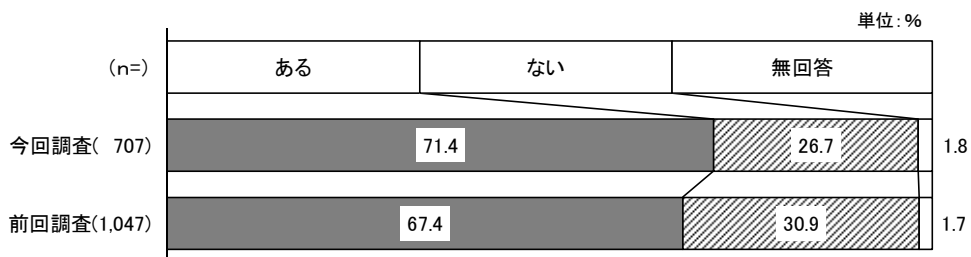
「ある」は70歳以上が85.9%と最も多く、年齢とともに多くなる傾向にあります。

単位：%

		(n)	ある	ない	無回答
性別	男性	305	68.5	30.2	1.3
	女性	395	73.4	24.6	2.0
年代	20代	54	50.0	50.0	0.0
	30代	83	59.0	39.8	1.2
	40代	121	66.9	31.4	1.7
	50代	96	63.5	32.3	4.2
	60代	123	72.4	25.2	2.4
	70歳以上	227	85.9	12.8	1.3

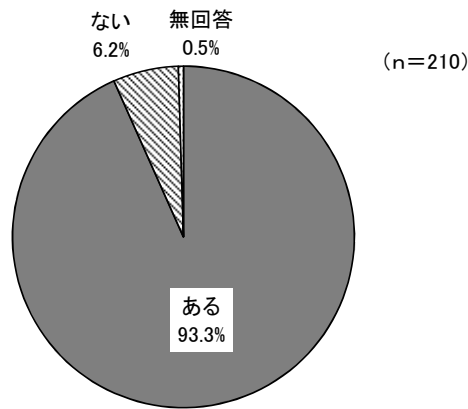
◆ 前回調査との比較

「ある」は、前回調査 67.4%をやや上回ります。



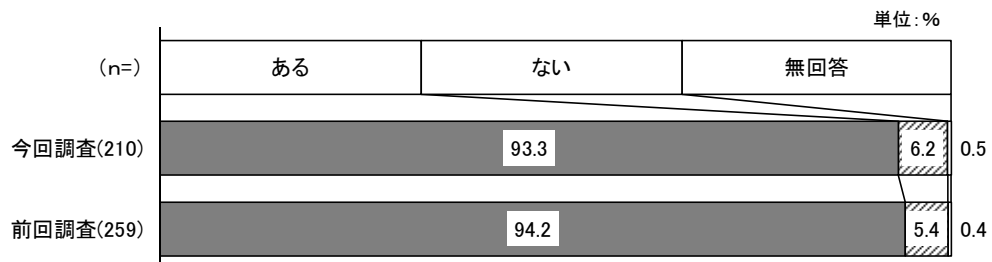
② 子どものかかりつけ医の有無

「ある」93.3%、「ない」6.2%となっています。



◆ 前回調査との比較

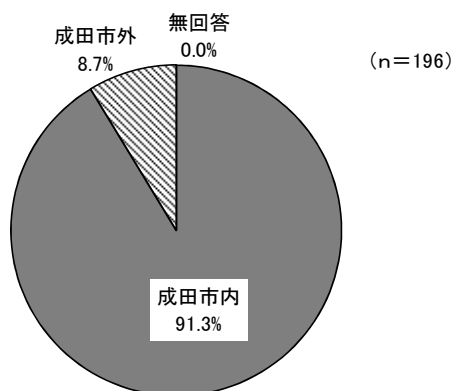
前回調査とほぼ同じとなっています



②-1 子どものかかりつけ医のいる医療機関の場所

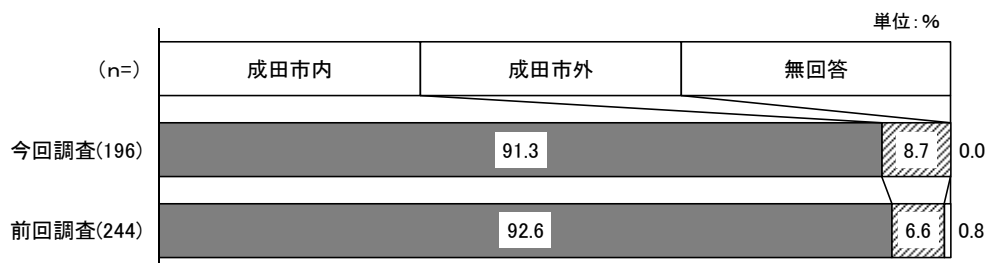
「成田市内」91.3%、「成田市外」8.7%となっています。

※ ①で「1. ある」の回答者より



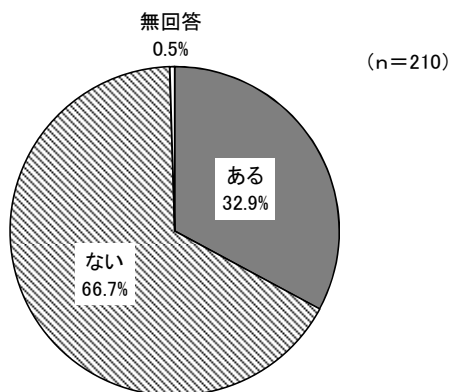
◆ 前回調査との比較

「成田市外」は前回調査6.6%をやや上回ります。



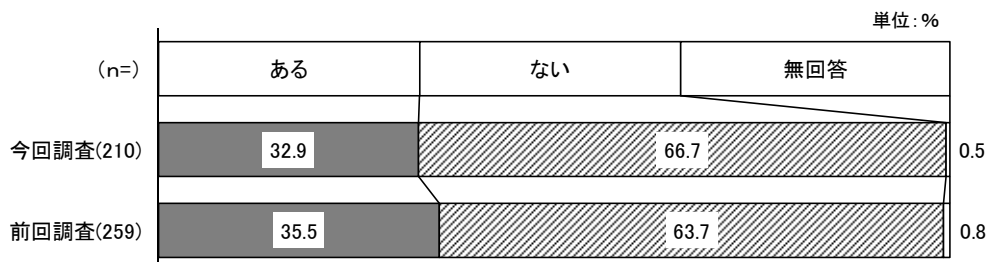
③ 子どものかかりつけ歯科医の有無

「ある」32.9%、「ない」66.7%となっています。



◆ 前回調査との比較

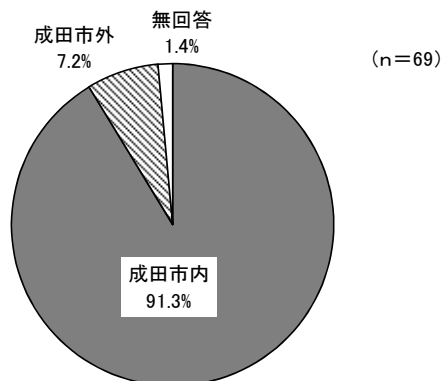
「ある」は前回調査35.5%をやや下回り、「ない」は前回調査63.7%をやや上回ります。



③-1 子どものかかりつけ歯科医のいる歯科医院の場所

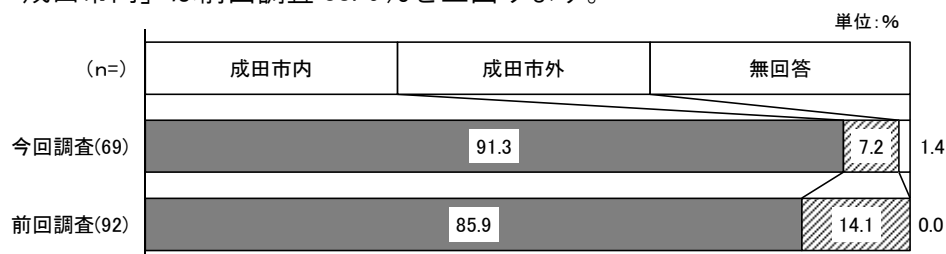
「成田市内」91.3%、「成田市外」7.2%となっています。

※ ②で「1. ある」の回答者より



◆ 前回調査との比較

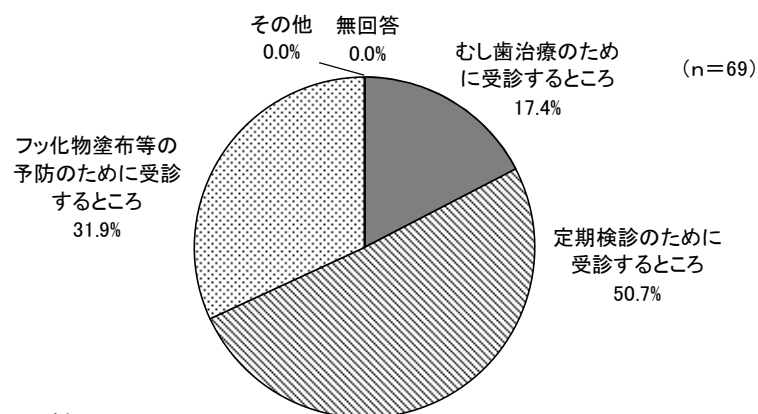
「成田市内」は前回調査 85.9%を上回ります。



③-2 子どもにとってのかかりつけ歯科医とは

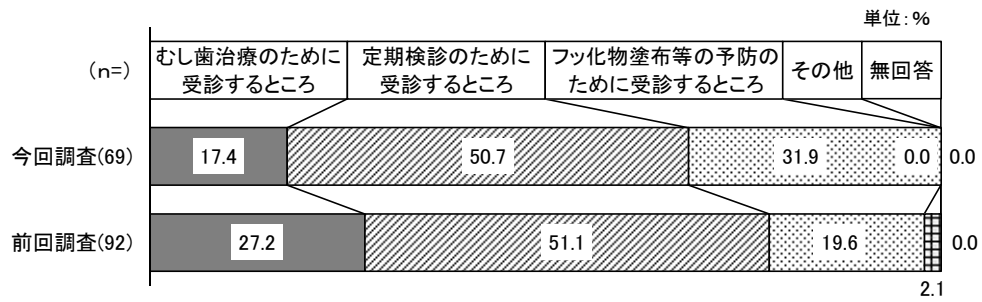
「定期検診のために受診するところ」50.7%、「フッ化物塗布等の予防のために受診するところ」31.9%、「むし歯治療のために受診するところ」17.4%となっています。

※ ②で「1. ある」の回答者より



◆ 前回調査との比較

「フッ化物塗布等の予防のために受診するところ」は前回調査 19.6%を 10 ポイント以上上回ります。



(2) 今後の課題と取り組み

- かかりつけ歯科医をもつ親の割合(3歳児)については、増加していますが目標値へは到達していません。目標値を是正し、増加に向けた取り組みを検討します。
- 居住地区やライフステージを問わず、歯と口腔に関わる保健、医療、福祉に係るサービスを受けることが出来るよう、情報提供や関連機関等との連携による支援体制の構築などに努めます。

(基本施策2) 健康づくりに関する社会資源の整備

健康教育の実施回数、医療相談ホットライン^{※1}の利用回数とも増加しています。教育相談員^{※2}の配置学校数は横這いです。

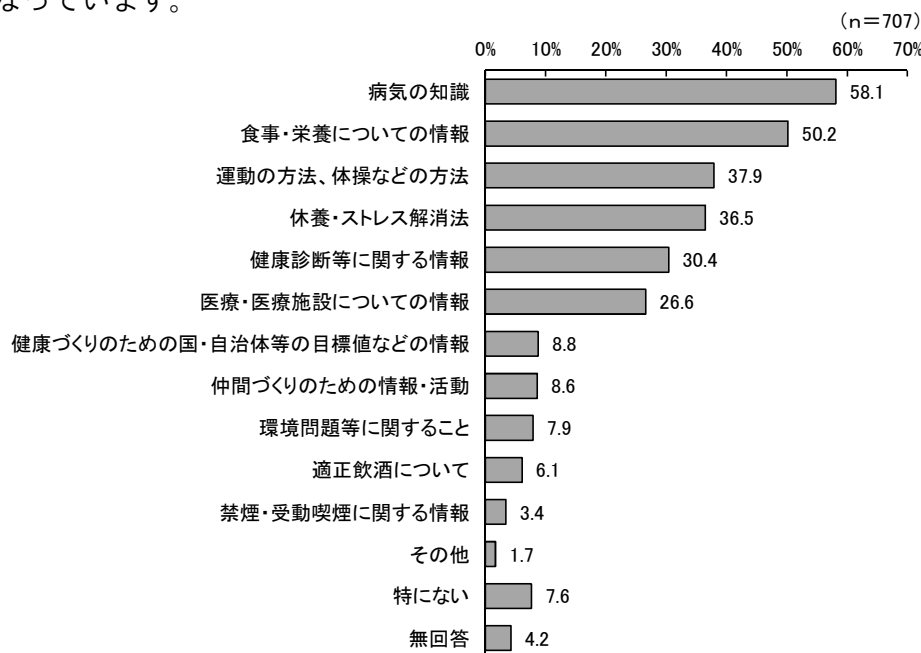
指標	平成28年度 策定時	令和3年度 中間値	令和8年度 目標値	判定
健康教育の実施回数	96回	117回	150回	○
医療相談ホットライン ^{※1} の利用回数	9,180件	9,434件	増加	△
教育相談員の配置学校数	12校	12校	17校	△

※1 フリーダイヤルにより健康、医療、介護、育児、メンタルヘルスなどの相談に、医師や保健師等が、24時間年中無休でアドバイスを行う電話相談（フリーダイヤル）

(1) 健康意識調査

① 健康づくりに必要な情報の内容

「病気の知識」58.1%、「食事・栄養についての情報」50.2%、「運動の方法、体操などの方法」37.9%、「休養・ストレス解消法」36.5%、「健康診断等に関する情報」30.4%などの順となっています。



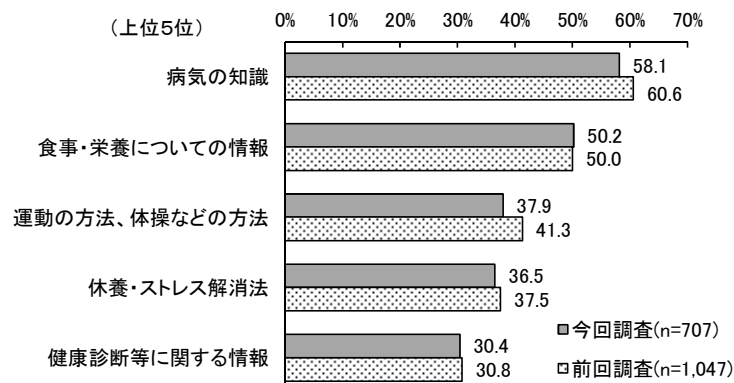
【性・年代別】

「病気の知識」は、男性の30代を除くすべての年代、女性の50代以上の年代で最も多くあげられています。男性の30代は「休養・ストレス解消法」が最も多く、20代でも「病気の知識」と同率であげられています。女性の20代から40代までは「食事・栄養についての情報」が最も多くあげられています。

	(n)	病気の知識	食事・栄養についての情報	運動の方法、体操などの方法	休養・ストレス解消法	健康診断等に関する情報	医療・医療施設についての情報	国・自治体等の目標値などの情報	健康づくりのための情報・活動	仲間づくりのための情報・活動	環境問題等に関すること	適正飲酒について	禁煙・受動喫煙に関する情報	その他	特になし	無回答
性・年代別	男性-20代	22	54.5	45.5	45.5	54.5	18.2	18.2	4.5	18.2	4.5	9.1	4.5	0.0	4.5	0.0
	男性-30代	26	57.7	50.0	46.2	61.5	15.4	23.1	7.7	3.8	11.5	7.7	3.8	0.0	7.7	0.0
	男性-40代	44	59.1	38.6	34.1	38.6	38.6	13.6	6.8	4.5	0.0	11.4	2.3	0.0	13.6	4.5
	男性-50代	38	65.8	42.1	26.3	39.5	23.7	15.8	13.2	10.5	5.3	21.1	5.3	0.0	13.2	2.6
	男性-60代	59	61.0	49.2	28.8	23.7	28.8	18.6	6.8	6.8	6.8	13.6	6.8	1.7	5.1	5.1
	男性-70歳以上	115	54.8	39.1	25.2	20.0	30.4	27.0	8.7	4.3	10.4	10.4	2.6	2.6	9.6	10.4
	女性-20代	32	56.3	65.6	46.9	50.0	50.0	34.4	9.4	0.0	3.1	0.0	6.3	0.0	9.4	3.1
	女性-30代	57	43.9	66.7	40.4	42.1	38.6	29.8	10.5	7.0	3.5	5.3	5.3	1.8	10.5	0.0
	女性-40代	75	57.3	60.0	46.7	49.3	33.3	30.7	8.0	8.0	4.0	1.3	0.0	1.3	1.3	0.0
	女性-50代	58	60.3	55.2	48.3	51.7	31.0	31.0	3.4	10.3	12.1	1.7	3.4	1.7	8.6	0.0
	女性-60代	64	62.5	53.1	43.8	37.5	28.1	34.4	9.4	14.1	10.9	0.0	1.6	3.1	1.6	6.3
	女性-70歳以上	109	63.3	47.7	40.4	26.6	26.6	29.4	12.8	13.8	12.8	0.9	3.7	2.8	8.3	5.5

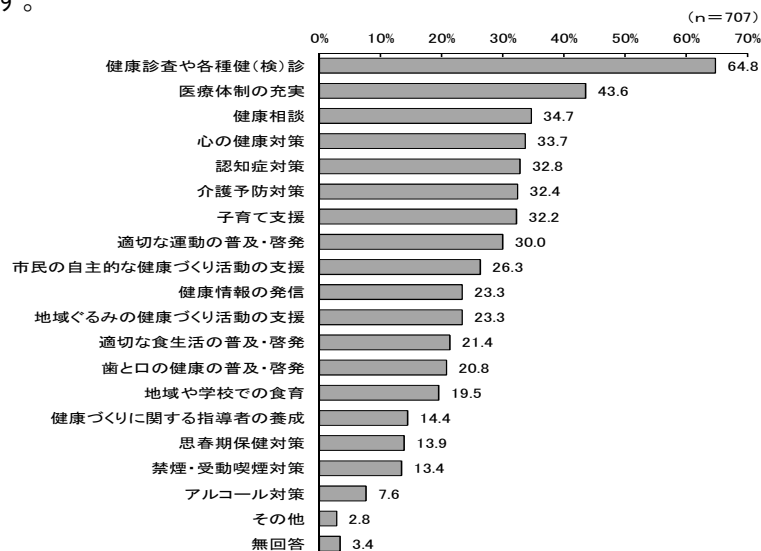
◆前回調査との比較

前回調査と上位5位は同じですが、「食事・栄養についての情報」を除いてやや減っています。



② 健康なまちづくりのために力を入れるべき行政の取り組み

「健康診査や各種健（検）診」64.8%、「医療体制の充実」43.6%、「健康相談」34.7%、「心の健康対策」33.7%、「認知症対策」32.8%、「介護予防対策」32.4%、「子育て支援」32.2%などとなっています。



【性・年代別】

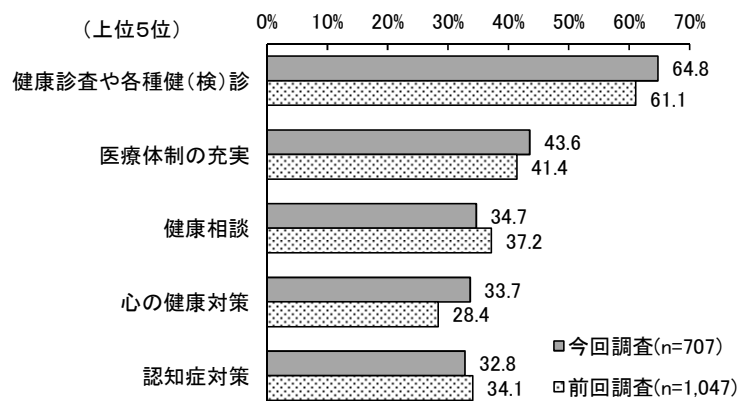
男性 20 代、30 代のみ最も多いのは「子育て支援」となっています。

単位：%

	(n)	健康診査や各種健(検)診	医療体制の充実	健康相談	心の健康対策	認知症対策	介護予防対策	子育て支援	適切な運動の普及・啓発	市民の自主的な健康づくり活動の支援	健康情報の発信	地域ぐるみの健康づくり活動の支援	適切な食生活の普及・啓発	歯と口の健康の普及・啓発	地域や学校での食育	健康づくりに関する指導者の養成	思春期保健対策	禁煙・受動喫煙対策	アルコール対策	その他	無回答	
性・年代別	男性-20代	22	40.9	36.4	27.3	31.8	18.2	9.1	45.5	18.2	22.7	27.3	13.6	9.1	22.7	13.6	4.5	18.2	4.5	4.5	0.0	
	男性-30代	26	38.5	38.5	26.9	34.6	23.1	34.6	50.0	26.9	23.1	11.5	15.4	15.4	26.9	15.4	3.8	15.4	3.8	3.8	0.0	
	男性-40代	44	72.7	50.0	31.8	29.5	34.1	31.8	43.2	27.3	18.2	20.5	18.2	13.6	18.2	15.9	11.4	18.2	11.4	4.5	2.3	
	男性-50代	38	57.9	52.6	21.1	34.2	28.9	28.9	31.6	15.8	15.8	7.9	15.8	10.5	13.2	23.7	5.3	10.5	10.5	5.3	2.6	2.6
	男性-60代	59	67.8	45.8	40.7	27.1	30.5	30.5	18.6	25.4	32.2	25.4	11.9	18.6	10.2	11.9	11.9	8.5	10.2	6.8	5.1	1.7
	男性-70歳以上	115	67.0	34.8	33.9	25.2	27.8	25.2	13.9	33.9	35.7	20.9	29.6	23.5	17.4	7.8	13.9	7.8	9.6	5.2	2.6	7.0
	女性-20代	32	75.0	46.9	28.1	53.1	40.6	31.3	65.6	21.9	9.4	34.4	9.4	18.8	25.0	31.3	6.3	18.8	12.5	3.1	3.1	0.0
	女性-30代	57	84.2	49.1	50.9	47.4	33.3	33.3	61.4	31.6	36.8	29.8	24.6	28.1	26.3	40.4	15.8	31.6	24.6	8.8	3.5	0.0
	女性-40代	75	72.0	42.7	40.0	33.3	30.7	29.3	46.7	22.7	24.0	18.7	21.3	13.3	24.0	30.7	14.7	22.7	16.0	10.7	0.0	0.0
	女性-50代	58	65.5	44.8	36.2	37.9	36.2	37.9	27.6	27.6	20.7	27.6	20.7	22.4	29.3	20.7	15.5	10.3	12.1	6.9	3.4	1.7
	女性-60代	64	56.3	50.0	29.7	40.6	39.1	46.9	28.1	40.6	25.0	25.0	31.3	31.3	20.3	18.8	17.2	12.5	14.1	12.5	1.6	3.1
	女性-70歳以上	109	57.8	41.3	32.1	28.4	37.6	36.7	18.3	37.6	25.7	24.8	32.1	25.7	21.1	15.6	21.1	9.2	9.2	6.4	2.8	9.2

◆ 前回調査との比較

「健康診査や各種健(検)診」「医療体制の充実」「心の健康対策」の増加に対し、「健康相談」「認知症対策」は減っています。



(2) 今後の課題と取り組み

- 市民が家族や自己の健康に対する不安を解消できるよう「わが家の健康づくりカレンダー」や市の広報、ホームページなどにより「医療相談ほっとライン」の周知をしていくことが必要となります。
- 健康なまちづくりのために力を入れるべき行政の取り組みで「健康診査や各種健(検)診」が最も多くなっています。健康維持、病気の早期発見のため、健康診査や各種健(検)診の受けやすい方法の改善に努め、周知していくことが必要となります。
- 教育相談員は、市内小学校を拠点として12校に配置し、拠点校以外の小学校には、

月1回（8月を除く）訪問できるようにしています。

- 市独自で配置している教育相談員は、児童やその保護者、教職員からのニーズも高く、家庭と学校をつなぐ役割もしています。
- これまでスクールカウンセラーは、中学校に全校配置され、今年度より小学校へも全校配置されていますが、小学校に全校配置されたものの、月1回もしくは、2回の勤務となっています。
- 今後は、スクールカウンセラーの配置、勤務日数より、教育相談員の配置を検討し、教育相談体制の充実を図っていきます。

成田市保健福祉審議会設置条例

平成10年9月29日

条例第25号

改正 平成21年3月25日条例第12号

(設置)

第1条 本市の保健福祉施策の総合的かつ計画的運営に関する事項を調査審議するため、成田市保健福祉審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項を調査審議し、市長に答申する。

- (1) 保健、医療及び福祉施策に係る長期計画等に関すること。
- (2) 保健、医療及び福祉施策の推進及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、保健、医療及び福祉施策に関し、市長が必要と認める事項。

(組織等)

第3条 審議会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 保健、医療及び福祉関係者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(臨時委員)

第5条 市長は、特定事項を調査審議するために必要があると認めるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

2 臨時委員の任期は、当該特定事項の調査審議期間とする。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 会議は、委員（臨時委員を含む。）の過半数の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 審議会は、必要に応じて関係者等の出席を求め、参考意見又は説明を聴取することができる。

(部会)

第7条 審議会は、必要に応じて部会を置くことができる。

- 2 部会は、会長が指名する委員及び臨時委員をもって組織する。
- 3 部会に部会長を置き、部会に属する委員及び臨時委員の互選により定める。
- 4 部会長は、部会の事務を掌理する。
- 5 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代理する。
- 6 前条の規定は、部会の会議について準用する。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、福祉計画主管課において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
(特別職の職員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員等の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第19号)の一部を次のように改正する。

別表第1中「地区計画建築審議会」の次に「保健福祉審議会」を加える。

附 則(平成21年3月25日条例第12号)

この条例は、平成21年4月1日から施行する。

成田市保健福祉審議会委員名簿

任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

No	区 分	氏 名	役 職	備考
1	識見を有する者	長沢 光章	国際医療福祉大学 成田保健医療学部長	会長
2	識見を有する者	杉原 文哉	公募	
3	識見を有する者	小林 ちえみ	公募	
4	保健医療福祉関係者	小松 泰亮	学校法人杉田学園 はくと幼稚園園長	
5	保健医療福祉関係者	高橋 知子	NPO法人 子どもプラザ成田	
6	保健医療福祉関係者	根本 明久	成田市医師団副団長	
7	保健医療福祉関係者	野内 一嘉	印旛郡市歯科医師会成田地区代表	
8	保健医療福祉関係者	眞鍋 知史	成田市薬剤師会副会長	
9	保健医療福祉関係者	城 順子	成田市ボランティア連絡協議会運営委員	
10	保健医療福祉関係者	但野 澄子	成田市高齢者クラブ連合会副会長	
11	保健医療福祉関係者	時田 幸江	成田市福祉連合会会長	
12	保健医療福祉関係者	石田 雪絵	成田民間保育協議会会長	
13	保健医療福祉関係者	高野 ふみ江	成田市民生委員児童委員	
14	保健医療福祉関係者	山田 三雄	成田市社会福祉協議会会長	副会長
15	保健医療福祉関係者	飯田 政則	成田市介護保険事業者連絡協議会	

(順不同・敬称略)

成田市健康増進計画策定委員設置要綱

(設置)

第1条 成田市健康増進計画の策定に関し調査・検討を行うため、成田市健康増進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は別表1に定める者をもって組織する。

- 2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長に健康こども部長を充て、副委員長に福祉部長をもってこれに充てる。
- 3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。
- 4 委員長は会務を統括し、委員会を主宰し、会議を招集する。

(各部課等の協力)

第3条 委員会の目的達成のために各部課等は積極的に協力を行うとともに、委員長の招集する会議に出席を求められたときは、各部課長等はそれぞれの会議に出席して意見を述べなければならない。

(事務局)

第4条 委員会に事務局を置き、健康増進課がこれに当たる。

- 2 事務局の事務は健康増進課が行う。

(委任)

第5条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

別表 1 健康増進計画策定委員

1	委員長	健康こども部長
2	副委員長	福祉部長
3		企画政策課長
4		保険年金課長
5		社会福祉課長
6		高齢者福祉課長
7		障がい者福祉課長
8		介護保険課長
9		子育て支援課長
10		保育課長
11		農政課長
12		教育指導課長
13		スポーツ振興課長
14		健康増進課長

成田市健康増進計画中間評価報告書

発行 成田市
編集 健康こども部 健康増進課
〒286-0017
成田市赤坂1丁目3-1
TEL 0476-27-1111
FAX 0476-27-1114
E-mail
kenko@city.narita.chiba.jp
発行日 令和5年3月
登録番号 成健 22-055
